武蔵野美術大学造形学部通信教育課程

2021 年度 シラバス 学2課程

学生ハンドブック　はじめに読んでください。

↓

履修ガイドブック　履修登録の際によく読んでください。

↓

シ　ラ　バ　ス　授業科目の概要をまとめたものです。履修登録の参考にしてください。
履修登録後は、教科書・学習指導書等の教材に基づいて学習を進めてください。

Syllabus 2021

Correspondence Course, College of Art and Design, Musashino Art University

目次

授業コード　授業科目名　ページ

文化総合科目 …… 7

2530 レポート入門 I …… 8
2540 レポート入門 II …… 9
0030 コンピュータリテラシー I …… 10
0040 コンピュータリテラシー II …… 11
2140 カメラリテラシー …… 12
2470 美術入門 …… 13
2480 デザイン入門 …… 14
0050 文学 …… 15
0060 歴史学 …… 16
0070 哲学 …… 17
0080 社会学 …… 18
0090 経済学 …… 19
0100 憲法 …… 20
0110 民俗学 …… 21
0120 心理学 …… 22
0150 色彩学 …… 23
0160 コミュニケーション論 …… 24
0170 著作権法 …… 25
0180 音楽論 …… 26
0130 数学 …… 27
0140 生物学 …… 28
0190 物理学 …… 29
0200 自然科学概論 …… 30
0210 英語 I …… 31
0220 英語 II …… 32
0230 英語 III …… 33
2160 フランス語初級 …… 34
2170 フランス語中級 …… 35
2180 フランス語上級 …… 36
0260 健康と身体運動文化 I （フィットネス） …… 37
0270 健康と身体運動文化 II （フィットネス）
0280 健康と身体運動文化 III （フィットネス）
0290 健康と身体運動文化 IV （フィットネス）
0260 健康と身体運動文化 I （テニス）第 1 期 …… 38
0270 健康と身体運動文化 II （テニス）第 1 期
0280 健康と身体運動文化 III （テニス）第 1 期
0290 健康と身体運動文化 IV （テニス）第 1 期
0260 健康と身体運動文化 I （護身武術）第 2 期 …… 39
0270 健康と身体運動文化 II （護身武術）第 2 期
0280 健康と身体運動文化 III （護身武術）第 2 期
0290 健康と身体運動文化 IV （護身武術）第 2 期

授業コード　授業科目名　ページ

0260 健康と身体運動文化 I （バドミントン）第 1 期 …… 40
0270 健康と身体運動文化 II （バドミントン）第 1 期
0280 健康と身体運動文化 III （バドミントン）第 1 期
0290 健康と身体運動文化 IV （バドミントン）第 1 期
0260 健康と身体運動文化 I （バドミントン）冬期 …… 41
0270 健康と身体運動文化 II （バドミントン）冬期
0280 健康と身体運動文化 III （バドミントン）冬期
0290 健康と身体運動文化 IV （バドミントン）冬期
0260 健康と身体運動文化 I （ダンス）第 2 期 …… 42
0270 健康と身体運動文化 II （ダンス）第 2 期
0280 健康と身体運動文化 III （ダンス）第 2 期
0290 健康と身体運動文化 IV （ダンス）第 2 期
0260 健康と身体運動文化 I （ゴルフ）第 2 期 …… 43
0270 健康と身体運動文化 II （ゴルフ）第 2 期
0280 健康と身体運動文化 III （ゴルフ）第 2 期
0290 健康と身体運動文化 IV （ゴルフ）第 2 期
0260 健康と身体運動文化 I （エチュード）冬期 …… 44
0270 健康と身体運動文化 II （エチュード）冬期
0280 健康と身体運動文化 III （エチュード）冬期
0290 健康と身体運動文化 IV （エチュード）冬期
0260 健康と身体運動文化 I （卓球）第 1 期、冬期 …… 45
0270 健康と身体運動文化 II （卓球）第 1 期、冬期
0280 健康と身体運動文化 III （卓球）第 1 期、冬期
0290 健康と身体運動文化 IV （卓球）第 1 期、冬期
0300 健康と体力研究 …… 46
0310 身体運動文化研究 …… 47
2290 美術の歴史と鑑賞 …… 48
0320 日本美術史 …… 49
0330 東洋美術史 …… 50
0340 西洋美術史 I …… 51
0350 西洋美術史 II …… 52
0360 建築史 …… 53
0370 デザイン史 …… 54
2190 演劇史 …… 55
0380 民芸論 …… 56
0390 美術論 …… 57
0400 現代芸術論 …… 58
0410 工芸論 …… 59
0420 印刷文化論 …… 60
0440 映像文化論 …… 61
0450 デザインマネージメント …… 62
0460 アートマネージメント …… 64
0470 情報社会倫理論 …… 65
0480 情報職業論 …… 66
0490 演劇空間論 …… 68
0500 工業技術概論 …… 69
2200 絵画空間論 …… 70

授業コード	授業科目名	ページ
0520	**美術解剖学**	71
2210	**日本画材料学**	72
0540	**ワークショップ研究 I**	73
0550	**ワークショップ研究 II**	74
1920	**絵画表現材料**	75
1930	**日本画表現入門**	76
1940	**デザイン論 I**	77

授業コード	授業科目名	ページ
造形総合科目		**79**
3760	**造形基礎 I**	80
2660	**造形基礎 IIA**	81
2670	**造形基礎 IIB**	82
2680	**造形基礎 IIIA**	83
2690	**造形基礎 IIIB**	84
3770	**造形基礎 IV**	85
2700	**デジタル造形基礎 I**	86
2710	**デジタル造形基礎 II**	87
2720	**デッサン A**	88
2730	**デッサン B**	89
2740	**デッサン表現**	90
2750	**絵画研究 IA**	91
2760	**絵画研究 IB**	92
2770	**絵画研究 IIA**	93
2780	**絵画研究 IIB**	94
2300	**絵画研究 III**	95
2790	**版表現 I**	96
2800	**版表現 II**	97
0640	**彫刻 I【塑造クラス】**	98
0640	**彫刻 I【木彫クラス】**	99
0650	**彫刻 II**	100
0660	**彫刻 III【塑造クラス】**	101
0660	**彫刻 III【木彫クラス】**	102
0670	**彫刻 IV**	103
2340	**彫刻 V【塑造クラス】**	104
2340	**彫刻 V【木彫クラス】**	105
0680	**工芸 I**	106
0690	**工芸 II**	107
2350	**ガラス基礎実習 I**	108
2360	**ガラス基礎実習 II**	109
2370	**テキスタイル基礎実習 I**	110
2380	**テキスタイル基礎実習 II**	111
2390	**金工基礎実習 I**	112
2400	**金工基礎実習 II**	113
2410	**陶磁基礎実習 I**	114
2420	**陶磁基礎実習 II**	115
2430	**木工基礎実習 I**	116
2440	**木工基礎実習 II**	117
0720	**デザイン I**	118
0730	**デザイン II**	119
0740	**ブックバインディング**	120
0750	**映像メディア表現 I**	121
0760	**映像メディア表現 II**	122
0770	**レタリング**	123
0780	**タイポグラフィ**	124
0790	**イラストレーション**	125
0800	**絵本**	126
0810	**パッケージデザイン**	127
0820	**ファッションデザイン**	128
0830	**図法製図 I**	129
0840	**図法製図 II**	130
0850	**マルチメディア基礎**	131
0890	**コンピュータ基礎 I**	132
0900	**コンピュータ基礎 II**	133
2490	**デジタルファブリケーション実習**	134
2810	**デザイン基礎 IA**	135
2820	**デザイン基礎 IB**	136
2830	**デザイン基礎 IIA**	137
2840	**デザイン基礎 IIB**	138
2850	**デザイン基礎 IIIA**	139
2860	**デザイン基礎 IIIB**	140
2870	**デザイン基礎 IVA**	141
2880	**デザイン基礎 IVB**	142

授業コード　授業科目名　ページ

学科別専門科目 ……143

油絵学科

・絵画表現コース

2890 絵画表現基礎 IA ……144
2900 絵画表現基礎 IB ……145
2910 絵画表現 IIIA ……146
2920 絵画表現 IIIB ……147
2930 絵画表現 IVA ……148
2940 絵画表現 IVB ……149
3030 絵画表現基礎 II ……150
3040 絵画表現基礎 III ……151
3050 絵画表現基礎 IV ……152

・日本画表現コース

3100 日本画基礎 I ……153
3110 日本画基礎 II ……154
3120 日本画基礎 IIIA ……155
3130 日本画基礎 IIIB ……156
3140 日本画基礎 IVA ……157
3150 日本画基礎 IVB ……158
3160 日本画基礎 V ……159
3250 日本画研究 I ……160
3260 日本画研究 II ……161
3270 日本画研究 III ……162

授業コード　授業科目名　ページ

芸術文化学科

・芸術研究コース

3280 芸術研究学 I ……163
3290 芸術研究リサーチ ……164
3300 芸術研究特殊講義 I ……165
3310 芸術研究学 II ……166
3320 芸術研究コンセプション ……167
3330 芸術研究特殊講義 II ……168

授業コード　授業科目名　ページ

デザイン情報学科

・デザイン総合コース

3420 デザイン総合研究 I ……169
3430 デザイン総合研究 II ……170
3440 デザイン総合研究 III ……171
3450 デザイン総合研究 IV ……172
3490 情報形成デザイン IA ……173
3500 情報形成デザイン IB ……174
3510 情報形成デザイン IIA ……175
3520 情報形成デザイン IIB ……176
3580 環境形成デザイン IA ……177
3590 環境形成デザイン IB ……178
3600 環境形成デザイン IIA ……179
3610 環境形成デザイン IIB ……180
3670 社会形成デザイン IA ……181
3680 社会形成デザイン IB ……182

授業コード　授業科目名　ページ

教職に関する科目 ……183

1640 美術教育法 I ……184
1650 美術教育法 II ……185
1660 美術教育法 III ……186
1670 美術教育法 IV ……187
1680 工芸教育法 I ……188
1690 工芸教育法 II ……189
1600 教育原理 I ……190
1590 教師論 ……191
1610 教育原理 II ……192
1620 教育心理学 ……193
1900 特別支援教育 ……194
1720 道徳教育の理論と方式 ……195
1910 総合的な学習の時間の指導法 ……196
1730 特別活動の理論と方法 ……197
1630 教育方法 ……198
1740 生活指導の理論と方法 ……199
1750 教育相談論 ……200
1770 教育実習 I ……201
1780 教育実習 II ……202
1790 / 2100 / 2110 教育実践の理論と方法 ……203
2270 教育実践演習（中・高） ……205
1800 介護等体験 ……206

文化総合科目

科目名	レポート入門 Ⅰ						
授業コード	2530	授業科目名	レポート入門 Ⅰ			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形文化科目／文化総合科目						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

通信教育課程での学修に必要なレポートの作成に関する基礎的な知識と能力を養う。大学におけるレポートの特性と要件、疑問からテーマへの展開、資料の探索と読解、論述のための表現と表記の形式、引用や典拠などレポートのルールとマナーなどについて学ぶ。特にルールやマナーの理解に重点を置く。

【課題の概要】

○メディア授業課題
引用ルールを中心に、重要事項の理解度を問う課題。

【授業計画】

○メディア授業
・前期（5月〜 8月）、後期（10月〜 1月）の年 2 回開講。
・各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
・全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
　開講時期や修了テストの予定については「メディア授業の受講にあたって」を参照すること。

（メディア授業の構成）
１回　レポートに取り組もう
２回　情報を集めよう
３回　資料を読み解こう
４回　問い掛けながら考えよう
５回　レポートを組み立てよう
６回　表現と表記を工夫しよう
７回　ルールとマナーを確認しよう
８回　仕上がりを追求しよう

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
インターネット接続環境があり、PC およびタブレット端末などで、本学 Web キャンパスに接続できること

○備　　考
履修年次は問わない。いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	レポート入門 Ⅱ						
授業コード	2540	授業科目名	レポート入門 Ⅱ			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目／文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

通信教育課程での学修に必要なレポートの作成に関する基礎的な知識と能力を養う。大学におけるレポートの特性と要件、疑問からテーマへの展開、資料の探索と読解、論述のための表現と表記の形式、引用や典拠などレポートのルールとマナーなどについて学ぶ。特に表現上のチェックポイントや文章の練り上げ方に重点を置く。

【課題の概要】

○面接授業課題
資料の読解と文章表現を中心に、重要事項の理解度を問う課題。

【授業計画】

○面接授業
１日目午前：大学におけるレポート、資料の探索ほか。
１日目午後：レポートの構成と文章表現ほか。
２日目午前：レポートのルールとマナーほか。

【成績評価の方法】

授業内レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	コンピュータリテラシー Ⅰ						
授業コード	0030	授業科目名	コンピュータリテラシー Ⅰ			担当者	清水恒平教授、小西俊也講師、須田拓也講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

コンピュータの使用が日常化し、通信教育の学習を進める上でもコンピュータやインターネットの利用が不可欠になりつつある。しかし、ただソフトウェアを使用しているだけでは、なかなかコンピュータの基本と知識についての正しい理解が難しいという側面もあるだろう。

この科目は、通信教育課程でコンピュータを利用していくことを念頭に置いた、コンピュータやインターネットの必要最低限の知識を学習する、導入的授業と位置づけられる。

面接授業ではコンピュータやインターネットの基本的な知識の講義と併せ、コンピュータでの作業の総合的トレーニングとして Web ページの制作を行う。その作業を通じ、コンピュータの基本的な知識の理解や一連の作業を体験することを目的とする。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストエディタを使用し、HTML を記述することで Web ページを作成する。

【授業計画】

○面接授業
講義と実習を織りまぜて授業を行う。

第 1 日　全日： コンピュータ（ハードウェアとソフトウェア）の仕組み、インターネットの仕組みの解説／通信教育課程の Web サイト（https://cc.musabi.ac.jp/）の紹介／インターネットのセキュリティやマナー、Web ページ作成方法の解説（HTML の書き方、文字、色、画像についての説明を含む）、および Web ページの作成
第 2 日　午前： Web ページの作成（続き）　提出・講評

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、入学初年度など、早い年次での履修が望ましい。
特に日常あまりコンピュータに触れる機会がなく、「コンピュータ基礎Ⅰ」や学1課程は「情報システム基礎Ⅰ・ⅠⅠ」、学2課程は「デザイン基礎ⅠⅠA・ⅠⅠB」の履修を考える学生は、これらの科目以前に履修することが望ましい。
スクーリングで使用するコンピュータは、Machintosh を予定している。
導入的授業なのでコンピュータ操作が不馴れな学生へのサポートは適宜行うが、基本的な用語や操作は理解しておけば授業内容の理解が容易である。マウスやキーボードの操作に不安のある学生は、入門者向けの書籍を参考に操作の練習を行うなどし、理解した上で授業に臨むこと。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	コンピュータリテラシー Ⅱ						
授業コード	0040	授業科目名	コンピュータリテラシー Ⅱ			担当者	清水恒平教授、松本亜実講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）						

【授業の概要と目標】

この科目では通信教育の学習過程において、今後コンピュータを利用したレポート作成や課題作成の有力な道具となる「Web 情報有効的活用」について理解することを目標とする。

また通信課程で取り組む多くの「学習レポート」の作成方法、「著作権の観点からの引用方法」「信頼性の高いサイトの選択」の修得ができるようになることも目標とする。

課題 1 では Web 情報の収集や連絡時に利用するコンピュータソフトウェアについての理解を深めることができるようになることを目標とする。

課題 2 では今後の学習に生かすため情報検索の仕組み、検索表示方法のルール、目的に沿った深い理解のための効果的な収集方法を身につけることができるようになることを目標とする。

【課題の概要】

どちらの課題も学習指導書内の該当項目を精読し、記述ルールに沿って作成すること。
また各レポート提出時にテキストファイルまたは PDF で以下の 2 項目を記述し 1 ファイルで添付。
1. 引用先URL
2. 自己評価ルーブリック 1 通（学習指導書に記述）

○通信授業課題 1
コンピュータ上で利用するブラウザもしくはメールソフトを選択し、各自でどちらかを複数選択後、独自の比較基準を設定し比較・評価後考察する。

○通信授業課題 2
2-1 検索エンジンを調査後自分の視点でテーマを決定。課題1同様、引用、理解の説明、考察する。
2-2 指定された複数のキーワードから各自が興味を持ったキーワードを 2 つ選択し検索エンジンを利用し理解の経緯を報告し考察する。

【授業計画】

○通信授業
教科書『コンピューターと生きる』を通読しその中でも第 7 章電子メールを使う、第 8 章ウェブ（World Wide Web）を使う、第 9 章情報護身術の内容を理解したうえで学習指導書のルールに沿ってレポートで学習した結果を報告すること。事前調査を実行後、全体レポート構成を考えてから取り組むこと。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、入学初年度など、早い年次での履修が望ましい。
インターネットに接続でき、Web ブラウザを使用できるコンピュータを所有するか、もしくは利用できること（OS は問わない）。

【教材等】

○教科書
佐藤淳一『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

この課題は「学習レポート」です。記述方法は学習指導書を精読し、作成してください。
その他「この 1 冊できちんと書ける ！ 論文・レポートの基本」石黒 圭著（日本実業出版社）「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」石井 一成著（ナツメ社）のような大学レポートの記述方法のための書籍、またそれに類する Web サイトなども参考にしてください。

科目名	カメラリテラシー						
授業コード	2140	授業科目名	カメラリテラシー			担当者	白尾隆太郎 教授、谷口泉講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

写真はデザイン系の学生に限らず、画像に記録することや資料として提示するなど、さまざまな局面で求められることがある。そのためカメラや写真の基礎的な知識は、多くの学生によって必要不可欠な要素である。その知識は、カメラが銀塩からデジタルに進化した現在でも、基本となるレンズの絞りとシャッター速度との関係、すなわち露出という問題が写真の基礎であり、デジタル写真になった現在でも不変と言える。

この科目では、表現としての写真技法ではなく、カメラの基礎的な知識や構造、レンズの特性などの講義を中心に、初歩的なカメラの使い方からその仕組み、レンズの効果など、写真表現の基礎となる技術的な知識の習得を主な目的としている。そして写真のほとんどがデジタルになっている現在では、当然その技術的な問題にも触れることになる。

科目の内容を理解し、その知識を写真表現に活かすことや記録という意味でデジタルアーカイブの質をより一層高めることを主な目的としている。

【課題の概要】

・カメラの種類と特性
・露出の原理
・レンズの絞りとシャッター速度による映像効果
・レンズの選択と映像効果
・デジタルカメラを正しく使うための知識
・デジタルデータを扱う知識

【授業計画】

○メディア授業
前期（５月～８月）、後期（10 月～１月）の年２回開講。
各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
開講予定や修了テストの予定については「メディア授業の受講にあたって」を参照すること

（メディア授業の構成）
1 章　学習目的とカメラの仕組み
2 章　露出を理解する
3 章　露出と映像効果
4 章　レンズの役割
5 章　被写界深度とは
6 章　カメラとレンズを扱う知識
7 章　デジタルカメラを操作する
8 章　デジタルデータを扱う知識

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PC およびタブレット端末などで、本学 Web キャンパスに接続できること。

○備　　考
履修年次は問わないが、いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	美術入門						
授業コード	2470	授業科目名	美術入門			担当者	重政啓治教授、三浦明範教授、吉川民仁教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

本科目は、主に新入生を対象として、美術領域の広さや表現する楽しさを知ることを目的とする。進行としては、創作に向かう基本的な姿勢や考え方、絵を描く上で考えることになる様々な造形表現などを含めながら、油絵学科の担当教員が順次に講義を行う。

【課題の概要】

講義内容をふまえ、造形の在り方や創作に向かう姿勢についての所管をレポートにまとめる。

【授業計画】

○メディア授業
講義動画の構成
1章　世にも奇妙な絵の話 (1)
2章　世にも奇妙な絵の話 (2)
3章　世にも奇妙な絵の話 (3)
4章　作品の誕生と成立過程 1
5章　作品の誕生と成立過程 2
6章　作品の誕生と成立過程 3
7章　東洋と西洋の違い 1
8章　東洋と西洋の違い 2
9章　様々な日本画家

前期（５月～８月）、後期（10 月～１月）の年２回開講。
各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
開講予定や修了テストの予定については「メディア授業の受講にあたって」を参照すること

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PC およびタブレット端末などで、本学 Web キャンパスに接続できること。

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	デザイン入門						
授業コード	2480	授業科目名	デザイン入門			担当者	教隆、教恒田 良三尾授、 野白教幸子水授、 牧授、郎原清授、授二 太上授、教裕教伸 平教 村金授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

本科目は、主に新入生を対象として、デザインの幅広い概念と領域、デザインの基本的な考え方や方法を理解し、また、現代デザインの動向などを学ぶことによって、視野を広げ、知識の吸収や創作意欲の向上につなげていくことを目的とする。日常生活の中で見過ごされがちなモノ・ヒト・コトを観察してデザインに結びつく問題を発見することや、誰もが持っている造形的な感覚と能力を自ら活性化させていくことの重要性を理解し、現代社会におけるデザインの役割や、新しい技術やメディアと結びついたデザインの可能性などについて考える。

授業は、デザイン系の専任教員がオムニバス形式（交代リレー式）で行う講義のほか、紙と鉛筆による短時間での造形感覚トレーニングなどを行う。

この科目は実務経験を有する教員（白尾隆太郎教授、上原幸子教授、清水恒平教授、牧野良三教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する各担当教員がデザインの実務経験を基にデザインの分野を紐解く。

【課題の概要】

授業内容を踏まえたレポート課題

【授業計画】

○メディア授業
前期（5月～8月）、後期（10月～１月）の年２回開講。
各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
開講予定や修了テストの予定については「メディア授業の受講にあたって」を参照すること。
（メディア授業の構成）
イントロダクション　デザイン入門について
１章　デザインの基礎体力①
２章　デザインの基礎体力②
３章　立体・空間デザインの捉え方ーヒト・モノ・コトの関係からー①
４章　立体・空間デザインの捉え方ーヒト・モノ・コトの関係からー②
５章　デザイン×テクノロジー①
６章　デザイン×テクノロジー②
７章　デザイン×プロジェクト①
８章　デザイン×プロジェクト②

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続できること。

○備　　考
デザイン総合コースの必修科目。
履修年次は問わないが、いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	文学						
授業コード	0050	授業科目名	文学			担当者	今岡謙太郎教授、赤井紀美講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

ここでは文学が言語芸術であることを認識することがまず要請される。一般的には、文学は隣接するジャンルである歴史や哲学や思想などと同じような内容と性質を持つものであるように思われがちだが、文学がそれら以上に言語による芸術表現であることを認識しながら、文学の大まかな輪郭や相貌を提供することが本科目の概要である。そこから文学という概念を知的に把握して、受講生みずからが主体的に文学作品に接して自分なりの深い文学体験を明瞭に自覚しつつ、その結果を客観的に報告できるようにすることを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題
2 単位の通信授業であるので２回のレポートが課せられる。それぞれ教科書の内容に即した課題が主であるが、一方で個々の文学作品に接することが求められる。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
授業と言っても面接授業は行われない。まず教科書をよく読んで内容をよく理解した上で、みずから選んだ作品によって自分なりの文学経験を深めて、それを明瞭に自覚することが肝要となる。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
佐久間保明『文学の新教室』（ゆまに書房　2007 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

教材以外の参考文献については上記図書の巻末を参照のこと。

【その他】

科目名	歴史学						
授業コード	0060	授業科目名	歴史学			担当者	廖赤陽教授、金田真滋講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

私たちが社会生活を送る上で、過去の歴史を学び、理解することは大切なことです。この科目では、特に現代の日本で生活する皆さんに是非とも知っていて欲しい、日本やその近隣の地域を含めた東アジアの近代・現代の歴史を学習します。教科書や学習指導書、参考文献などを読んで基礎的な知識を身につけた上で、出題するレポートを自分の手でまとめることで、私たちの社会がどのような歴史を歩んできて、どのようにして現代の社会が作られてきたのかを学習してください。それにより現在の身の回りのできごとや状況への理解も深まるはずです。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の各章から、自分が関心を持った章を一つ選び、その内容をまとめよ。

○通信授業課題 2
自分と関係がある地域（現住所や出身地の都道府県・市町村区）の歴史をまとめよ。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『東アジア近現代史（新版）』
第 1 章「東アジアと近代」
第 2 章「第一次世界大戦期と東アジア」
第 3 章「第二次世界大戦と東アジア」
第 4 章「冷戦体制の確立と『独立と革命』」
第 5 章「戦後体制＝冷戦構造の再編成」
第 6 章「世界秩序の再編成と東アジア」
第 7 章「世紀転換期東アジア史の展開」
第 8 章「世紀転換期中国経済社会の史的展開」
第 9 章「21 世紀東アジアの史的展開」

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
上原一慶、桐山昇、高橋孝助、林哲『東アジア近現代史（新版）』（有斐閣　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	哲学						
授業コード	0070	授業科目名	哲学			担当者	富松保文教授、竹中真也講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

哲学（フィロソフィア）と呼ばれる営みは、おおよそ紀元前六世紀から五世紀にかけて古代ギリシアで生まれました。フィロソフィアというギリシア語は、二つの部分からなる合成語で、「フィロ＝愛し求めること」、「ソフィア＝知」を意味します。哲学とは「知を愛し求めること」であり、そうして求められた結果としての「知」を意味するのではないということに留意してください。往々にして、哲学とは過去の人たちが考えてきたのことの集積であり、それゆえ、哲学を学ぶとは、そうした知識をできるだけたくさん覚えていくことであるかのように思われたりしますが、それは誤解です。

哲学という営みがいつ、どこで、どのようなものとしてはじまったのかを振り返ることで、哲学に対するこうしたありがちな誤解を取り除くことが、この科目の概要であり目標です。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書をもとに、「功利主義」と「カントの定言命法」を簡潔にまとめたうえで、「良い（善い）」、「悪い」についての論述を求める課題。

○通信授業課題 2
教科書をもとに、プラトンの「洞窟の比喩」を簡潔に説明したうえで、教科書の筆者が哲学という営みをどのようなものとして捉えようとしているかをまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
第 1 章「哲学とは何か」
第 2 章「精神の発見」
第 3 章「ソクラテスと自己の追求」
第 4 章「道徳的価値の探求」
第 5 章「神の存在」
第 6 章「現実とは何か」

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書をもとに出題する。
出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』富松保文訳（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考書
ナイジェル・ウォーバートン『入門　哲学の名著』（ナカニシヤ出版　2005 年）
ウィル・バッキンガム『哲学大図鑑』（三省堂　2012 年）

科目名	社会学						
授業コード	0080	授業科目名	社会学			担当者	小幡正敏教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

現代社会のあり方と諸問題を、家族・労働・テクノロジー・グローバル化などの具体的な諸テーマにそくして考えてみる。また、近代社会の成立とともに社会学という学問が登場してきた理由や背景についても学ぶ。教科書に書いてあることを機械的に読んでレポートを書くのではなく、自分で調べること、自分で考えることが大切である。そのためには、新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集すること、書店や図書館や資料館に出向くこと、現場を歩いてみることなどが不可欠となる。好奇心の旺盛な人向き。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書のいずれかの部から任意の１つの章を選び、そのテーマについて理解したことを具体例などをあげながら説明する。

○通信授業課題 2
課題１で選んだテーマについて「コミュニケーション」という視点から考察を加える。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書のいずれかの部から任意の１つの章を選んで学習する
第 1 部：近代と社会学
　1　近代と新しい社会認識：近代社会の成立とマルクス
　2　近代との格闘：デュルケームとウェーバー
　3　近代の暗黒：戦争とトラウマ
第 2 部：社会の舞台
　1　近代家族の変容：親密性と私秘性の高まり
　2　連帯の変容と社会保障：福祉国家の解体と保険による生ー政治
　3　労働と職場：フォーディズムからポストフォーディズムへ
第 3 部：社会学と現代
　1　テクノロジーと社会：鉄道・自動車・原発・メディア…
　2　新しい行為主体：子ども、老人、女性、障害者、クイア…
　3　グローバル化と現代社会：地域社会と生活空間の変容
補論
Doing Sociology：社会学をすること

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容および授業課題に準じた問題（記述式）を出す。
教科書を通読しておくことが望ましい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
橋本梁司・小幡正敏著『社会学のまなざし』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

参照すべき事典類として『現代社会学事典』（弘文堂）、『福祉社会事典』（弘文堂）などを挙げておく。

科目名	経済学						
授業コード	0090	授業科目名	経済学			担当者	新堂精士講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

経済学を学ぶ意味はいくつかあるが、市民として経済学を学ぶ意味を考えるのなら以下の 2 つではなかろうか。第一に、現代社会において私達の社会に大きな影響を及ぼすと考えられる「格差・経済成長・デフレ・貧困・失業・貿易摩擦・エネルギー・環境」などの問題の解決には、経済学の知識が必須であること。第二に私達が日常行う様々な意思決定において経済学の考え方が役立つということである。この授業では主に後者、したがって経済学の考え方を学ぶことを目標とする。具体的には日本人の優れた経済学者である宇沢弘文先生や森嶋通夫先生が、経済学の歴史と考え方について書かれた本あるいは過去の偉大な経済学者について日本一流の学者が解説した本を読んでいくことで経済学に固有の考え方の習得を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書 1『経済学の考え方』、教科書2『経済学者はこう考えてきた』または参考書 1『思想としての近代経済学』、参考書2『世界を変えた経済学の名著』の中から（以上の4つの教科書あるいは参考書から）自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。

○通信授業課題 2
教科書1『経済学の考え方』、教科書2『経済学者はこう考えてきた』または参考文献 1『思想としての近代経済学』、参考文献2『世界を変えた経済学の名著』の中から（以上の4つの教科書あるいは参考書から）自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。あたり前であるが課題1とは違う章・節を選ぶこと。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を使用する。
1.「経済学の考え方」の 1 章を読む
2.『経済学の考え方』の 2 章　アダムスミスの国富論
3.『経済学の考え方』の 3 章　リカードからマルクスへ
4.『経済学の考え方』の 4 章　近代経済学の誕生
5.『経済学の考え方』の 5 章　ソーンストン・ヴェブレン
6.『経済学の考え方』の 6 章　ケインズ経済学
7.『経済学の考え方』の 7 章　戦後の経済学
8.『経済学の考え方』の 8 章　ジョーン・ロビンソンの経済学
9.『経済学の考え方』の 9 章　反ケインズ経済学の流行
10.『経済学の考え方』の 10 章　現代経済学の展開
11.『経済学者はこう考えてきた』第一章　資本主義とは何か
12.『経済学者はこう考えてきた』第三章　教科書に馴染まなかった人たち
13.『経済学者はこう考えてきた』第四章　経済学者の思考法を比較する
・11 ～ 13 回についてはそれぞれ各 1 節を選んで学習してよい。

【成績評価の方法】

◎科目試験
科目試験。
科目試験は持ち込み不可の論述試験 1 から 2 問を基本とする。論述試験の内容は、教科書に出てくる経済学者あるいは教科書の 1 章を選んで、考え方を要約し、それに対する批判的な検討を加えて述べるというものである。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
1.　『経済学の考え方』　宇沢弘文　岩波新書　53　1989 年
2.　『経済学者はこう考えてきた』　根井雅弘　平凡社新書 893 2018年

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

・ 2 章以上にわたって取り上げられた経済学者、例えば『思想としての近代経済学』のケインズやパレート等を一つの課題で取り上げてもよい。
・参考書2 については 17章ピーター・ドラッカーは対象外である（18章ハーバート・サイモンは選択可能である）。

○参考書
1.『思想としての近代経済学』森嶋通夫　岩波新書　321　1994 年
2.『世界を変えた経済学の名著』日本経済新聞社編　日経ビジネス文庫　2013 年

科目名	憲法						
授業コード	0100	授業科目名	憲法			担当者	志田陽子教授、中島純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この講座では、わたしたちが知っておくべき権利やルールのうち、憲法で保障されている事柄を学ぶ。（著作権法をはじめとする知的財産権の分野については、「著作権法」の講座で学ぶ）。

法学系の科目を学習するにあたっては、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となる。そしてその問題意識を、憲法上わたしたちに保障されたさまざまな「人権」や、民主的な政治システムと関連づけて考えることが必要となる。本講座では、具体的な社会問題について考えながら、「法の精神」を生かした思考を実践することをめざす。

【課題の概要】

まず憲法の全体像をつかむため、教科書の全体を通読してほしい。それからレポート課題に進むこと。
レポート課題では、社会の中で実際に起きた事例（裁判例）を素材として、具体的に考える。
課題条件の中には「関連する法律（憲法）の条文を挙げること」という条件があるが、これについてはインターネットや図書館で最新の法令を参照してほしい。
課題 1・課題 2 とも、学習指導書にあるとおり、参考文献を明示すること。

○通信授業課題 1
教科書と「例題」を参考にして、各自がもっとも関心をもったテーマをひとつ選び、具体的な事例を参考にしながら論じる。そのさい、「論点」を明確にする作業に力を入れてほしい。課題 1 では、自分が選んだテーマと事例の正確な把握ができているか、これを考察するさいの「論点」を明確に意識できているかを主な評価対象とする。

○通信授業課題 2
課題 1 で論じたテーマ・事例・論点について、自分の見解を論じる。その前提として、課題 1 の添削指導や資料などを参考にすること。他人の著作（新聞記事や専門家の解説）と自分の論説とを区別して記述できているか、結論で書いている内容と自分で設定した論点とがかみ合っているかを、重要な評価対象とする。

＊課題については、学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

まず教科書全体を読み、憲法の内容について総合的に学習する。このとき、憲法が誰に向けられた法か（憲法は国家に向けられた法である点で、他の法律と異なる）、「立憲主義」とはどのようなものか、なぜ憲法が「最高法規」なのか、といった基礎的な共通前提について、各自で把握しておいてほしい。
次に、『造形文化科目・教職に関する科目学習指導書』に掲載した「例題」を参考にしながら、自分が関心をもって選んだテーマについて、もう一度教科書の該当する章を注まで読み込む。教科書の注や参考文献一覧に挙がっている資料も参考にして、より詳しく学習した上で、自分の見解を述べよう。

【成績評価の方法】

◎科目試験
大まかな出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
志田陽子『表現者のための憲法入門』（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

受講者のみなさんは、レポート作成のためにも、また、本講座での学習を生きたものにするためにも、教科書による学習と同時に、新聞報道などを通じて、日常の中でさまざまな素材に接する機会を作ってほしい。

科目名	民俗学						
授業コード	0110	授業科目名	民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

わたしたちの生活には、古い時代の民俗文化を投影しているものが意外と多い。この科目は、ふだん見過ごしがちな奉納物、年中行事を注意深く観察することで、庶民信仰のあり方や何げなく行っている行事の意味を考えていこうとする。

課題で取り上げるような民俗文化は、表面上は新しい様式が主流になったように見えてもその根底には庶民の願いが流れていると考えられ、またある行事が変化するには変化の要因が必ずあると考えられる。そこで、ここではまずは民俗文化の様相に触れることを手初めとし、変容しつつも伝承される民俗文化を考えたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「寺社・小祠に寄進された奉納物を調査し、庶民信仰のあり方について考察せよ」
対象とする奉納物には、たとえば鳥居や玉垣、常夜燈、狛犬、絵馬などさまざまな種類があるが、これらの形態や銘文等の観察・記録をもとに、必要に応じてこのことを熟知する人に話を聞く。以上の調査を終えたうえで、文献や資料を参考とし、奉納する庶民の信仰のあり方を考察すること。

○通信授業課題 2「自分の住んでいる地方または自分の家の盆、あるいは正月行事を調査し、考察せよ」
盆あるいは正月行事についてできるだけ全体を見ることが望ましいが、そのなかの一部、例えば盆踊り、盆礼、小正月の行事などを重点的に取り上げてもよい。行事の変化（消滅・変容・創造）の様相を視野にいれた考察が望ましい。

どちらの課題にも調査対象のスケッチまたは写真を必ず添付すること。レポート本文を補充するような資料があればそれも添付すること。それらの添付資料には学籍番号、氏名を記入すること。
各自の参考文献、引用文献、調査年月日、場所、話を聞いた人の氏名・年齢などはレポートの最後に必ず明記すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
各課題は、現地での調査が前提となっている。ふだん見過ごしがちなこれらの調査対象を注意深く観察、調査のうえ、まとめあげるよう心掛けること。また、具体的な事実と各自が行う解釈とは明確に区別して記述する必要がある。
それぞれの課題を調査し、まとめあげるには相当の日数が必要となる。1 つの課題が終了したら速やかに提出し、講評を受けること。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
宮本常一『民俗学への道』（未来社　1983 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	心理学						
授業コード	0120	授業科目名	心理学			担当者	荒川歩教授、浅井千絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

心理学と造形活動というのは、パラレルな２つの世界です。心理学も造形活動も、人(私)にとって世界がどのようにあるかを考え、私はなぜこのようにあるのかを考え、そしてどうすれば人に何かを伝えることができるのかについて考えるので、その意味で２つの領域の重なる部分は少なくありません。ところが、その方法がまるで違います。造形活動では、ある意味で現象学的に立ち現れている現実に対して葛藤して表現を行いますが、心理学は、還元論的に要素に分けて実験や調査を行い実証的に分析します。造形活動をしている人から見れば、造形活動が簡単に言葉にせずに大切に画面の中で表現していることを、心理学は簡単に言葉や数字に置き換えてしまって、それで扱える範囲で研究しているように見えるかもしれません。
この授業のテーマはパラレルワールドを知ることです。造形に関わる心理学の研究を例に、還元論的に要素に分けて実験や調査で得られた知見から見た、世界、人、造形活動について学ぶことを通して、自らの視点を改めて理解するとともに、心理学的な考え方もできるようになることを目指します。

【課題の概要】

以下課題1、2とも「論理的」な文章表現を重視する。
○通信授業課題1
教科書に基づいて、造形を下支えする心理的メカニズムについて分析する課題。
○通信授業課題2
教科書の各章、及び通信授業課題1の結果を参考に(あるいは応用）して、作品を心理学的に考察する課題。
*課題については『造形文化科目・教職に関する科目学習指導書2021年）を必ず参照すること。

【授業計画】

[通信授業]
教科書を使用。
教科書
第1章　ものを見るとはどういうことか：世界は色づいてなんていないのか！？
第2章　ぼくらの視覚のチューニング方法：世界の共有可能性について
第3章　脳は世界をどう再構成するか：人間は機械だってあなたはいうけれど
第4章　イメージはどこから来るのか：丸は四角よりも甘いのか
第5章　美的なバランスの起源：偏りはこの期に及んで何を語るのか
第6章　醜いけど美しい：わたしがこれを美しいというのを誰も思いとどめさせることはできない
第7章　絵やデザインのある風景：異次元への入口を探して
第8章　動物は造形をおこなうか：目の前のリンゴ、心の中のリンゴ、絵の中のリンゴ
第9章　ヒトが描く絵はどのように変化していくのか：痕跡は語る。様々な価値の時代を
第10章　絵には何が現われるか：タヌ吉悩む！？
第11章　創造性とはなにか：人はいつこの壁の向こう側に行けるのか

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当個所から出題(記述式)。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1～年次

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
荒川歩・山本尚樹『はじめての造形心理学』(新曜社　2021年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』(武蔵野美術大学通信教育課程2021年）

【その他】

科目名	色彩学						
授業コード	0150	授業科目名	色彩学			担当者	島森功講師、江森敏夫講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

色彩学は英語では Science of Color といい、光学や生理学、心理学などの学問との関連が深く、“学際的”であるのが特徴である。学生の中には「色の勉強など必要ない。経験だけで十分だ」と考えている人がいるかもしれないが、「色とは何だろう？」という疑問に答えられる人はきわめて少ない。

本講では、この疑問に答えるのに必要なさまざまの知識を学ぶ。たとえば、「色は光である」、「色は目ではなく脳で見るものである」、「色は情報である」、「色は数式で表せる」、「色は感情を操る」等々。そのために教科書を精読し、4 つの課題に取り組んでもらう。そして、通学生なら教室で聞き流すところを自分の目と手足を使って確かめ、その成果を報告してもらう。これにより、色に対する理解が深まり、色による表現力が向上することを期待したい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
色を記号や数値で表す表色系（ひょうしょくけい）について調べ、白から黒までの見た目に等間隔のグレースケールを作成する課題。

○通信授業課題 2
スーラによって編みだされた点描画法とテレビ画面等にも応用されている並置加法混色について研究し、自画像（顔）を描く課題。

○通信授業課題 3
色の対比と同化について教科書で学習し、この 2 つの現象を踏まえたブックカバーのデザインを行う課題。

○通信授業課題 4
色（赤や青など）の連想を調べ、教科書のデータと比較・検討する課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書のすべての章を学習する。
色の世界の成り立ち／色の表し方／混色の原理と応用／色の感覚的・知覚的作用／色の認知的・感情的作用／色の美的作用

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。但し、1・2 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
千々岩英彰『色彩学概説』（東京大学出版会　2001 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

各課題レポートの提出順序は特に定めない。

科目名	コミュニケーション論						
授業コード	0160	授業科目名	コミュニケーション論			担当者	諸橋泰樹講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本科目では、以下の二つの学習活動を通して日常生活の場におけるコミュニケーション現象・問題の解明が目指される。
1）私たち自身がそのただ中にある近代化過程に注目し、そこで重視される、ないし有力となるコミュニケーション活動の歴史性を、それに先立つ、いわば人類史とともに営まれてきたコミュニケーション活動との対比において考える。
2）良きにつけ悪しきにつけ、私たちの日常コミュニケーション活動のうちに深く組み込まれているメディア技術のもつ意味を考える。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「自分の身の回りのコミュニケーション現象を省察する」というテーマで、2000 字程度のレポートにまとめること（単なる感想文ではなく、美術・デザインに携わる学生として、事例のもつ意味を深く問うものであり、学説をあてはめる工夫などが望まれる）。

○通信授業課題 2
教科書等を参照しつつ「人間コミュニケーションにおける文明技術の役割」というテーマで、2000字程度のレポートにまとめること（教科書の内容をなぞるのではなく、それを発展させた内容となることが期待される。SNS について論じるものが多いが、「ありきたり」な指摘に終わらない工夫がほしい）。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
授業は、教科書に従い、コミュニケーションの理論を考究する。教科書の目次は以下の通り。
各章を通読し（1章あたり、読むのに１時間、関連文献等を調べるのに3時間、考察に2時間程度を費やす）、レポートと科目試験に望んでもらいたい。
第 1 章「人間コミュニケーションの根底にあるもの」
第 2 章「人間コミュニケーションをとらえる視点」
第 3 章「無媒介的コミュニケーション世界とその変容」
第 4 章「近代コミュニケーションの諸相」
第 5 章「媒介の時代をとらえる」
第 6 章「テレビ電話のメディア特性を探る」
第 7 章「マスメディアの時代をどうとらえるか」
第 8 章「メディア融合時代の到来」

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容を中心に出題する。用語・学説や現象について記述式で解答してもらう。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
小林宏一『コミュニケーション論』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

自らの生活体験をアカデミックな参考文献などによって理論化し、それをきっかけにして更に自らのコミュニケーション観を拡張していく姿勢が、求められる。

科目名	著作権法						
授業コード	0170	授業科目名	著作権法			担当者	志田陽子教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この授業では、わたしたちが知っておくべき権利やルールのうち、とくに「表現」に関わる法律を具体的に学ぶ。この分野に属する法律は、憲法 21 条「表現の自由」とこれに関連する法律、また、著作権法をはじめとする知的財産権の分野の法律である。
法学の分野について学習するためには、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となる。そしてその問題意識を、わたしたちに保障されたさまざまな「権利」や、民主的な制度や理念（公共性）と関連づけて考えることが必要となる。本授業では、具体的な問題について考えながら、こうした思考を実践することをめざす。

【課題の概要】

まず教科書の全体を 1 度、通読してほしい。それからレポート課題に進むこと。
レポート課題では、社会の中で実際に起きた事例（裁判例）を素材として、具体的に考える。
課題の詳細については、学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目　平成 29 年度』を必ず参照すること。また、課題条件の中には、「関連する法律（憲法）の条文を挙げること」という条件があるが、課題作成にあたって、インターネットや図書館で最新の法令を参照してほしい。
また、課題１・課題２とも、学習指導書にあるとおり、参考文献を明示すること。とくに本授業では、著作権法上の「引用のルール」を実践できているかどうかが大きな評価対象となる。

○通信授業課題 1
「例題」を参考にして、各自がもっとも関心をもったテーマをひとつ選び、必ず具体的な事例を参考にしながら論じる。そのさい、「論点」を明確にすることを目標としてほしい。課題 1 では、自分が選んだテーマと事例の正確な把握ができているか、これを考察するさいの「論点」を明確に意識できているかを、主な評価対象とする。

○通信授業課題 2
課題１で論じたテーマ・事例・論点について、自分の見解を論じる。その前提として、添削指導、新たに読んだ資料などを参考にすること。他人の著作（新聞記事や専門家の解説）と自分の論説とを区別して記述できているか、結論で書いている内容と自分で設定した論点とがかみ合っているかを、主な評価対象とする。

【授業計画】

まず、教科書全体を読み、対応する条文を参照しながら、「表現の自由」や「知的財産権」や「情報社会のルール」について総合的に学習する。この分野ではさまざまな法律が関連しあいながら登場するが、教科書を読み進めながら、今自分が学習している権利（問題）がどの法律で扱われている権利（問題）なのかを常に把握するように努めること。とくに憲法上の「人権」とそれ以外の多数の権利との区別、「憲法」と「著作権法」との区別をしっかり意識してほしい。
次に、『造形文化科目・教職に関する科目学習指導書』に掲載した「例題」を参考にしながら、自分が関心をもって選んだテーマと事例について、もう一度教科書の該当箇所と条文を読み、他の資料も参考にして、より詳しく学習する。課題条件にしたがった課題作成をつうじて、法学的な思考を実践する。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
志田陽子・比良友佳理『あたらしい表現活動と法』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

受講者のみなさんは、レポート作成のためにも、また、本授業での学習を生きたものにするためにも、教科書による学習と同時に、各人で、新聞報道などを通じて、日常の中でさまざまな素材に接する機会を作ってほしい。

科目名	音楽論						
授業コード	0180	授業科目名	音楽論			担当者	白石美雪教授、丸山洋司講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

美術大学の学生にとって、音楽とはどのような存在であろうか。音楽を日々の生活の大切な友としている学生もいれば、あまり音楽に興味がない学生もいるだろう。「音楽論」の授業では、時代、国、ジャンルといった枠組みにとらわれることなく、「音楽とは何か」「声」「楽器」「音楽の伝え方」「音楽とパフォーマンス」「聴取とメディア」「音楽と想像力」「音楽を語る」「21 世紀における音楽の諸相」といった観点から音楽文化を広く見渡していく。
音楽に親しんでいる学生は、これまでとは異なる音楽への視点を得て、自らの音楽観を一層深みのあるものにしていっていただきたい。あまり音楽に馴染みのない学生については、本科目履修が、音楽の世界の探究を始める切っ掛けになることを願う。

【課題の概要】

○通信授業課題１～４
教科書を以下のように 4 つに分け、各部分を各回（全 4 回）の課題にあてる。
課題 1　序章～第 1 章
課題 2　第 2 章～第 4 章
課題 3　第 5 章～第 7 章
課題 4　第 8 章～終章
該当部分に記されている音楽家、楽曲、術語、内容などと関連づけて独自のテーマを設定し、論述する。

作成の上での留意点：
・テーマ設定の切っ掛けとなった教科書の部分（章や節など）をレポートの冒頭に記すこと。
・テーマと関連のある音・音楽を聴くこと。
・音楽体験についての詳細な報告を期すこと。
・本論の内容を簡潔に示すタイトルを考え、「課題」欄に記すこと。
・論考作成にあたって参照した音源、資料のデータを記すこと。

【授業計画】

序章
第 1 章「音楽とは何か」
第 2 章「声」
第 3 章「楽器」
第 4 章「音楽の伝え方」
第 5 章「音楽とパフォーマンス」
第 6 章「聴取とメディア」
第 7 章「音楽と想像力」
第 8 章「音楽を語る」
第 9 章「21 世紀における音楽の諸相」
おわりに（終章）

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容を理解した上で、独自の考察・探究を深めて臨んで欲しい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
白石美雪編『音楽論』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	数学						
授業コード	0130	授業科目名	数学			担当者	圓山憲子教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

人間の精神と文化は、有史以来、パターンを捉え、その基本法則や性質を探求する思考体系を発展させて来た。その思考体系のひとつである数学は抽象的なパターンの科学である。このような現代的な認識に立って、数学的な見方や考え方とその重要性を身近な題材や馴染み深い図形を通して明らかにしていく。教科書では、数のパターンに関する実用的な話題と、形のパターンに関しては、私たちの思い込みによって 2000 年以上もの間異なる見解を許容することができなかった幾何学の歴史を背景に、それまでの幾何学的な見方からの自立として生まれた新しい幾何学、さらに複雑な自然を捉えようとする現代的な幾何学のひとつを取りあげた。一方で、数学の言葉で語られる概念を理解するには、時には単調な基礎的訓練も必要である。Task（タスク）と呼ぶ実技を含む問題演習によって、テーマに関心を持ち、理解を深めることができるよう手引きした。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
下記授業計画の教科書指定範囲にある Chapter 2、3（Chapter は章のこと）を中心に出題する。

○通信授業課題 2
下記授業計画の教科書指定範囲にある Chapter 6、7 を中心に出題する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の Chapter 1、2、3、6、7 を使用する。
Chapter 1　パターンの科学
数学とは／クイック・トリップ／数学の言葉
Chapter 2　数当てゲームをしよう
マジック・カード／フロッピーディスクは原稿用紙で何枚分？／アルゴリズム
Chapter 3　いまさら電卓？
美のある秘密／電卓を見直そう／この先どうなるの？／フィボナッチ数列
Chapter 6　多角形と多面体
フラットランドのタイル職人／立体では／タイルやブロックを作ろう
Chapter 7　見方を変える
新しいアイディアが生まれた／ふたたび多面体／新しい幾何学

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の Chapter 1 を除く上記授業範囲を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
圓山憲子『もういちど数学を』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

数学を学ぶには、自ら手を動かし自ら問いを立て、積極的に考えることが大切です。その試行錯誤の中で、数学が持つ美しさを感じとり、面白さを発見されることを願っています。

科目名	生物学						
授業コード	0140	授業科目名	生物学			担当者	伊藤海講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「生物学」には、幅広い分野の学問が含まれている。高等学校理科教育の生物では、遺伝学、生理学、植物学などを網羅的に勉強する。本大学は美術大学である。そのため、この授業では、生物の体の「かたち」について学ぶ。生物学の中でも特に、解剖学と比較形態学に焦点をあてる。

ヒトと動物のからだのしくみを比べ、これらがどのようにして進化してきたかを学ぶことで、からだについての認識を深めることを目的とする。私達の祖先となる生物は基本的な構造を変化させることなく、わずかな改変を積み重ねることで、様々な生物へと進化した。我々もそのさまざまな生物の一種である。この授業で使用する教科書「ヒトのなかの魚、魚のなかのヒト」では、魚類からヒトが誕生するまでの進化の経緯が解りやすく説明されている。自分のからだを教材にしながら、解剖学や形態学を通して、からだのかたちについての理解を深めてほしい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書 1 〜 5 章の要約を 1 章ごとに簡潔にまとめること。

○通信授業課題 2
教科書 6 〜 11 章の要約を 1 章ごとに簡潔にまとめること。

【授業計画】

○通信授業
教科書を使用する。
（1）内なる魚を見つける（2）手の進化の証拠を摑む（3）手の遺伝子のかくも深き由緒（4）いたるところ歯だらけ（5）少しずつやりくりしながら発展していく（6）完璧なボディプラン（7）体づくりの冒険（8）においのもとを質す（9）視覚はいかにして目の目を見たか（10）耳の起源をほじくってみる（11）すべての証拠が語ること
（ ）内は教科書の章を示す。

【成績評価の方法】

科目試験の評価による。
科目試験は教科書全般から出題する（記述方式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ニール・シュービン『ヒトのなかの魚、魚のなかのヒト 最新科学が明らかにする人体進化 35億年の旅（ハヤカワ文庫 NF）』（早川書房 2013 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

○推奨参考文献
遠藤秀紀『哺乳類の進化』（東京大学出版会）
日本進化学会『進化学事典』（共立出版）
『岩波 生物学辞典』（共立出版）

科目名	物理学						
授業コード	0190	授業科目名	物理学			担当者	川崎雅裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

私たちの周りには、様々な興味深い自然現象があり、一見するとそれらがどうして起こるのか不思議に思うことが多くあります。なぜ空は青いのか、なぜ夕日は赤いのかなどの日常生活の中で感じる多くの疑問、さらには、物質は何でできているのかといった深く物事を考えることによって持つ疑問、それらの疑問に答えるのが物理学です。物理学は自然現象を記述する最も基本的な学問として発展してきました。物理学の魅力は少数の基本的な法則から驚くほど様々な現象が理解できることです。例えばニュートンの 3 つの基本法則はたった数行の文章または数式を使って書くことができますが、これによって太陽系の惑星の運動などあらゆる物体の運動を正確に予言することができます。

物理学は実験あるいは観測によってその正しさを確かめていく科学で、実験によって新しい発見があればそれを説明する理論が構築さて、さらにその理論が新しい現象を予言する。そして、実験がその予言が正しいかどうか確かめるといったように実験と理論がキャッチボールをするようにして発展していくのが物理学です。このような物理学の基本的な手法や考え方を理解することがこの科目の目標です。具体的には、ニュートンの法則、光や音の性質、電気と磁気などに関して学びます。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
自分でできる簡単な物理実験を実際に行い、その内容と結果などについてレポートとしてまとめよ。

○通信授業課題 2
教科書の中で最も印象的だった物理現象を取り上げて説明せよ。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 9 講までを使用する。内容は
1. 物理学を学ぶことの特権
2. 物理学は測定できなければならない
3. 息をのむほど美しいニュートンの法則
4. 人間はどこまで深く潜ることができるか
5. 虹の彼方に
6. ビッグバンはどんな音がしたか
7. 電気の奇跡
8. 磁気のミステリー
9. エネルギー保存の法則

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ウォルター・ルーウィン著　東江一紀訳　『これが物理学だ！』（文藝春秋　2012 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	自然科学概論						
授業コード	0200	授業科目名	自然科学概論			担当者	川崎雅裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

人間は大昔から夜空を眺めそこにある星や銀河の美しさや壮大さに感動し、宇宙はどうやって始まったのか、宇宙の果てはどうなっているのか、宇宙は将来どうなっていくのか、といったことを考えてきた。このように宇宙は身近でありながら深遠で謎めいたものとして私たちの好奇心を刺激してくれるものです。宇宙創世の理論は古代では神話として人間の想像力のみを用いて考えられてきましたが、ようやく 17 世紀になって望遠鏡を用いた観測かが行われるようになり、宇宙は自然科学の対象として学問的に研究が行われるようになりました。近年における宇宙論の発展は目を見張るものがあり、誕生間もない時期から現在に至るまでの宇宙の進化が物理法則に基づいて理解されるようになってきました。

この科目では自然科学の中でもっとも古くから人々を魅了してきた宇宙論を学ぶことによって、自然科学の手法や考え方、科学的発見に至る科学者たちの努力を知ってほしい。具体的な内容は、宇宙膨張、宇宙を満たしている光である宇宙背景放射、宇宙の最初の 3 分間に起こる元素の合成などを学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書を読んで宇宙マイクロ波輻射がどういうものか説明しなさい。

○通信授業課題 2
次の 2 つのうちから 1 つを選んで答えなさい。
1. 教科書を読んで、宇宙の最初の約 3 分間までに陽子と中性子からヘリウムが合成される過程を説明しなさい。
2. 宇宙膨張や初期宇宙で起こる現象について、疑問に思われることを取り上げ，それを自分なりに説明しなさい。

【授業計画】

○通信授業
教科書では以下の項目について説明しています。
1. 宇宙の膨張
2. 宇宙マイクロ波背景輻射
3. 熱い宇宙の処方
4. 最初の 3 分間
5. 最初の 100 分の 1 秒間
6. 1976 年以降の宇宙論

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ワインバーグ著　小尾信彌訳　『宇宙創成はじめの 3 分間』（筑摩書房　2008 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	英語 Ⅰ						
授業コード	0210	授業科目名	英語 Ⅰ			担当者	野口克洋教授、ポーランド・カルサミ教授、相原優子教授、田沢恭子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教科書として Rosemary Davidson の 『What is Art ?』 (Oxford University Press) を使用する。この書は読者に美術・デザインの作品を見たり、考えたり、制作したり、発見したりするための指針を分かりやすく与えようと書かれたものである。

この教科書を用いることによって、英語の基礎力の充実をはかるとともに、英語を通じて一般教養を身につけ、あわせて専門分野で必要となる美術・デザイン関係の書を英語で読む学力を養うことをめざす。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の P.4 ～ 17 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の P.18 ～ 29 の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 1 章から第 3 章を使用する。
第 1 章　Looking and seeing
第 2 章　What’s art for?
第 3 章　Magic and making things happen

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
Rosemary Davidson, 『What is Art ?』 (Oxford University Press)

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』 （武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）
『英語 Ⅰ　［解説書］』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2002 年）

【その他】

科目名	英語 Ⅱ						
授業コード	0220	授業科目名	英語 Ⅱ			担当者	野口克洋教授、ポーター・カンダルサミ教授、相原優子教授、田沢恭子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教科書として Rosemary Davidson の 『What is Art ?』 (Oxford University Press) を使用する。この書は読者に美術・デザインの作品を見たり、考えたり、制作したり、発見したりするための指針を分かりやすく与えようと書かれたものである。

この教科書を用いることによって、英語の基礎力の充実をはかるとともに、英語を通じて一般教養を身につけ、あわせて専門分野で必要となる美術・デザイン関係の書を英語で読む学力を養うことをめざす。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の P.30 ～ 49 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の P.50 ～ 67 の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 4 章から第 6 章を使用する。
第 4 章　Telling a story
第 5 章　Face to face
第 6 章　Body language

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「英語Ⅰ」の単位を修得していること。
ただし、編入学生で「英語Ⅰ」に相当する学習歴を有する場合は履修できる。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
Rosemary Davidson,『 What is Art ?』 (Oxford University Press)

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年)
『英語Ⅱ　［解説書］』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2002 年)

【その他】

科目名	英語Ⅲ（2021年度をもって廃止）						
授業コード	0230	授業科目名	英語 Ⅲ			担当者	教授、野口克洋教授、ポーランダ・カンガルサミ教授、相原優子教授、田沢恭子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）　面接授業（2021年度はZOOMを使用し、オンラインで授業を行う）						

【授業の概要と目標】

「英語Ⅲ」は「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」で身につけた英語力の上に立って、実際に話したり、聞いたりする実践英語の能力を養うことをめざしている。教科書の『A New Approach to English Communication』はPart One と Part Two に分かれている。

Part One は単語を組み立てて英文を作る能力をつけるためのもので通信授業で用いる。Part Two は会話篇で、面接授業のためのものである。

【課題の概要】

○通信授業課題
教科書の Part One の全てを範囲にしてのレポート課題。

○面接授業課題（2021年度はZOOMを使用し、オンラインで授業を行う）
教科書の Part Two の全てを、実際に授業に出席して、教室においてそれをこなすこと。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業（2021年度はZOOMを使用し、オンラインで授業を行う）

○通信授業
教科書の Part One を全て使用する。19 の基本的なパターンの英文を示し、応用例と解説及び練習問題を付けたもので、英文を組み立てて作る能力を養う。

○面接授業
教科書の Part Two を全て使用する。教科書は, Campus Life, Art, Museum などを Topics とした 8 のチャプターから成るもので、各チャプターには練習問題が付いている。これを用いて、教室で実際にスピーキングとリスニングの力を養う。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業の総合評価

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「英語Ⅰ」の単位を修得していること。
ただし、編入学生で「英語 I」に相当する学習歴を有する場合は履修できる。
カメラと外部マイクを備えたパソコンを保有していること。
ZOOMミーティングを使用できる情報理解があること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
武蔵野美術大学外国語研究室編、『A New Approach to English Communication』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年)

【その他】

面接授業では、ペアワーク、グループワーク、発表（プレゼンテーション）あり。

科目名	フランス語初級						
授業コード	2160	授業科目名	フランス語初級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師、今村純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

初めてフランス語を学ぶ学生を対象に初級文法の習得と日常会話の練習を主な目的としたフランス語入門の授業です。教科書には『パリのミュゼでフランス語！』を使用します。芸術の都パリには、その名の通り数多くの美術館があります。世界的に有名なルーブルやオルセー美術館、ポンピドゥーセンター内の国立近代美術館、ピカソ美術館、クリュニー美術館、また生前の芸術家の住まいやアトリエを改造したロダン、モロー、ザッキンなどの個性的な美術館もあります。この授業は、そのようなパリの美術館紹介を通してフランス語を学べるようにという意図で開設されています。フランス語の発音とつづり字の読み方の基本から始めて文法の規則を少しづつ学び、同時に、実際にパリの美術館を訪れたときに役に立つ会話の練習をしていきます。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の「フランス語の文字と発音」～ Leçon 5 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の Leçon 6 ～ Lecture の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
「フランス語の文字と発音」から Lecture までを使用します。
「フランス語の文字と発音」
Leçon 1 Le Musée du Louvre
Leçon 2 Le Musée d’Orsay
Leçon 3 Le Musée National de l’Orangerie
Leçon 4 Le Musée d’art moderne
Leçon 5 Le Musée de Cluny
Leçon 6 Le Musée Jacquemart-André
Leçon 7 Le Musée Gustave Moreau
Leçon 8 Le Musée du cinéma - Henri Langlois
Leçon 9 Le Musée Rodin
Leçon 10 Le Musée Picasso
Lecture Le Musée Zadkine

それぞれの課で該当する文法を最低１～２時間かけて予習してから取り組んでくんでください。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に、本文、会話文の日本語訳や文法練習問題などから出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし ※2006 年度までに「フランス語Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できない。

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
藤田尊潮・小幡一雄著『パリのミュゼでフランス語！』（白水社　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目　2021年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年)
『フランス語初級「パリのミュゼでフランス語！」教科書解説書』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2007 年）

【その他】

○推薦辞書
『ディコ仏和辞典』（白水社　2003 年）
『クラウン仏和辞典』（三省堂　2015 年）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（欧文社　2010 年）

科目名	フランス語中級						
授業コード	2170	授業科目名	フランス語中級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師、今村純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「フランス語初級」の学習を終えた学生を対象に、初級文法の完成とフランス語で書かれたテキストの読解力を養うことを目的とした授業です。教科書は『星の王子さまの教科書』を使用します。『星の王子さま』が優れた文学作品であることは、誰もが承知のことと思いますが、その美しいフランス語のテキストは、同時にフランス語文法を学ぶ上で格好の教材なのです。基礎的なフランス語の文法事項は、ほとんど網羅されていると言ってよいでしょう。教科書は、『星の王子さま』のテキストの抜粋と、初級文法の教科書では学びきれなかった難度の高い文法事項の解説、そして練習問題から構成されています。教科書には、CD が付属されており、練習問題の中にも聞き取り問題がありますから、何度も繰り返し聞くことによって、フランス語の発音に対する感性も磨かれていくことでしょう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
Leçon 1 〜 Leçon 5 までの練習問題を解き、レポート用紙にまとめて提出する。

○通信授業課題 2
Leçon 6 〜 Leçon 10 までの練習問題を解き、レポート用紙にまとめて提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
Leçon 1 から Leçon 10 までを学習します。
Leçon 1　bon と bien の比較・最上級　［avoir + 無冠詞名詞 ］の熟語表現／vouloir と pouvoir の直説法現在の活用／直説法複合過去
Leçon 2　直説法半過去　半過去と複合過去　dormir, partir, servir 型不規則動詞の活用／さまざまな否定表現
Leçon 3　直説法大過去／直説法単純過去
Leçon 4　指示代名詞／直説法単純未来
Leçon 5　条件法現在／中性代名詞
Leçon 6　接続法現在／所有代名詞　前置詞とともに用いられる疑問代名詞
Leçon 7　分詞節／接続法過去／接続法半過去
Leçon 8　接続法大過去／接続法を要求する表現のまとめ／命令法現在／複合時制における過去分詞
Leçon 9　直説法前未来／直接話法と間接話法
Leçon 10　直説法前過去／疑問代名詞および前置詞とともに用いられる関係代名詞

それぞれの課で該当する文法を最低１〜２時間かけて予習してから取り組んでくんでください。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の中から、本文テキストの日本語訳、文法問題およびその応用問題を出題します（聞き取り問題は含みません）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
なし（フランス語初級文法の知識を持っていること）

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
藤田尊潮編註著『星の王子さまの教科書』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目　2021年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年)

【その他】

○推薦辞書
『ロワイヤル仏和中辞典　第２版』（旺文社）
『新スタンダード仏和辞典』（大修館）
『プチ・ロワイヤル和仏辞典』（旺文社）

科目名	フランス語上級						
授業コード	2180	授業科目名	フランス語上級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

原文で美術関係の文献を読むことによって、フランス語の読解力を養うとともに 20 世紀美術界の大きな流れを理解する手がかりにしたいと思います。教科書は『マン・レイ「インタビュー」』を使用します。

この本は、Man Ray, Ce que je suis et autres textes （Paris, Hoebeke, 1998）から《L’interview de camera》という章を抜粋し編集したものです。この教科書の中でマン・レイはあるときは皮肉っぽく、またあるときはユーモアに富んでいて、まさに彼の作品を彷彿とさせるようなさまざまな表情を見せています。彼のことばに接することによって、私たちは 20 世紀美術という大きな流れの一端に触れることができるでしょう。文章はおおむね平易ですし、巻末には詳細な注が付けられていますから、フランス語の初級文法を習得した学生なら辞書を使って読み進めることができると思います。ともかく、一年間で一冊を読み上げてみましょう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の p.5 〜 p.21 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2
教科書の p.22 〜 p.39 の範囲でレポート課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書本文全体 p.5 〜 p.39 までを使用します。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
「フランス語初級」（2006 年度以前では「フランス語Ⅰ」）の単位を修得していること。または、相当する学習歴を有すること。
※2006 年度までに「フランス語Ⅱ」の単位を修得している場合は履修できない。

○備　　考
フランス語の初歩を学び終えた学生を対象にした上級クラスですから、辞書を使ってある程度フランス語の文章を読むことができる必要があります。
またフランス語に多少とも興味があり、原文で美術関係の文献に接してみたいというやる気を持った学生の履修を希望します。

【教材等】

○教科書
藤田尊潮編注『マン・レイ「インタビュー」』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年)

【その他】

○推薦辞書
『ロワイヤル仏和中辞典』第2版（旺文社）
『新スタンダード仏和辞典』（大修館）
『プチ・ロワイヤル和仏辞典』（旺文社）
○推薦参考書
『パリのミュゼでフランス語！』（白水社　2002 年）

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(フィットネス)					第1期:7月27日～7月29日 第2期:8月3日～8月5日 冬　期:12月19日～12月21日	
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	北徹朗教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

現代社会においては、年齢やライフスタイル等を考慮した多層化・多様化した健康への取り組みが大変重要となってきている。この授業では、自己の健康を自主管理できる基礎知識を身につけ、各々のライフステージで健康で豊かな社会生活を実現するための幅広い知識と実践力を学習する。具体的には、身体組成・骨密度・体力測定などのデータを測定し、自分自身の身体の現状を理解し、実感と想像のズレについて追及する。それを踏まえた上で、身体運動の重要性とエクササイズ実施の方法について理解する。

【課題の概要】

○面接授業課題
自身の身体の内部(身体組成)と外部(体力)に対する機能の現状を理解するために、基礎代謝量、筋肉量、体脂肪率、骨密度などの計測と、各種体力テストを実施する。各データの点検・評価をもとに各自のコンディショニングと照合し、運動処方について考察する。

【授業計画】

○面接授業
この授業は実技授業を3日間受講する。実技の実践のほか、実技に関する理論学習が必須であるので筆記用具の持参と学習後のショートレポートの提出を求める。
大学スポーツ施設において 3 日間の実技が行われる。
第 1 日　午前: 1. 前提講義 ／2. なぜ運動は大切か
第 1 日　午後: 3. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義／ 4. 身体組成の測定、体力測定①
第 2 日　午前: 1. 体力測定②／ 2. 体力測定の評価
第 2 日　午後:3. 健康と運動、「体力」とは何か／4. ペアトレーニング、バランストレーニング、器具を使わないトレーニング
第 3 日　午前:1. 骨格筋の構造と機能、トレーニングの原則／2. トレーニングマシンの使い方とトレーニングの記録
第 3 日　午後: 3. ストレッチポールを利用したエクササイズ ／4. まとめのレポート

【成績評価の方法】

年齢差を勘案した評価と現状の自己の認識度の評価を点検するためにいくつかの項目にわたってチェックを行う。その内容は、記述式と身体表現によって行う。面接授業は出席が成績評価の重要な要素である。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱ はⅠの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱ の単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

補助教材として授業展開に応じて資料を配付する。

【その他】

資料:武蔵野美術大学身体運動文化研究室編
『スポーツ・健康と現代社会』(武蔵野美術大学出版局　2015 年)
この授業は実技授業を 3 日間 12 コマ(30 時間)受講する。実技の実践の他、実技に関する理論学習が必須であるので筆記用具の義務づけと学習後のショートレポートの提出を求める。

授業コード　:　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
0270　健康と身体運動文化Ⅱ
0280　健康と身体運動文化Ⅲ
0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(テニス)　　第1期:7月27日～7月29日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	青沼裕之教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

硬式のテニスのゲームは、サーブから始まり、グランド・ストローク(フォア、バック)、ボレー(フォア、バッグ)、ロブ、スマッシュ等の技術を駆使しておこなうものであり、プレイヤーは、打点やタイミングの習熟とともに、コースや高さの打ち分け、ゲームの駆け引きについて理解する必要がある。フォアハンドのグランド・ストローク 1 つをとっても、フラット、スピン、スライスの打ち分けがあり、これらをマスターするには、習熟への執着心とかなりの時間が必要である。
そこで、この授業では、ダブルスとシングルスのゲームにおいて、それぞれの技術(打ち方)がどういう場面で必要となるかを理解するとともに、練習の仕方を体験し理解することを目標とする。
また、この授業は、グループ学習によって、学生自身が授業へ自主的、計画的に参加することが前提となっている。教師からの一方的な伝達と指示によって技術習得がなされていくような授業ではなく、学生自らが技術を学び取っていく授業にしたい。技術学習の系統、練習方法、自己の技能やその向上過程についての認識を大事にし、そうした認識を自己の内にとどめず、交流し、互いに確認してほしい。

【課題の概要】

○面接授業課題
・テニスのゲームで必要となる技術(打ち方)とルールの理解
・グループで学習する練習方法の理解

【授業計画】

○面接授業
大学のテニスコートにおいて 3 日間の実技がおこなわれる。
第 1 日　午前:学習計画の確認、リーダー・係決定、グリップやコート等の説明、ボールを面でとら える練習
第 1 日　午後:ボールをスイートスポットでとらえる、いろんな高さのボールを打つ
第 2 日　午前:グランド・ストロークの打点とコースの打ち分け
第 2 日　午後:ボレー(フォアハンドとバックハンド)とサーブ
第 3 日　午前:ゲームで必要なルールと戦術の確認
第 3 日　 午後:グループ対抗戦(ダブルス)とまとめ

【成績評価の方法】

テニスの技術の練習方法とゲームに関するルール、ポジション、戦術の理解度、及び授業出席状況をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱ はⅠの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱ の単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

ラケット・ボールは大学で用意する。テニスシューズを用意してくること。
練習・ゲームでは、楽しき中にも知恵と工夫を盛り込んでほしい。
技術学習と関連させて、室内でテニスに関する講義を行う。
参考書、解説書は図書館に所蔵されているので、各人それを利用する。バリエーションある練習方法、技術・戦術等をそこから学ぶ。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(護身武術)　　第2期:8月3日～8月5日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

武とは戈を止めるという意味で、武術とは身を護る術のことである。また、英語では martial arts と呼ばれ、そこでは美的センスも問われることもある。例えば空手の型や太極拳の表演などは美しさを競う場合が多い。
この授業では、参加される学生の性別や年齢、体力を鑑みながら、空手、合気道、太極拳、気功などを行い、護身の基礎を養い、武術の楽しさや難しさを味わうことを目標としている。合気道のようにお互いに技を練る武術もあるし、空手のようにミットを蹴ったりしながら鍛える武術もある。太極拳や気功などは、現在健康への指向が強い。それらを適宜行っていく。
従って老若男女の参加を歓迎する。
なお、護身とは即ち身を守ることであり、単に技だけのことではない。病気等から身を守ることも護身である。そのようなことも適宜説明していく予定である。

【課題の概要】

○面接授業課題
・武術における身体運用の理解
・身を護ることと健康への理解

【授業計画】

[面接授業]
大学の卓球場にて 3 日間の実技が行われる。
第 1 日　午前:オリエンテーション、学習計画の確認、様々な武術の紹介、簡単な体ほぐし
第 1 日　午後:受身と歩法、簡単な技
第 2 日　午前:合気道の技
第 2 日　午後:空手の技
第 3 日　午前:太極拳や気功
第 3 日　午後:武術と護身、総括

【成績評価の方法】

技だけでなく、授業への取り組み方や、出席状況を勘案して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱは Ⅰの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱの単位を、Ⅳは Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　考
1 年間に履修できるのは Ⅰ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に適宜配布する。

【その他】

運動出来る服装、即ちジャージ等を持参すること。長ズボンが望ましい。
また軍手を持参すること。
ペアワークを行う。特に合気道では相手の手を掴んだり、相手に掴まれたりといった技の練習を行う。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ（バドミントン）　　第1期：7月27日～7月29日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	森敏生教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

バドミントンはいろんな年齢やレベルで楽しむことができます。その共通の面白さは、軽いラケットと独特のフライト性能をもつシャトルを介してラリーのなかで相手と多彩な「駆け引き」（戦術）を展開することでしょう。ラケットワーク（ストローク）を磨き、様々なシャトルワーク（ハイクリア、スマッシュ、ドロップなど）が使えるようになることで、「駆け引き」を伴うラリーの面白さが深まっていきます。この授業ではダブルスのゲームを中心にバドミントンの面白さを探求していきます。

【課題の概要】

○面接授業課題
下記授業計画による。

【授業計画】

○面接授業
この授業は、大学スポーツ施設において実技を 3 日間 12 コマ（30 時間）受講する。
1. 受講登録とオリエンテーション／ねらい・計画と学習の進め方、バドミントンのゲームと基礎技術、アンケート
2. ストロークのテクニック（1） ドロップ・スマッシュ・ハイクリア
3. ストロークのテクニック（2） ヘアピン、アンダーハンド
4. ストロークのテクニック（3） バックハンド
5. 試合の戦術（1） サーブとサーブリターン
6. 試合の戦術（2） 前後のゆさぶり・スマッシュにつながる配球
7. ダブルスのフォーメーション（1） サイド・バイ・サイドのポジショニングとコンビネーション
8. ダブルスのフォーメーション（2） トップ・アンド・バックのポジショニングとコンビネーション
9. 練習ゲーム（審判、記録、ゲームの運営の方法）
10. グループ対抗戦 試合の作戦と運営法、ミーティング
11. まとめ（学習を総合的に講評、まとめのレポート）

【成績評価の方法】

定められた受講時間数の出席を要する。「駆け引き」を伴うラリーを味わえる「技能と認識」及びグループワークの取り組みを重視する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱは Ⅰの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱ の単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う（多数の場合抽選による）。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

①体育館シューズを用意する。
②適宜休息を取りながら進める。ミーティングやミニ講義など知的な学習時間を設ける。
③ 夏期は発汗も多い。水分を小まめにして熱中症の予防に努める。タオル・予備の T シャツなどを準備する。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ（バドミントン）　　冬　期：12月19日～12月21日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	浅井泰詞講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業ではバドミントンの初心者を対象とすることを想定し、バドミントンの基礎技術ならびにルール（シングルス・ダブルス）や用具の取り扱いを理解し、実戦的なゲームからバドミントンの楽しさや、スポーツを行う習慣などを見つめる機会とすることを授業の目標とする。
授業は男女混合・経験者初心者混合のペア、またはグループに分けて行い、コート用具等の準備・整理は学生が主体で行う。第1日目と第2日目は主に基礎技術の習得とミニゲームを行い、第2日目午後と第3日目はリーグ戦を行う。試合ごとにペアやグループを代えて、より多くの学生と交流する機会を持てるようにする。

【課題の概要】

○面接授業課題
・バドミントンの基礎技術、ゲームのルールや用具設置の理解と習得
・ペア、またはグループによる活動

【授業計画】

○面接授業
第1日　午前：オリエンテーション／授業の進め方、グループ作り、コートと用具の説明・準備、ラケット操作、ラリー
第1日　午後：基礎技術の習得（クリア・ドロップ・ヘアピン）／ミニゲーム
第2日　午前：基礎技術の習得（スマッシュ・サーブ）／ミニゲーム・ルールの理解
第2日　午後：ゲーム
第3日　午前：リーグ戦
第3日　午後：リーグ戦、総括

【成績評価の方法】

授業の出席率、集団的学習・運営能力を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、ⅡはⅠの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱの単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　考
1年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち1科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う（多数の場合抽選による）。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

運動に適した服装（ジャージ等のスポーツウエア）を着用し、室内用シューズを準備すること。ラケット、シャトル等の用具は大学で準備するが、個人のラケットを使用したい場合は持参しても構いません。
また水分補給ができるように飲料水を持参しておくことが望ましい。

授業コード　：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(ダンス)　　第2期:8月3日～8月5日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	荻山幸子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

スペインの南部、アンダルシア地方を発祥とする「フラメンコ」について学ぶクラスです。まず手始めに、セビリア民謡の「セビジャーナス」の踊りをマスターします。これはスペイン人の老若男女、誰もが踊れる最もポピュラーな踊りで、フラメンコの練習生はまずこの踊りから始めます。毎年 4 月の末に「フェリア」と言われる春祭りがあります。一週間、「カセタ」という沢山の大きなテントの中で皆セビジャーナスを踊り明かします。いつかスペインを訪れた時、その踊りの輪の中へ自然に溶け込んで一緒に踊れる様になりましょう。また、ヨーロッパに於けるスペインの歴史や、スペイン芸術の中に於ける「フラメンコ」や「ロマ」についての資料を配布します。好奇心とチャレンジ精神と、不思議だなと思う心を持って授業に参加して下さい。今までとは一味違ったスペイン感、フラメンコ感を持てると思います。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストに沿って、踊る上で大事な知識をまず説明します。(基本的なリズム等)

【授業計画】

○面接授業
大学の剣道場に於いて 3 日間行います。
第 1 日　午前:学習計画の確認、グループ分け。基本の説明。(できればビデオ等も活用する)担当教師の手本の実演。
第 1 日　午後:「一番」「二番」の振り付け
第 2 日　午前:前日のおさらい。「三番」の振り付け。
第 2 日　午後:「四番」振り付け。講義。
第 3 日　午前:セビジャーナスの総仕上げ。
第 3 日　午後:「フィエスタ」を行う。その後、スペイン談義やフラメンコ論、ダンス論など大いに花を咲かせましょう。

【成績評価の方法】

出席を重視し、授業参加度も合わせて総合評価する。
まず絶対に出席する事。踊れる様になる事。「休まない、覚える、忘れない、楽しむ。」の精神でやりぬいて下さい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱは Ⅰの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱの単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

なし

【その他】

とにかく汗をかきますから、上着は汗をよくとるTシャツ(替えがある方が良い)下はスパッツでもトレパンでも良いですが、女性は長めのフレアースカートがあれば尚良い。
必ずくつ下をはいて下さい。男性は革ぐつ、女性は中ヒールパンプスを用意して下さい(サンダル、ミュール、スニーカーは不可)。少し長めのタオル。
資料はプリントして配布します。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(ゴルフ)　　第2期:8月3日～8月5日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	鈴木タケル講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ゴルフは 500 年以上もの歴史を持つスポーツである。近年では、2016 年リオデジャネイロオリンピックから約 100 年ぶりに正式競技への復帰を果たし、人気の高いスポーツとして国内でもゴルフ人口は多い。本授業では、ゴルフとはどのようなスポーツであるかを理解し、プレーをする上で最低限必要なエチケット・マナー及びルールを学習するだけに留まらず、巧くプレーを行うための道具の知識やスイング動作の基本練習を行う。ゴルフは、イギリス生まれの紳士のスポーツとして知られているため、特にエチケット・マナーやルールについての理解も重視する。授業前半は、クラブの握り方やスイング動作の基本を学習し、授業後半では、グラウンドに仮設コースを設定し、スコアを記録しながらラウンドプレーの方法を学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題
・ゴルフの歴史と基礎知識
・ゴルフ用語と用具の知識
・ゴルフスイングの基本
・ラウンドの基本

【授業計画】

○面接授業
大学のグラウンドで実技を行う。
第 1 日　午前　学習計画の説明　基礎知識の説明
第 1 日　午後　グリップ・アドレス　小さいスイング
第 2 日　午前　前日の復習練習　　ハーフスイング
第 2 日　午後　フルスイング　　各クラブの練習
第 3 日　午前　パッティング　アプローチ
第 3 日　午後　ラウンドの方法

【成績評価の方法】

授業出席状況 60%、技術マナーに対する理解度 40%

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱ はⅠの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱ の単位を、Ⅳは Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

運動着運動靴に着がえ、ゴルフ用手袋の用意をすること。
ゴルフクラブ、ボール等については大学で用意する。
屋外での授業が中心となりますので、各自、暑さ対策をお願い致します。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(エチュード)　　冬　期:12月19日～12月21日						
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	荻山幸子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

実技では「からだ造り」という点から「柔軟な筋肉」「しなやかなボディライン」「力強い動き」を持つ事を目指す。機具を使わず自分の骨格や筋肉で支える事が出来る様にして「コントロールする事」をからだに覚えさせる。「存在する肉体」という観点から、表現する事とは存在を証明する事とはどういうことかを、演劇、美術、音楽、文学等あらゆる芸術的手法と日常の所作等の手法を用いて「思考する身体」あるいは「心が宿る器」つまり「人間」そのものを追及する体験を実験的、前衛的な方法でやってみる。発想の転換が必要。自己の内面を意識する為の行為を体験してその結果「内なる他者」を見出し、対話し、真に個として確立された存在を造り上げて行く。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストに沿って、課題を進めて行きます。

【授業計画】

○面接授業

【成績評価の方法】

出席、参加度を重視します。
まず絶対に出席する事。「楽しむ」の精神でやりぬいて下さい。授業への熱心な取り組みを望みます。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱ はⅠの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱ の単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

なし

【その他】

“ダンス”“パフォーマンス”“演劇”という先入観を持たず、好奇心を持って臨んでください。
授業以外ではなるべく様々なジャンルの芸術に触れて、ボーダーレスな感性を培ってください。
授業の時必ずくつ下をはく事。必ず着替える事(特にジーンズ等体を締めつける服装は不可)。
長めのタオルを持参すること。アクセサリーははずすこと。バレエシューズ等を用意できない場合は、足裏にすべり止めのついた厚手のくつ下を使用すること。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ（卓球）				第1期：7月27日～7月29日 冬　期：12月19日～12月21日		
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	里見悦郎講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

卓球は年齢、性別に関わらず体力に応じて楽しむことができるスポーツです。木製の台の中央のネットをはさみ、ボールをラケットで打ち合い得点を競います。返球のための時間が短く、瞬時にボールのコースを読み、打ち返すなどすばやい判断力と敏捷性が求められるスポーツです。そして、実力と体力に合わせゲームを楽しむことでレクリエーショナルなスポーツとして生涯を通じて続けることができるスポーツでもあります。授業ではラケットの持ち方から、サービスの仕方、ボールへの回転の付け方など基本技術から地道に学び、ゲームを楽しみ、スポーツのある生活の意義を考えてもらいます。

【課題の概要】

○面接授業課題
・卓球の基本テクニックを学び、シングルス・ダブルスゲームを経験する。
・シングルス・ダブルスゲームを実力に合わせ楽しみ、スポーツのある生活の意義を考える。

【授業計画】

○面接授業
大学の卓球場にて、3 日間の実技を行う。
第 1 日
①チーム編成、用具の説明と具体的な授業の進め方の説明。
②ラケットの握り方（ペンホルダーグリップ、シェークハンドグリップ）。
③打法の習得　ショート打法（プッシュ、ストップ）、ロング打法（フォアハンド・バックハンド）、カット打法（フォアカット、バックハンド）。
④サービスの技法の習得（フォア、バック）
⑤ルールの習得（シングルス・ゲーム）
⑥サービスからラリーへの入り方の練習
⑦クロス・ラリーの練習と練習試合
⑧シングルスルールの学習と練習試合と審判実習
⑨戦術の研究と練習試合
第 2 日
①ゲームを中心にした授業へ移行
②ダブルスのローテーションの練習とルール（ダブルス・ゲーム）の学習
③戦術の研究
④チームワークの研究
⑤シングルスゲームとダブルスゲームによる練習試合
⑥チーム対抗試合の企画と運営
第 3 日
実力に合わせた対抗試合を楽しみ、卓球のテクニックを磨く

【成績評価の方法】

全授業の出席状況を基に、ゲームへの取り組み方、テクニックの上達など総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
Ⅰはなし、Ⅱ はⅠの単位を、Ⅲは Ⅰ、Ⅱ の単位を、ⅣはⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得していること。
○備　　考
1 年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち 1 科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う（多数の場合抽選による）。

【教材等】

なし

【その他】

ラケット、ボール等の道具は学校に整備されている。卓球にふさわしい運動ができる服装、シューズを各自準備する。
テキスト・参考文献として、本・ビデオ等を準備する。

授業コード ：　0260　健康と身体運動文化Ⅰ
　　0270　健康と身体運動文化Ⅱ
　　0280　健康と身体運動文化Ⅲ
　　0290　健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と体力研究						
授業コード	0300	授業科目名	健康と体力研究			担当者	北徹朗教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

この授業は、通信授業として位置づけられているが、授業の内容からして理論と実践の統一こそが課題であり目標である。この通信課題では、健康で活力ある人生を送るための基礎研究として、自分の身体や体力の現状を把握し、それに応じた生活習慣とは何かを考察することを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題
交通、通信、宅配、インターネットなど、現代社会は便利なもので溢れている。「便利である」とはどういうことか？を考えた時、それは如何に身体を動かすことなく省力化した日常生活を送るかということとも捉えられる。
人類 10 万年の歴史において、おなかいっぱいに食べられるようになり、前述のような便利な社会が到来したのはごく最近のことである。私たちの祖先はアフリカ大陸からシベリアを経て日本列島に辿り着いた。こうした経緯から、日本人を含む東アジアの人々は欧米人に比べて食事によって得たエネルギーをできるだけため込もうとする、いわゆる“倹約遺伝子”が強く作用していると考えられている。日本においてもファストフードや食の欧米化は既に広く普及しており、現代社会に生きる私たちは「エネルギー摂取とエネルギー消費（インとアウト）のバランス」に注意を払う必要がある。食物の栄養素のバランスも勿論大切であるが、エネルギーのインとアウトのバランスを保つことは、身体運動が省力化された便利な現代社会では困難となっている。
この通信課題では、健康で活力ある人生を送るための基礎研究として、自分の身体や体力の現状を把握し、それに応じた生活習慣とは何かを考察することを目的とする。

【授業計画】

○通信授業
教科書の該当部分を使用する。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
武蔵野美術大学身体運動文化研究室編『スポーツ・健康と現代社会』　（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

身体と運動、身体と健康、健康と環境、スポーツと健康、運動と健康等に関して、専門情報誌やマスメディア、インターネット等を利用して情報収集することが望ましい。

科目名	身体運動文化研究						
授業コード	0310	授業科目名	身体運動文化研究			担当者	青沼裕之教授、森敏生教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

私たちは様々な理由からスポーツを欲している。「健康やダイエットのため」「仲間との触れあいがほしい」「上達して気持ちよくプレーしたい」 等々。しかし、日本の地域社会の現状は、スポーツを愛好する国民の要求を十分に満たしうるにはほど遠い。地域差もあるだろうが、スポーツをする時間、施設、指導者等の客観的な条件が整っていないところが多く、要求があっても活動するまでにいたらないという声をよく聞く。

そこで本講座では、スポーツの環境、国や自治体の政策、国民がスポーツを我がものとするための運動に視点を定めて、問題意識を深めるとともに上述した課題解決の方途を探ってみたい。

【課題の概要】

○通信授業課題
レポート課題の選定にあたっては、以下の点に注意してほしい。
・ 課題 A、課題 B のうち、どちらかを選んでレポートを作成すること。
・ 課題によっては複数のテーマの中から 1 つを選択することになっているので、その点注意すること。
・ テキストや参考文献については学習指導書に書かれているので、参照すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書や参考資料を使用する。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
武蔵野美術大学身体運動文化研究室編『スポーツ・健康と現代社会』 （武蔵野美術大学出版局　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』 （武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	美術の歴史と鑑賞						
授業コード	2290	授業科目名	美術の歴史と鑑賞			担当者	教授 金松 幸一、教授 輔澤 圭三、教授 大坪 圭輔、教授 杉浦 伸一、講師 有賀 康博、講師 齊藤 維、講師 永林 佳子、講師 代実
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

学校の美術教育の現場では言語活動を中心とした鑑賞の授業の重要性が高まっている。また教育基本法や博物館法などの改正のなかで、美術館を含めた広範な場所で鑑賞教育の重要性もまた高まっている。

そこでこの授業では、美術科教員、学芸員または美術の社会的普及を目指す立場の者が、古代から現代までの世界の美術の歴史についての基本的な知識を得て、さらに子どもから大人まで誰にでも開かれた美術鑑賞を担うことを目標とする。その際、特定の時代や地域に限定せず、日本の伝統美術やアジアを含めた世界的な美術の交流について、深い知識と実践につながる構想を持つ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日本・東洋・西洋を比較した美術の流れを考える課題。

○通信授業課題 2
鑑賞の意義と構想を論じる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
『美術　表現と鑑賞』のうち「鑑賞編」「資料編」「美術史年表」を中心に学習する。
『求められる美術教育』のうち第 1 章及び第 2 章 第 3 節「鑑賞の題材と教育方法」を使用する。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書に記載された日本・東洋・西洋の美術の歴史を題材に、作品が作られた時代の物事の味方や考え方、作品を人に説明する際の基本的な流れについて出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
日本造形教育研究会監修『美術　表現と鑑賞』（開隆堂出版）
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	日本美術史						
授業コード	0320	授業科目名	日本美術史			担当者	玉蟲敏子教授、坂本明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

生活の中で根付き、育まれてきた日本の造形の歴史を学びます。まず絵画作品を中心に学習し、そこから更に、彫刻や工芸にも視野を広げてほしいと思います。

造形作品には常にそれぞれ固有の価値があると共に、製作者の存在や受容者の意識、社会的な機能・用途があり、更にそれを生み出した時代的、文化的な背景をめぐる問題があります。複数の視点から作品をじっくりみつめ、日本の造形文化を深く理解して頂きたいと思います。加えて学習の過程で感じた事柄などを生かし、受講者の視点がレポートなどの文中にも積極的に盛り込まれることを期待します。

【課題の概要】

○通信授業課題１
12 世紀のやまと絵の技法を伝える「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」の 2 点を比較し、文化的背景などに留意しながら、それぞれの表現上の特色を述べなさい。

○通信授業課題 2
江戸時代の庶民文化の華とも称される浮世絵、その中から任意の一名を選び、作品を挙げて特質を論じなさい。なお肉筆画と版画の役割、技法、時代背景、国際交流などの観点を理解した上で課題を進めること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書は、第 1 章「生活の造形」、第 2 章「宗教の造形」、第 3 章「作家の造形」の項目順に掲載されています。教科書全体を熟読してまず流れを把握し、該当する作品を丁寧に鑑賞した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。
第 1 部　生活の造形
第 1 章　狩漁民族の造形　第 2 章　農耕民の造形　第 3 章　王族の造形　第 4 章　公家の造形
第 5 章　武家の造形　第 6 章　町衆の造形　第 7 章　民衆の造形
第 2 部　宗教の造形
第 1 章　原始信仰の造形　第 2 章　神道の造形　第 3 章　顕教の造形　第 4 章　密教の造形
第 5 章　浄土教の造形　第 6 章　禅の造形
第 3 部　作家の造形－美術家の系譜－
第 1 章　画家　第 2 章　書家　第 3 章　彫刻家と工藝家　第 4 章　茶匠と花匠

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
水尾比呂志著『日本造形史　用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

まずは教科書や関連図書の図版などを丁寧に鑑賞し、作品の特徴を感じ取りましょう。また各種展覧会にも足を運ぶなど、日頃から作品に触れる機会を積極的にもって下さい。作品に親しみ、日本美術の特質を広い視野からとらえて欲しいと思います。
また通信課題 1、2 は主に第 1 部と第 3 部に関連する内容となりますが、教科書全体を熟読して流れを把握した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。更に参考文献なども適宜参照し、課題に関する知識を深めましょう。

科目名	東洋美術史						
授業コード	0330	授業科目名	東洋美術史			担当者	朴亨國教授、萩原哉講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

東洋とは、西アジア・中央アジア・南アジア・東南アジア・東アジア地域を総じている。本授業では、西アジアを除くそれら諸地域の美術史を対象とする。課題 1 では、東洋（日本を除く）で生み出された美術作品を通して、美術史の研究方法を学ぶ。課題 2 は、課題 1 の応用である。東洋と日本を結ぶアジア的な視野に立ち、造形活動の交流と展開について理解を深めることを目標としている。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
①～⑥のテーマのうち いずれか一つを選択し、作品 3 点以上を取り上げて、美術史の流れを具体的に論じなさい。
① 仏像の発生及び初期仏像の様式変化について　―グプタ時代までのマトウラー仏とガンダーラ仏を中心に―
② アンコール期の寺院建築と浮彫彫刻について　―バンテアイ・スレイ、アンコール・ワット、バイヨンを中心に―
③ 北魏時代から唐時代までの仏像の様式変化について　―雲岡石窟と龍門石窟を中心に―
④ 統一新羅時代の仏教彫刻について　―仏国寺と石窟庵を中心に―
⑤ 五代～北宋時代の水墨山水画について　―李成・范寛・郭熙を中心に―
⑥ 元～明時代の青花について　―元・洪武・永楽を中心に―

○通信授業課題 2
東洋美術の作品の中から、任意に 1 点を選択し、美術史の視点に立って作品を考察せよ。さらに、その作品が日本美術に与えた影響について考察せよ。

＊課題については、学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書を使用する。課題 2 のテーマは、教科書の中から選ぶこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書から出題（論述・記述式）

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得を希望する者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
朴亨國監修『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

この授業は、受講者が『造形文化科目/文化総合科目・教職に関する科目学習指導書』と教科書の序章に書かれている内容を理解していることを前提として成り立っている。したがって、学習方法及び課題の目的と考察方法を正しく、理解していないレポートは、採点の対象にならない。

科目名	西洋美術史 Ⅰ						
授業コード	0340	授業科目名	西洋美術史 Ⅰ			担当者	北澤洋子教授、宮崎匠講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業(Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

西洋美術史は、古今の美術作品に触れ、様々な文化と造形表現、創造のありように対する理解を深めることを目的とする。この科目では、紀元前 4 千年紀から 15 世紀までの、古代・中世の美術史を取り扱う。四大文明、地中海文明の成立から古典古代様式という西洋美術の根幹となる規範の確立を経て、キリスト教や他民族の文化の融合によって西洋文明の伝統がいかにして形成されてゆくかを考える。特に、絵画や彫刻に加え建築や工芸の代表作に触れながら、形と意味、物の見方が歴史的にどのように継承されたり、移り変わったりしたのか理解することに努めることになろう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書を踏まえて、エジプト、メソポタミア、ギリシャなどさまざまな地域で展開した古代美術の特性について考察する課題である。

○通信授業課題 2
教科書を踏まえて、中世美術の本質とその後代における継承のあり方について考察する課題である。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 1 章ならびに第 2 章を使用する。
1「古代」
1. エジプト美術／ 2. メソポタミア美術／ 3. エーゲ美術／ 4. 古代ギリシャ／5. エトルリアとローマの美術
2「中世」
1. 初期キリスト教時代／ 2. ビザンティン美術／ 3. 西欧中世初期／ 4. ロマネスク美術／5. ゴシック／ 6. 早期ルネサンスのイタリア絵画／ 7. 初期ネーデルラント絵画

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2006 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	西洋美術史 Ⅱ						
授業コード	0350	授業科目名	西洋美術史 Ⅱ			担当者	北澤洋子教授、楠根圭子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この授業では、西洋におけるルネサンスから現代に至る美術の歴史を学ぶ。具体的には、15 世紀から 20 世紀までのさまざまな芸術の潮流や運動の特徴について、作家や作品に即しながら理解することを目的とする。とはいえ、芸術を独立した現象として捉えるのではなく、それぞれの芸術様式が独立した時代背景を考慮しつつ、その社会的な役割についても理解を深めたい。また、単に教科書や参考文献で得られた知識を整理・羅列することで満足するのではなく、自分自身の眼で画集の図版や実際の作品をじっくりと鑑賞することによって、それらの知識に肉づけをしていくことをも重視する。いわば知性と感性の両面から、西洋美術の流れを多角的に理解することを目指したい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書や参考書を踏まえて、特定の美術潮流とその時代背景について論述する。

○通信授業課題 2
受講者が実際に鑑賞した美術作品 1 点について記述を行なう。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の以下の該当部分を使用する。
第 3 章「近世」、第 4 章「近代」、第 5 章「現代」

【成績評価の方法】

◎科目試験
出題範囲は教科書の第 3 ～ 5 章とする（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局　2006 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

平素から近隣の美術館、展覧会等で多くの作品に接すること。

○参考書
教科書巻末（236 ～ 237 頁）の参考文献一覧を参照のこと。
インターネットで複製図版を参照するには下記のサイトが有用である。
Web Gallery of Art （http://www.wga.hu/）

科目名	建築史						
授業コード	0360	授業科目名	建築史			担当者	足立純子講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

ヨーロッパを中心とした建築と都市の歴史を、古代から中世、さらには近世から初期近代にわたって通観する。建築の様式や変遷を単にたどるだけではなく、それぞれの時代に特有の社会や経済、そして文化を生み出してきた人類の歴史のなかで、建築や都市は、どのような役割を果たし、どのように変化と発展を遂げてきたかを、各時代において考察していく。そうした学習によって、建築における機能、構造、材料、美学などの時代による変化を理解し、それぞれの地域風土の差異によって生まれた建築様式の多彩な変貌と展開の跡をたどることを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書「序章」（建築史の概念）と「第 1 章　古代およびヨーロッパ建築周辺史」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 2
教科書「第 2 章　中世」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 3
教科書「第 3 章　ルネサンス以降のイタリア建築の展開」「第 4 章　イタリア以外のヨーロッパの近世建築」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 4
教科書「第 5 章　新古典主義と 19 世紀の建築」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。
＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書「序章」から「第 5 章」と、関連する参考文献・資料（学習指導書参照）を使用し、古代から 19 世紀までの建築史を読み進める。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書に準じて出題した科目試験の成績によって評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 〜 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
谷口汎邦監修、吉田鋼市著『西洋建築史』（森北出版株式会社　2007 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

課題、授業計画、参考文献の詳細は、学習指導書を参照のこと。

科目名	デザイン史						
授業コード	0370	授業科目名	デザイン史			担当者	木田拓也教授、新川徳彦講師
開講期間	通年	単位数	通信授業(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

産業革命以降の近代社会において、モノのデザインは人とどう関わることになったのか。いわゆる近代デザインの運動が新しい産業社会に対して様々なアプローチを試みる一方で、消費社会には膨大なモノが氾濫し、人々の欲望を喚起させてきた。単なるデザイナーやその作品の理解にとどまらない幅広いデザイン認識の中で 19 〜 20 世紀という時代背景を理解しながら、デザインが人々の日常生活をどのように変えていったのかの歴史を学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
モダン・デザインの運動を下記の選択群の中からひとつ取り上げ、モダン・デザインのプロジェクト全体が目指したものとの関連の中で論じなさい。
選択群：「アーツ・アンド・クラフツ」「アール・ヌーヴォー」「未来派」「デ・ステイル」「ドイツ工作連盟」「バウハウス」「アメリカのインダストリアル・デザイン」「ロシア・アヴァンギャルド」「アール・デコ」「ポストモダン」

○通信授業課題 2
モダン・デザインと深く関わる「人物」をひとり取り上げ、社会との関わりについて触れながら、その歴史的位置づけをまとめた上で、自分の視点から評価しなさい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
主に教科書を使用する。
序論 「デザイン史の現在」
1 章 -1 「近代デザインにむかって」
1 章 -2 「近代デザインの展開」
2 章 「グラフィックデザイン」
3 章 「エディトリアルデザイン」
4 章 「ファッションデザイン」
5 章 「クラフトデザイン」
6 章 「プロダクトデザイン」
7 章 「建築」
おわりに 「モダニズムの展望」

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 〜 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
柏木博編『近代デザイン史』（武蔵野美術大学出版局）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

参考文献は、学習指導書の「参考資料」欄を見ること。

科目名	演劇史						
授業コード	2190	授業科目名	演劇史			担当者	今岡謙太郎教授、赤井紀美講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

舞楽・能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃・落語…。日本では、それぞれ生まれた時代の違う各種の演劇芸能が変容を経ながらも今日なお滅びることなく、生き生きと上演されている。

この授業ではそうした日本の古典演劇・芸能の流れと、それぞれの特色を見ていく。演劇史の基本的な知識を身につけつつ、どうしてこれだけ多くの古典演劇（芸能）が日本に残っているのか、なぜ現代の我々がそれに魅力を感じるのか、といった問題を考えていただきたい。教科書の内容は通史的に展開しているが、単に知識を身につけるだけでなく、そこから自分なりの演劇史に関する考えを作り上げて欲しい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書の第 1 章から第 5 章までに記されている事柄の中からとくに興味を抱いたもの（歴史的展開、人物、作品、ジャンルの特色など）について、自分の鑑賞経験と関連づけて論じなさい。単なる要約や感想だけでなく、自分なりの考えを出すようにして下さい。
タイトルは各自でつけ、参考にした資料の出典（著者、出版社、発行年月など）を必ず記すこと。鑑賞経験については日時、演者など出来るだけデータを添えること。

○通信授業課題 2
教科書の第 6 章から第 11 章までに記されている事柄の中からとくに興味を抱いたもの（歴史的展開、人物、作品、ジャンルの特色など）について、自分の鑑賞経験と関連づけて論じなさい。単なる要約や感想だけでなく、自分なりの考えを出すようにして下さい。
タイトルは各自でつけ、参考にした資料の出典（著者、出版社、発行年月など）を必ず記すこと。鑑賞経験については日時、演者など出来るだけデータを添えること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『日本古典芸能史』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
今岡謙太郎『日本古典芸能史』（武蔵野美術大学出版局　2008 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

教材以外の主要参考文献は教科書末尾に一覧表を掲げるので、参照すること。

科目名	民芸論						
授業コード	0380	授業科目名	民芸論			担当者	玉蟲敏子教授、杉山享司講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

柳宗悦の民芸論が、どのような経緯で生れたかといったことを、先づ雑誌『白樺』に発表された初期の柳の諸論文に当って考察し、次いで、柳が純粋美術から工芸へ関心を向けるきっかけになった朝鮮工芸の美を、日本民藝館などの美術館で鑑賞して、柳の工芸美との出会いを追体験していただく。その上で、日本の民衆的工芸品へ関心を向けてもらい、柳の言う民芸論とは何かについて、柳の論文と実際の物を照らし合わせて考察してもらうこととする。そして、これからの民芸の在り方や実生活との関わりについて、各自の理解と関心を深めてもらうことを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「私的民芸論」という論文を提出して下さい。

○通信授業課題 2
居住地域あるいは居住する近隣地域で、あなたが民芸と考える品物の製作現場を訪ねて、その仕事の調査を行い、現在の状況等々を報告して下さい。現場に関する写真を必ず添えて下さい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書以外の参考図書も最低二冊は熟読し、その上で通信課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
柳宗悦『民藝とは何か』（講談社学術文庫）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

○参考文献
『民芸大鑑（5 巻）』（筑摩書房）
『柳宗悦全集（22 巻）』（筑摩書房）
水尾比呂志『評伝柳宗悦』（筑摩書房）
柳宗悦『民芸四十年、工芸文化、手仕事の日本、民芸紀行、美の法門』（岩波文庫）
『柳宗悦コレクション「ひと」「もの」「こころ」（３巻）』（筑摩書房）
水尾比呂志『日本造形史 ―用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局）
鶴見俊輔『柳宗悦』（平凡社ライブラリー）
中見真理『柳宗悦』（岩波新書）
志賀直邦『民藝の歴史』（ちくま学芸文庫）
松井健『柳宗悦と民藝の現在』（吉川弘文館）

科目名	美術論						
授業コード	0390	授業科目名	美術論			担当者	細井眞子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「美」とは何かという本質的な問いを軸として、古代から現代にいたるまでの美術の流れを巨視的に考察する。美術史学についての基本的理解を獲得することを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「やまと絵」の定義の変遷についてまとめなさい。

○通信授業課題 2
日本美術における、芸術と社会とのかかわりについて考察しなさい。できるだけテーマを絞り、具体的な記述でまとめること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書および、各自のテーマに沿った参考文献を適宜、参照のこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書を中心に出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
辻惟雄監修『増補新装カラー版日本美術史』（美術出版社　2003 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

積極的に美術館、博物館、ギャラリー等の展覧会に足を運び、古今東西の美術を体験してほしい。

科目名	現代芸術論						
授業コード	0400	授業科目名	現代芸術論			担当者	岡山理香講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「現代芸術」という言葉は、多くのことを意味しえますので、ここでは、20 世紀以降の視覚芸術全般を指すことにします。時代区分として、現代芸術を第二次世界大戦以降のものとするのは、アメリカ美術を中心とした考え方ですので、ここでは、モダン・アートもコンテンポラリー・アートも含みます。

しかし、全ての 20 世紀以降に制作されたものを現代芸術と呼ぶことはできるでしょうか。現代芸術の定義とは何でしょうか？　なかなか答えにくい問いですが、たとえば、ある作品を前にして、それを日常の延長として理解することが極めて難しいものほど現代芸術という範疇に属している可能性が高いと言えるでしょう。

さて、そうした現代芸術を同時代的な現象としてその日々の変化をリアルタイムに追うことはきわめて困難です。多くの作品を実際に見るに止まらず、雑誌、新聞、テレビ等のメディアをも調べなければなりません。その後に蓄積された膨大な量の情報は、理論という篩いにかけられて、はじめて理解可能となるのです。また、今日の芸術は、過去との連続として語られるものです。アクチュアルな問題を扱うには、今日までの芸術の歴史と理論を知る必要があります。

学生諸君が、21 世紀の芸術の制作／享受する者として、現代芸術の理論を作品とともに理解することをこの科目の目標とします。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
20 世紀芸術を概観しながら、芸術における「～主義（イズム）」とは何かを考えるため、一つの「主義（イズム）」を中心として、その派生と終焉／継続についてレポートにまとめる課題。

○通信授業課題 2
それまでの特権的に享受されていた芸術が「大衆化」することによってどのような変化を遂げたのかを考えるため、作品の分析研究に基づいてレポートをまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
像と視線―ポップアート以降のイメージについて　真剣な操作―『リアルな芸術』のありか　フェミニズムの芸術　アートと映像インスタレーション　日本の 20 世紀をめぐる視点　身体の裁縫術―ファッションと性　「デザインとは何か」を考えるために

【成績評価の方法】

◎科目試験
出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
「西洋美術史 I・II」、「東洋美術史」とともに履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
田中正之編『現代アート 10 講』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	工芸論						
授業コード	0410	授業科目名	工芸論			担当者	玉蟲敏子教授、長岡絵美子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

形（かたち）を生み出す行為は、工人の「技術（わざ、つくり）」と「意匠（かざり）」によって成り立っている。これに加えて「用」の観点がその行為を発する源にある。この授業科目では、このような前提をふまえ、日本の工芸史のうえで特筆されるべき事象について、更なる切り口で考察する。東西の造形的文化交流を視野に入れながら日本の工芸の特質を浮き彫りにしようとする意欲を期待したい。

また教科書では扱わない明治以降の工芸史については、いわゆる「人間国宝」という存在を通して学ぶことにより、現代における伝統工芸へのさまざまな問題意識を持って欲しい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日本の工芸のうち、海外との交流から影響を受けたと考えられる作品を選び詳述しなさい。

○通信授業課題 2
任意の重要無形文化財について述べなさい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
『造形文化科目・教職に関する科目学習指導書』所収「学習の進め方」（必読）の項目で指摘したように、教科書『日本造形史』では、工芸を扱う箇所が様々な視点から折り畳むように扱われているので、そこを丁寧に読み解くこと。
①各人の参考とする美術全集、文献、図版などの選択を行いつつ、教科書の読解を行う。
第 1 部「生活の造形」
全 7 章で、造形史の基礎全般を学ぶ。
第 2 部「宗教の造形」
第 1 章（原始信仰の造形）、第 3 章（顕教の造形）、第 6 章（禅の造形）
ここでは工芸に関係する 3 つの章を学ぶ。
第 3 部「作家の造形」
第 3 章（彫刻家と工芸家）、第 4 章（茶匠と花匠）
ここでは工芸に関係する 2 つの章を学ぶ。
②通信教育課題での学び方
課題 1 では教科書と参考文献を利用してテーマを絞り、海外との比較を通して日本の造形を学ぶ。
課題 2 では人間国宝を学び、身近にあるわざの伝承を調査し、認識する。

【成績評価の方法】

◎科目試験
科目試験には、教科書の内容、及び課題 1、2 に関連した問題を複数問、記述式で出題する。少なくとも教科書に掲載される工芸の図版（カラー、白黒とも）についての説明はできるように学習しておくこと。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
水尾比呂志『日本造形史　用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

身の回りの工芸品から博物館などで見られる工芸品まで、常にその世界に触れることを心掛けよう。

科目名	印刷文化論						
授業コード	0420	授業科目名	印刷文化論			担当者	田村裕教授、杉山聡講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

15 世紀半ばのグーテンベルクによる活版印刷術の発明以降、印刷技術と印刷メディアの発展が、近代文明の構築や造形芸術の展開といかに密に関わり、底支えをしてきたのかについて理解を深めることを目標とする。また、その学習をふまえて、印刷の果たしてきた役割が、21 世紀以降の社会において、どのように引き継がれ、あるいは引き継がれずに変容していくのかを自分の視点で考察しうる能力を養う。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
自分のこれまでの生活の中で、強く印象に残っている印刷物（出版物や附録、広告、包装紙、玩具など。版画作品やパソコンでプリントアウトしたものは含まない）を 1 点（1 冊）だけ取り上げ、「その印刷物と私の関わり」について分析・考察して論じなさい。

○通信授業課題 2
三版方式（凸版印刷・凹版印刷・平版印刷）の各々について、「文明史的役割」と「芸術的役割」を論じなさい。

○通信授業課題 3
近代文明のあり方と印刷物のかかわりについて論じなさい。

○通信授業課題 4
21 世紀以降の文明における印刷の役割あるいはそれに代わるものの可能性について論じなさい。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
以下のような教科書の構成に沿って学習を進めるものとする。
0. はじめに
1. 印刷とは
2. 凸版印刷
3. 凹版印刷
4. 平版印刷
5. 紙
6. 書物の形態
7. 印刷と文字
8. 書物の機能
9. 印刷と文化

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
酒井道夫『印刷文化論』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

参考文献は、教科書の末尾に記す。追加する情報は、順次、刊行物、Web 上に提示する。

科目名	映像文化論						
授業コード	0440	授業科目名	映像文化論			担当者	林司講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

今日は映像化社会といわれるが、その「映像」技術の原点は、いまから約 180 年前に発明された写真である。写真術の出現は、人々の知識や経験の共有を豊かにし、社会の近代化を加速するとともに、映画を始めさらなる映像技術の開発を促した。また映像メディアの実用化は、造形表現、視覚認識の方法、そして技術的学問的な面での方法論に、 大きな変革をもたらした。本講ではそれらの変遷に関心を払い、写真の歴史を軸として「映像」の関与という観点からの文化論を展開する。

【課題の概要】

4 単位の学習成果をあげるために、4 回の通信課題を提出する。
教科書の消化を前提とした上で、各学生のこれまでの映像体験を照らし合わせ、きわめて身近なテーマを分析、考察する段階から始める。回を重ねるごとに、各人が映像文明についての洞察的姿勢を獲得していくことを望む。なお、web・郵送ともに、レポート文字数の中に参考資料・参考 URL 等の注釈は含まない。

○通信授業課題 1
「写真」とは何かを、自身の体験をもとに述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 2
写真の発明と発達が、社会に及ぼした影響を写真の歴史をふまえて考察しなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 3
芸術としての写真について、19 世紀半ば以降の写真の歴史をもとに考えるところを述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 4
デジタル技術やネット社会におけるデジタル写真の利点と問題点を述べ、デジタル写真ならではの作品を制作している写真家の例をあげなさい。図版、写真等 1 〜 3 枚まで添付のこと。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
序「写真史」を学ぶことについて―写真と現代生活の関係を捉え直す
1. 写真前史―その知識伝統の系譜
2. 写真術の誕生―発明者達
3. 写真活用の第一歩―旅行・調査・記録
4. 肖像写真と新しい社会―市民社会の息吹を受けて
5. メディアとしての写真の台頭―社会の実相を映す鏡
6. 新しい芸術思潮と写真―両大戦間の前衛芸術の興隆
7. グラフジャーナリズムの時代―雑誌文化と市民社会
8. 芸術行為としての写真の始動―ドキュメンタリー写真の新たな意味
9. 映像化社会におけるアイデンティティー―現代芸術に見る写真の応用
10. 転換期の写真表現と未来への展望―デジタル写真技術の可能性と視覚伝達の文化

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
平木収『映像文化論』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

写真を中心として映像全般を鑑賞する機会を大切にすること。
美術館やギャラリー等の展覧会に足を運んだり、写真集や雑誌、Web などを活用して、様々な写真に触れて“見る目”を養うこと。

科目名	デザインマネージメント						
授業コード	0450	授業科目名	デザインマネージメント			担当者	白尾隆太郎教授、佐藤典司講師、渡辺衆講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

デザインは単なる造形行為ではなく、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる知識を人間性、社会性、芸術性の基に統合して問題を発見し、課題を構築し、総合的に解決する活動である。デザインマネジメントはその目標の実現に向けて、デザインの機能、能力、組織を有効に発揮させるための経営管理である。急激に進展する情報社会の中で、デザインマネジメントに対する要求はより高度化、複合化しており、他分野とのコラボレーションはますます重要になって来ている。デザインマネジメントを学ぶには、デザインを理解していることが前提であると考え、デザインの歴史的考察からはじめ、豊かで持続可能な生活環境の形成に向けて、今後のデザイン／デザインマネジメントはどのように活動して行くべきかを考察する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
道具は人々の生活にとって欠かす事ができない。使用場面における問題や要求を明示し、それを大胆に解決する新しい道具（機器、装置）のデザインを提案すること。企画意図、使用シナリオやシーンをスケッチや図面と併せて 1600 字程度のレポートとして市販の A4 サイズ用紙 4 ～ 6 枚に美的にまとめる。

○通信授業課題 2
「コンビニエンスストアのデザイン提案」
次の 1）から 5）の項目から１つ選び、現地調査の上、ビジネスとしての将来性、文化性、社会性などの視点からの論評と大胆で具体的なデザインを提案すること。「求められるデザインマネジメントの活動姿勢」から適切と思われる姿勢を反映した提案とする。必ず現地・実態調査をすること。また、その調査を基にして顧客特性（性別、年代、職業、ライフスタイル、ニーズ特性など）を示すこと。調査と提案は、写真、スケッチ、図面、概念図などの視覚的な説明資料を使って説明すること。2000 字程度のレポートとして A4 サイズ用紙 4 ～ 6 枚に美的にまとめる。
1） コーポレートアイデンティティ：シンボルやロゴマーク・コーポレートカラーなどの企業姿勢を可視化する表現、イメージキャラクタ・包装紙・サイン・店舗イメージカラー・従業員のユニホームなどのデザイン展開
2）宣伝戦略：宣伝ポリシー、宣伝メディア（ちらし・CM・カタログ）、イベント企画など
3）商品戦略：商品品揃え、商品特性、デザイン傾向、新サービスの導入など
4）流通：価格政策、受注や支払い方法、流通方法など
5）売り場、店舗デザイン：展示特性、売り場レイアウト、商品の取り扱いなど

○通信授業課題 3
高度情報化時代を迎え、これからもますます人間疎外の進行が予測される。そこで、デザイナーの視点から、ICT を活用したサービスビジネスの提案をすること。とくにバーチャルとリアルの両視点の特徴を活かした提案を期待する。
PC や携帯電話あるいは Web 上での商品販売、サービス展開などの内容に精通していない学生でも、自分の周辺にいる専門家やうまく使っている人の意見を謙虚に聴き、客観的な調査を図ること。専門知識の豊富な人々からの意見を柔軟に吸収するテクニックもデザインマネジメント演習に役立つはずである。そして学生らしく夢のある楽しい提案を期待している。
〈着眼点〉
①商品やコンテンツの販売、②新しいサービスの提案、③ビジネスモデルの仕組み、の三つの視点のうちから一つに焦点を当てて提案のこと。
〈条件〉
・実現時期は 2 ～ 3 年後を想定。
・ 市販の A4 サイズ用紙 4 ～ 6 枚に「現状把握」「提案内容」「予想される効果」「問題点」などを簡潔にまとめること（表現シナリオの流れもデザインの対象とする）。
・表現方法は自由であるが、できるだけ図表を用いて上記趣旨を簡潔に説明すること。
・Web 上での課題提出の場合には PDF 化し、データを軽くしておくこと。

○通信授業課題 4
あなたは、ある大手老舗酒造メーカーの社員であり、これから発売が予定されている、ある新しい日本酒の販売企画の総責任者でもある。この新製品は、これまであまり日本酒に親しみのなかった若い女性をターゲットとしている。教科書の 5 章 1 節 5 項の「情報的価値を付加してゆくデザイン」を参考にしながら、あなたであれば、商品ネーミングや容器デザイン、広告、宣伝、流通ディスプレイ、営業の販促ツール作成など、どのよ
うにしてこの新製品を売り出してゆくか、市販の A4 サイズ用紙 4 ～ 6 枚（視覚的説明資料含む）で具体的に論じなさい（ただし、日本酒の味、容量などは、ターゲットを想定して、自由に考えてよいものとする）。なお、容器デザインやその他について、言葉だけでは説明しにくいと思われるものに関しては、ラフデザインなど、視覚的な説明資料を添付すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
（教科書から）
1. 人間とデザイン。
2. 近代デザインの展開、企業とデザインの関わり。
3. 企業経営とデザインマネジメント。
4. 企業におけるデザイン実務とそのデザインマネジメント。
5. 情報化社会とデザインマネジメント。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
坂下清、鶴田剛司、竹末俊昭、佐藤典司『デザインマネジメント』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	アートマネージメント						
授業コード	0460	授業科目名	アートマネージメント			担当者	新見隆教授、加藤義夫講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

ここで学習する「アートマネージメント」のアートとは「美術」を基本としたマネージメント講座である。そのアートの範疇は、絵画・彫刻・版画・写真・映像・インスタレーション・デザイン等を含む視覚芸術とする。

アートは、社会の様々な人々のサポートによって世の中に発信され、受信者としての鑑賞者や収集家がいて、はじめて芸術として成立するものである。人々がアートに接することで、アートは市民社会の中に機能する。その意味においてアートは創り手と受け手の協働作業でもある。

アートマネージメントとは、アートと社会の橋渡しとして、展覧会やアートプロジェクト、アートイベントを企画制作することを最終目標とするが、アートの現場、例えば美術館・画廊等に接することが重要となる。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「文化政策及びアートマネージメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 2
「美術館のアートマネージメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 3
「地域社会におけるアートマネージメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 4
「アートプロジェクトの計画から実施まで」をレポートにして提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
事前に予習しておく内容・時間
第一課題　教科書を参照しレポート作成に反映させてください。2時間
第二課題　近隣地域の美術館のホームページを参照しください。2時間
第三課題　近隣地域の芸術文化活動を調査し、レポートに反映させてください。2時間
第四課題　各地の展覧会、アートイベント、ワークショップを参照して、オリジナルな企画書を作成し、実施可能なところまでブラッシュアップしてください。5時間

【成績評価の方法】

レポート提出により評価する。成績評価基準は、独自性の高い私見や視点を高く評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
新見隆ほか『アートマネージメントを学ぶ』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

自分の住む地域の博物館・美術館・画廊・寺院の宝物殿等を訪れ、鑑賞体験を積極的に行う。地域の芸術文化活動にアートボランティアとして参加し、アートの現場を体験することも重要である。

科目名	情報社会倫理論						
授業コード	0470	授業科目名	情報社会倫理論			担当者	上田卓司講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

情報化に伴う社会問題と可能性を概観し、著作権等の知的財産権、プライバシー保護、セキュリティ管理等を含む今日に不可欠な倫理や社会的ルールのあり方と動向について講義する。特に、美術・デザインとの関連を踏まえ、今日の情報社会のあり方と倫理を追究する。

【課題の概要】

○面接授業課題
授業内容を踏まえ、情報に関する倫理観の問題と今後のあり方、情報社会と個人との関係について論述を行う。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　情報化社会の現状と情報倫理/情報セキュリティと人間行動
第 2 日　著作権・知的財産権と創作/情報の受容と発信について
第 3 日　個人情報の保護とプライバシー
＊いくつかのトピックについてグループワーク（ディスカッション）を予定している。

【成績評価の方法】

面接授業内の課題のレポート評価によるものとする。授業回数が少ないので、欠席があるものは不可とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

参考文献：授業内でしらせる。

科目名	情報職業論						
授業コード	0480	授業科目名	情報職業論			担当者	坂口和敏講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

インターネット、スマートフォン、SNSに代表される情報通信技術の進化により、私たちの生活は大きく変化しました。情報社会（Society4.0）では従来の対面型コミュニケーションから時間や場所に依存せずに個と個が繋がる新しい体験が可能になりました。
我が国が目指すべき未来社会の姿として、内閣府はSociety5.0を掲げて、サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会の実現を目指しています。
本講義では人間中心設計やサービスデザインの手法を学び、Society5.0が求められる社会背景を考察した上で人を中心とした社会の新たな価値を描きます。具体的なテーマに沿って各自PCでオンラインツールを使って、調査、分析、提案を行うアクティブラーニング形式で行います。

【課題の概要】

以下のテーマから各自1つを選択する。テーマに対する現状の問題分析を行った上で課題解決の提案を作成する。
1.医療・介護
2.ものづくり
3.農業
4.食品
5.防災
6.エネルギー
※ 一部、状況に応じて変更する可能性があります。

【授業計画】

第1日（問いのデザイン）
・オリエンテーション
・人間中心設計について
・デザイン手法について
・デザインワーク
第2 日（解決策のデザイン）
・オリエンテーション
・サービスデザインについて
・デザイン手法について
・デザインワーク
第3 日
・オリエンテーション
・デザインワーク（プレゼンテーション準備）
・プレゼンテーション
・相互評価
※ 一部、状況に応じて変更する可能性があります。

【成績評価の方法】

出席およびデザインワークへの参加、最終日に行うプレゼンテーションの総合評価

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

○参考資料
事前課題として以下参考資料を読んだ上で参加して下さい。

・サービスデザイン実践ガイドブック（内閣官房IT総合戦略室）
https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/guidebook_servicedesign.pdf
・Society5.0資料（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf

【その他】

PCを使ったデザインワークを行いますので、個人PCを持参して下さい。
希望者には学校側からはPC 1 台の貸出も可能です。
※貸与PCが台数に限度があります。

演習では以下のオンラインツールを使用する予定です。
・Webブラウザ
・slack（チャットツール）
・Googleスライド（プレゼンテーション）
・Miro（オンラインホワイトボード）
授業では上記ツールの簡単な使い方の説明は行いますが、PCの基本操作（テキスト入力、マウス操作、ファイル移動など）の説明は行いません。操作に不安がある学生は事前に練習し、授業に参加することが望まれる。

本講義で学ぶ「情報職業」は情報技術を活用した企業活動を想定しています。実在の社会における事業／ビジネスをテーマとして取り上げ、情報技術のデザインスキル定着を目的としています。

そのため、講義スタイルではなくアクティブラーニング形式のデザインワークで行います。デザインワークを通して参加者の関心、視点の多様性を理解した上で潜在ニーズを発掘してどのように合意形成を行っていくかを評価のポイントとします。

科目名	演劇空間論						
授業コード	0490	授業科目名	演劇空間論			担当者	牧野良三教授
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

古代ギリシャを源流とする演劇の流れと、それを上演・観賞する劇場空間の関係を、美術的視点から比較検討して、演劇及び演出された空間の特質を考察する。それによって、非日常的な祝祭空間への理解と認識を深めることになり、空間における演出の役割、造形的演出の具体的な手法、舞台美術や舞台照明・映像等の概要も把握してもらう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「生活の中の祝祭性について考察する」
日常生活の中でメモリアルな行事や慣習を通して祝祭の役割を考える。レポート 1200 字以上、1500字程度。

○通信授業課題 2「劇場―演ずるための場について考察する」
身近にある劇場・ホールが日常の生活とどのように結びついているか考える。
あるいは実演や祭事の実例を挙げて生活の中での役割について考察する。レポート 1200 字以上、1500字程度。

○通信授業課題 3「舞台や都市空間における光の演出効果を考察する」
自然光や人工照明は、その使い方によって日常的な風景や事物に新たなイメージを表出する。その具体的事例と効果について説明する。レポート 1200 字以上、1500 字程度及びスケッチ又は写真を添付する。

○通信授業課題 4「実際に観た演劇や芸能、映画・TV の作品の空間と演出について考察する」
単なる作品批評ではなく、その成立背景やテーマを浮き彫りにする演出手法などを説明する。レポート1200 字以上、1500 字程度。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の目次より。
第 1 章と第 2 章「演劇空間の理念と移り変り」
第 3 章と第 4 章と第 5 章「舞台美術と演劇空間と劇場の構造」
第 6 章「舞台照明」
第 7 章「舞台衣装」
第 8 章「舞台化粧」
第 9 章「設計」
第 10 章「音響」
第 11 章「映像空間」
第 12 章「演劇の境界領域」
実際の作品を観賞する。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の内容を中心に出題。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スペースデザインコース進学希望者は、1 ～ 2 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
小石新八『演劇空間論』　(武蔵野美術大学出版局　2002 年)

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』　(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年)

【その他】

教科書の他に、演劇、劇場等に関する参考書、雑誌は多数あるので、適宜に選択してほしい。TV や舞台公演も教材である。
日常生活の中で、様々な演劇的状況（祭事・イベントも含む）を注目し、様々な演出された空間を発見してほしい。

科目名	工業技術概論						
授業コード	0500	授業科目名	工業技術概論			担当者	牧野良三教授、近藤嘉男講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

私たちの生活は、住宅や衣類、用具、情報機器、交通機関などさまざまな人工物を基盤として成り立っている。これらの人工物は、人類が道具を利用することを覚えて以来様々な工夫があり、発展を遂げてきた、 いわば人類の英知の結晶である。特に産業革命以降の近代工業技術による工業製品は人間の生活を快適で豊かにするために必要なものを設計・製作し、あるマス（量）を前提にして生産されている。

一方、工業製品の氾濫で地球規模でのエネルギー問題や環境問題もクローズアップされている。これらの問題を解決する方法もまた、科学技術の発展をベースにした工業技術といえる。

いろいろな工業製品を作るバックボーンになる工業技術の概要を理解し、生産技術とは何か、“もの”のあり方とは何かを考察し、生活者として正しい視点を持ち、デザインを正しく理解し、評価できる基礎的な知識と考え方を学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日常的に使用している身近な品々から量産されている20種類を取り上げ、その材料、加工方法、表面処理を推測して報告する。

○通信授業課題 2
自動車のプラモデルのキットを購入し、そのパッケージに入っているパーツをよく観察してプラスチックの生産技術を分析、その結果を考察しレポートを作成する。

○通信授業課題 3
自動車は多くの部品から構成された工業技術の粋ともいえる製品の代表である。プラモデルも樹脂射出成型技術の粋ともいえる。この二つを比較して技術とは何かということについて考える。
課題 2 で選んだプラモデルを組立て、実際に存在する自動車と比較して、プラモデルとの比較を行いその違いを考察しレポートを作成する。

○通信授業課題 4
いくつかの部品で構成された生活用品を取り上げ、その素材と加工技術を特定し、機能と造形にどのように関連しているか、それぞれの素材と加工技術を論じる。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
1. 身の回りの品々を観察し、デザインの基本になる技術、技術と造形の関連性を認識する。
2. 多くの製品に利用されるプラスチック技術の概要を、プラモデルの部品を例に考察する。
3. 材料と加工技術、造形の関連を認識しその概要を理解する。
4. 製品の部品構成を観察することにより、素材の加工技術と造形の関連を学ぶ。
5. 各課題を行うことにより、素材と加工技術、造形との関連性やもの造りのコンセプト、デザインの視点を理解し、クリエーターとしての造形における視点や生活者として消費における問題意識の視点を身に付ける。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、図面を描く基礎的な知識を持つことを前提とするため、「図法製図Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
　クリス・レフテリ著、水原文訳『「もの」はどのようにつくられているのか？』（オライリー・ジャパン　2014年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	絵画空間論						
授業コード	2200	授業科目名	絵画空間論			担当者	教授 治明 浦 啓三 政 重 教授 小 範 講師 水 清 健 講師 太郎
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

絵画として、表現される画面には、さまざまな表情がある。その表情のひとつとして「絵画空間」は存在する。そのことを知るために、作品の鑑賞を通し、画面分析と自己の考えをまとめることを目的にする。導入としては、西洋と東洋の絵画空間の変遷を通し、画面にはどのような空間が存在し、その空間がどのような役割や効果を生んでいるのか考察しながら追求していく。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
選択した作品に於ける画面の成り立ちを分析する。
好きな作品、あるいは興味のある様々な作品、例えばラスコーの壁画が描かれた時代から 20 世紀初頭までの絵画と言われる作品を２点選択し、その作品の画面がどのような空間の処理がされているかを考察し、レポートにまとめる課題。

○通信授業課題 2
自己の絵画空間論について述べる。
平面絵画に現れる絵画空間について、自己の考え方や自己が理想とする空間をレポートにまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を通読した上で、通信授業課題 1、2 に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
堀内貞明、永井研治、重政啓治『絵画空間を考える』（武蔵野美術大学出版局　2010 年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	美術解剖学						
授業コード	0520	授業科目名	美術解剖学			担当者	伊藤恵夫講師、平晃子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業(郵送提出のみ　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

美術解剖学では、ヒトや他の動物の体の中にある骨格や筋肉について学ぶ。体の内部構造に関する知識は、体表に現れるレリーフを意味のある「かたち」として認識するための助けとなる。ただアウトラインを追うだけの観察ではなく、立体としての形態やバランスを把握する力を養成する。また、実際に造形作品を作成する際に、何を表現し何を省くかを、自分で選択できる目を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「四肢の骨格を意識して動物の全身を描く」
動物園などに行き、四肢（まえあし、うしろあし）の骨格を意識して、動物の全身像をスケッチする。
哺乳類を 2 種以上（ただし、霊長類“サルの仲間”を除く）、鳥類を 1 種以上。それぞれの動物の肩、肘、手くび、膝、かかとの位置を示すこと。提出は B4 サイズ、3 ～ 6 枚。動物の名前も明記すること。課題解説をよく読むこと。

○通信授業課題 2「人物画または人物彫刻のポーズで骨格図・筋肉図を描く」
造形作品（絵画または彫刻：全身像とする）を 1 点選び、トレースした図 2 枚に骨格および筋肉を描き込む。課題解説をよく読んで作品を選ぶこと。使用した図版（コピー）1 枚、骨格図 1 枚、筋肉図 1 枚。B4 サイズに統一して提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
・美術解剖学を学ぶにあたって
・骨格について
・筋肉について
・プロポーション

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
ルイーズ・ゴードン『人体解剖と描写法』上昭二訳（ダヴィッド社　1982 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考文献
桜木晃彦『自分の骨のこと知ってますか』（講談社　2001 年）
アーネスト・T・シートン『美術のためのシートン動物解剖図』（マール社　1997 年）
Fritz Schider “An Atlas of Anatomy for Artists” (Dover, 1957)
Paul Richer, Rovert B. Hale(ed.) “Artistic Anatomy” (Watson-Guptill, 1971)
W. Ellenberger, H. Dittrich, H. Baum “An Atlas of Animal Anatomy for Artists” (Dover, 1956)

科目名	日本画材料学						
授業コード	2210	授業科目名	日本画材料学			担当者	重政啓治教授、中野めぐみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

日本画と言われる領域において、なじみのない言葉は多くある。また特異な言葉もさまざま存在する。それらに関する用語の内容と意味の深さを知ることは文化の重みや特色も感じることが出来る。

この科目は、制作を通してではなく、古来使われ続けている群青、白緑などから現在多様な色が存在する日本画の絵具を取り上げ、それらの体系的な解説をもとに知識を深める。また、日本画の制作時に用いられる用具用材として、絵具の接着剤、支持体、筆、制作の補助用具など、さまざまな描画材に関わる種類の体系を学ぶ。さらに、日本画の制作時に出てくる独特と言える用語についても、知識を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
日本画絵具分類表を、指定された形式で作成をする。
生活する身のまわりにある物で日本画絵具の素材になるものを探し、指定された形式に従い分類表の作成をする課題。

○通信授業課題 2
日本画の用具用材について、生活利用調査をする。
日本の地域の中で育った現在日本画と呼ばれている素材が、身近にどのように活用されているかの実態調査と可能性についてレポートにまとめる課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
重政啓治監修『日本画の用具用材』（武蔵野美術大学出版局　2010 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	ワークショップ研究 Ⅰ						
授業コード	0540	授業科目名	ワークショップ研究 Ⅰ			担当者	杉山貴洋講師、川本雅子講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）　面接授業						

【授業の概要と目標】

ワークショップ研究は、学校や教室のみならず、ひろく社会の場において、造形活動に関わり、つくる、みる、伝えるなどの実践を研究するものである。グループで活動するときに使われる「ワークショップ」という手法を通じて、様々な視点から、コミュニケーションの方法、グループワークの広がり、造形活動の可能性などの在り方を考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題
夏のスクーリングに参加してワークショップを体験する。またワークショップを体験し、議論をおこない、その展開を試みる。
グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

○通信授業課題
各自の地域や社会教育施設等で開催されているワークショップに参加する。そのプロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめる。また、その記録とレポートと合わせて提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業　→　通信授業

教科書『造形ワークショップ入門』の目次より。
第 1 章　ワークショップの手法
第 2 章　ワークショップをつくる
第 3 章　ワークショップをまなぶ

○面接授業
第 1 日　実際にワークショップを体験し、その手法と特長を理解する。
第 2 日 ワークショップの手法をもとに、テーマを設定し、制作や演技・計画などを組み立てる。
第 3 日 2 日目に計画されたワークショップを発表し、レポートに簡潔にまとめる。

○通信授業
各自の地域や社会施設で開催されているワークショップに参加する。（ワークショップ研究 Ⅰ では、参加者からスタートする。企画に携わる試みは、ワークショップ研究 II で行う。）そのプロセスをレポートにまとめ、添付資料としてイラスト、漫画、絵日記などを使って簡潔にまとめる。具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考とする。また、その記録とレポートを合わせて提出する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	ワークショップ研究 Ⅱ						
授業コード	0550	授業科目名	ワークショップ研究 Ⅱ			担当者	杉山貴洋講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）面接授業						

【授業の概要と目標】

「ワークショップ研究 I」を単位修得した者を対象に、さらにワークショップの実践を発展させ、研究するための科目である。とくに、記録と検証を重視する。ワークショップの企画に携わり、実践を試みる。その上で、ワークショップをグループ活動に使う可能性を検証する。また、そのプロセスを記録し、活動に還元し、グループワークの広がりを考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題
「ワークショップ研究I」を履修し、どのような活動に参加し、どのような考察をしたのか、ワークショップ研究 I を振り返り議論を行う。グループで行うワークショップを計画し実践をする。また、その展開の方法を検証する。
グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

○通信授業課題
各自の家庭や職場、地域や社会施設でワークショップの企画に携わる。または、美術館や社会教育施設で募集されているワークショップのボランティアに参加する。具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考にする。また、その記録とレポートを合わせて提出する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業　→　通信授業

○面接授業
第 1 日 ワークショップ研究 I のレポートを発表し、クラスメイトで議論を行う。
第 2 日 1 日目の議論をもとに、クラスメイトを巻き込んだワークショップを企画する。
第 3 日 2 日目に企画したワークショップを成立させ、その案内役を務める。その後、クラスメイト全員で検証する。

○通信授業
実践例やマナーなどについて再考すること。その上で、各自の家庭や職場、地域や社会教育施設等でワークショップの企画を立てる。
または、美術館や社会教育施設等で募集されているワークショップのボランティアに参加する。ワークショップ研究 II では、企画する側からスタートして、グループワークを展開する。そして、そのプロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめる。
また、参加者への招待状や、お礼の手紙を活動の一環として、記録とレポートと合わせて提出する。
具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考にする。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「ワークショップ研究Ⅰ」の単位を修得していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局　2015 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	絵画表現材料						
授業コード	1920	授業科目名	絵画表現材料			担当者	三浦明範教授、古川民仁教授、坂本龍幸講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

キャンパスとエグなどの支持体と描画材について、その構造と特性を学ぶ。
実際にキャンバスを手作りし、素材と表現の関係をしることを目標とする。

【課題の概要】

授業で学んだ内容を基に、レポートを作成する。

【授業計画】

第１日　絵画の材料についての講義とキャンバスに作り。
第２日　キャンバス作り。
　　授業内容に関してのレポート作成（60分）。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備考
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画表現入門						
授業コード	1930	授業科目名	日本画表現入門			担当者	重政啓治教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	文化総合科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画制作に関わる用具用材の解説として、絵具の分類法、製法など、その他描く時に用いる品物や、絵を描く支持体のひとつ和紙の種類、産地、和紙漉きの工程について、また描く際に用いる筆や刷毛の制作工程の講義、演習を通して知識を得ることを目標とする。

【課題の概要】

日本画についての講義と用具作成の演習を受けるとともにレポートの作成をする。

【授業計画】

面接授業
第１日　日本画の用具用材の講義。
　　和紙の種類や制作工程、産地などの講義。
第２日　筆の制作工程の紹介と作成の講義演習。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備考
日本画表現コース必修科目
受講人数を制限する場合がある。
抽選の場合は日本画表現コースに所属している学生を優先する。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	デザイン論Ⅰ						
授業コード	1940	授業科目名	デザイン論Ⅰ			担当者	清水恒平教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	2〜4	指定	
科目区分	文化総合科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）						

【授業の概要と目標】

デザインの領域は広く、かつ、社会と密接に関係しながら、変化試続けています。デザインを学んだ経験や実務経験の有無に関わらず、「デザイン」とは何か、という問いに対する答えは千差万別です。
この授業では、自分自身のデザインへの固定観念を捨て、あらためて「デザインとはなにか」を問い直すことから始まります。その答えは簡単に出るものではありませんが、これからデザインを学ぶにあたって、自分自身の立ち位置を明確にし、デザイン論を構築する第一歩とすることを目標とします。

【課題の概要】

「感覚とデザイン」
優れたデザインは人間に多くの情報をもたらします。また、人間は視覚や触覚だけでなく、五感を総動員して、その情報を教授しています。優れたデザインの事例を3つ選び、それらが自分自身にどのような情報を与え、なぜ魅力的に感じるのかをレポートしてください。

【授業計画】

教科書を通読した上で、学習指導書にそって課題を制作する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
なし

【教材等】

○教科書
原研哉『デザインのデザイン』（岩波書店　2003年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年度）

【その他】

造形総合科目

科目名	造形基礎 Ⅰ						
授業コード	3760	授業科目名	造形基礎 Ⅰ			担当者	教啓吉 祐阿 範政、教塚 仁井、講繁木講隆小 明重授、仁赤授、講藤今師仁村、美島、講本、郎彌、講晃井、師、こ田 三浦 授、教民、師介家、講真、講琢、講健、講昌、、室師講え、講一 授治川授、教英、師介家、講真、講琢、講健、講昌、、室師講え、講一 授二部師講庸大師之村師三森師幸水師子山師師世本渡講雄 龍清講佐畠 講佳山 師つ和師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

美術の表現の基底には、常に私達の現実の身体がある。私達の手と身体はそこから様々な表現が紡ぎ出される源である。ここでは手と身体を使ったドローイングを行うことにより、そこから湧き出る多様な表現と身体の関わりを理解し認識を深める。通信授業では、線を引くことから始め、描くこと、イメージトレーニング、コンセプト・ドローイング、偶発的効果によるドローイング等の実践を通じて、造形の基礎を再認識する。

【課題の概要】

○通信授業課題
1-1　自分の身体より大きな模造紙にドローイングする。
1-2　1枚の模造紙にドローイングした後、紙面上より気に入った部分（B3 サイズ）を切り取る。
また、その部分を切り取った理由を 200 ～ 400 字で解説する。
1-3　音楽を聴きながら帯状の長い紙にドローイングする。
1-4　かつて自分が訪れた場所（自然界や街）の記憶や印象をもとにしたイメージをドローイングする。
また、その記憶や印象の内容を 200 ～ 400 字で解説する。
1-5　デカルコマニーをもとに、ドローイングを加え発展させる。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『造形基礎Ⅰ・ⅡA　2021年度』の「造形基礎 I」を参照。
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題による評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない

【教材等】

○教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形基礎Ⅰ・ⅡA　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	造形基礎 ⅡA						
授業コード	2660	授業科目名	造形基礎 ⅡA			担当者	教啓吉 祐大 史部、範政、教塚、教一 阿師講井、庸大 繁木講隆小 龍清講佐畠 講繁井、明重授仁赤授志原、講仁今師仁木師由小師己坂師太神師子星松、講晶渡講雄一 え、講浦、教民 幸藤、講泰、講真、講琢、講健、講昌、師世本、こ田三授治川授二浦授教英伊師介家師之村師三森師幸水師子山師師講佳山師つ和師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「観察と描写」
具体的な対象を目の前にし、見て描くことを行う。その際「このように見なければならない。」あるいは「このように描かなければならない。」という一般通念的な先入観を持たないように意識し、見えている像と描いている像を出来る限り近づける過程を通じて、現在の自分がどのように対象を見ているかを確認してみることがこの課題の目的である。また、対象の克明な追求により「見ること」「描くこと」の基礎体力を養い、基本的な造形要素の理解を深め、描材との接触を通じて描くことを体験する。

【課題の概要】

○通信授業課題
1-1　身のまわりのものを描く
1-2　物を持つ手を描く

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『造形基礎Ⅰ・ⅡA』の「造形基礎ⅡA」を参照。
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考

【教材等】

○教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインを生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形基礎Ⅰ・ⅡA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	造形基礎 ⅡB						
授業コード	2670	授業科目名	造形基礎 ⅡB			担当者	教啓吉 祐大 史部、範政、教塚、教一 阿師講井 庸大 繁木講隆小 龍清講佐畠 講繁井、明重授仁赤授志原、講仁今師仁木師由小師己坂師太神師子星松、講晶渡講雄一 え、講浦、教民 教一、授幸藤 講泰、講真 講琢、講健、講昌 、師世本、こ田三授治川授二浦授教英伊師介家師之村師三森師幸水師子山師師講佳山師つ和師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「観察と描写」
具体的な対象を目の前にし、見て描くことを行う。その際「このように見なければならない。」あるいは「このように描かなければならない。」という一般通念的な先入観を持たないように意識し、見えている像と描いている像を出来る限り近づける過程を通じて、現在の自分がどのように対象を見ているかを確認してみることがこの課題の目的である。また、対象の克明な追求により「見ること」「描くこと」の基礎体力を養い、基本的な造形要素の理解を深め、描材との接触を通じて描くことを体験する。

【課題の概要】

○面接授業課題
丸太を描く。
B2 以上の画用紙または木炭紙。
描画材は基本的に鉛筆、木炭。その他コンテ、水彩絵具等の併用可。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　午前：課題説明・制作
　　午後：制作
第 2 日　午前：制作
　　午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	造形基礎 ⅢA						
授業コード	2680	授業科目名	造形基礎 ⅢA			担当者	白教美師本 尾授紀子講晶崎麻理講師 龍太郎 木多 高崎葉山 師、師、
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『デザインと色彩』
我々の意識の中にある色、すなわちイメージとしての色は、すべてそれまでの経験に基づいて形成されている。新しい色の発見は、自然や住宅、衣服などであり、それらをただ見ているだけでは色として認識することにはならない。この授業では、身の回りの自然の素材を採取し、色材を使って色として再現することによって色の成分を理解し、新しい色の発見と対比について学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題「色のレシピとハーモニー」
1-1　身の回りのものや自然環境から、色を採取し24枚の色のレシピ（色彩カード）を制作する。
1-2　色のレシピから3色を選び配色実験と色彩構成を制作する。

【授業計画】

・教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』を読む。
・学習指導書『造形基礎ⅢA・Ⅳ　2021 年度』の「造形基礎ⅢA」を読んで課題の目的や内容を理解する。
・課題1-1、1-2を完成させ提出する。
・提出した作品の添削指導を読む。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
造形の初年次課題として広くデザインを学ぶ学生の受講が望ましい。

【教材等】

○教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
学習指導書『造形基礎ⅢA・Ⅳ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	造形基礎 Ⅲ B						
授業コード	2690	授業科目名	造形基礎 Ⅲ B			担当者	多田 隆太郎、木村 葉子講師、高崎 紀子講師、尾山 麻理講師、晶崎 講師、白本 教授、野崎 美師
開講期間	通年	単位数	1単位 (S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『デザインと形』
デザインの基礎的な課題には「色と形」というテーマがあるが、ここでは主に「形」に対する感覚と表現に注目する。まずはものの「形」を二次元的に捉え、原型としての形を図案化していくこと、すなわち便化（自然の形を図案化すること、便宜的転化の略）することを学ぶ。図案化された形は表現を伴った形としてデザインのさまざまな場面で使われる。
この授業では、対象の形を十分に観察し、便化させながら、形の構造や表現の方法を学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「形の構成」
3つの手の形を徐々に図案化（便化）させていき、記号的な形の美しさと表現の可能性について考察する。

【授業計画】

○面接授業
・前提講義
・事前に用意された手の写真の中から3点を選びスケッチに入る。
・便化の度合いを考えながら、トレーシングペーパーに写し取りながら形を整理していく。
・3つの形を重ねて構成を考える。
・重ねた構成をトレースし構成の原型を作成する。
・翌日までに構成をどのような方法で表現するか考えてくる（すべてモノクロ表現とする）。
・翌日、考えてきた方法で形の構成を完成させる。
・講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
造形の初年次課題として広くデザインを学ぶ学生の受講が望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する可能性がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	造形基礎 Ⅳ						
授業コード	3770	授業科目名	造形基礎 Ⅳ			担当者	教智中 三谷竹師、講小 良富講清孝澤師 野師、講中講師 牧授、講義生師、智子
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

－立体構成とデッサン－
我々を取り巻く環境は、様々なモノとモノとが互いに関係し、直接、間接に影響を与え合いながら成立している。これを造形的な視点で捉えると、様々な立体が空間と呼ばれる広がりの中で構成され、多様な世界を造り上げている。また、立体を立体として認識し空間を実感するには、光の存在が不可欠で、光を抜きに語ることは出来ない。
造形基礎Ⅳでは、自ら作り出した立体を空間に構成し、光を照射することで生まれる空間の様々な表情を観察して欲しい。立体に明かりを当てることで生まれる、光と影が作り出す豊かな空間の表情を発見することが、立体、空間を考察する起点となる。造形基礎Ⅳで行う一連の作業を通して、立体、空間を思考する手掛かりになることを目標としている。

【課題の概要】

立体構成の作業を行うにあたり、制作意図を想定しながら作業を繰り返し、その意にかなった作品制作を行う。

○通信授業課題
1-1　紙の造形
切り出された紙片からパーツを作り、立体的に組み合わせ配置することで、立体や空間の表現の可能性を探る。
1-2　空間を描く
立体構成によって生まれる光と影の美しい空間を発見し、イメージとして平面に定着させる。

【授業計画】

○通信授業
教科書『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』を参照。
学習指導書『造形基礎ⅢA・Ⅳ　2021 年度』の「造形基礎Ⅳ」を参照。

【成績評価の方法】

各課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

【教材等】

○教科書
『造形の基礎　アートに生きる。デザインに生きる。』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形基礎ⅢA・Ⅳ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	デジタル造形基礎　Ⅰ						
授業コード	2700	授業科目名	デジタル造形基礎　Ⅰ			担当者	清水恒平教授、小笠原幸介講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「グラフィック系ソフトウェア入門」
コンピュータを利用する上で、ソフトウェアの操作の理解と同様に重要なのが、扱うデータの理解といえる。特に美術・デザイン系の大学においては、グラフィック系ソフトウェアの理解と、各種画像データやグラフィックデータの正しい理解は必須である。
この科目は、グラフィック系ソフトウェアを利用するための導入的授業という位置づけであり、代表的なソフトウェアの基本的な利用方法、および画像・グラフィックデータの扱い方などの理解を目的とする。

【課題の概要】

○面接授業
Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用しながら簡単な画像、図形、テキストの作成を行い、最終的にＡ４サイズ１枚程度の印刷物を作成する。

【授業計画】

○面接授業
第１日　全日
・Macintoshの基礎
・Adobe Photoshopの基本操作、ビットマップグラフィックス、画像の解像度と色情報、RGBカラーとCMYKカラーなどのについての講義と実習
・Adobe Illustratorの基本操作、ベクターグラフィックス、デジタルフォント、各種画像のファイル、フォーマットなどについての講義と実習

第２日　午前
・前日の講義内容を踏まえ、練習課題の制作

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
入学初年次での履修が望ましい。
特にデザイン総合コースの必修科目、または推奨科目では、この科目で使用するソフトウェアを使用する機会が多く、画像データなどに関する知識も必要となるので、それらの科目以前に履修することが望ましい。スクーリングで使用するコンピュータは、Macintoshである。
MacOSの概説や、操作が不慣れな学生へのサポートは適宜行うが、マウスによる基本的なコンピュータの操作や文字入力等、最低限の操作は受講前に理解した上で授業に望むこと。
データバックアップ用のUSBメモリを用意しておくこと。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デジタル造形基礎 Ⅱ						
授業コード	2710	授業科目名	デジタル造形基礎 Ⅱ			担当者	清水恒平教授、渡部周講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「グラフィック系ソフトウェアの正しい使い方」
デジタルデータは全く同じ結果に見えても、その制作プロセスが異なる場合がある。結果が同じであれば良いとも言えるが、実際には、データ作成の手順によって、データ容量の増減や印刷入稿データへの最適化、制作時間の長短など、様々な面で違いが出てくる。
しかしながら、ソフトウェアの使い方に正解はない。この講義ではグラフィック系ソフトの正しい使い方を教授するのではなく、それぞれの学生に制作プロセスによる違いを感じてもらい、ディスカッションの中で、場合に応じた正しい使い方を考えてもらうことを目的とする。

【課題の概要】

○面接授業課題
Adobe Illustratorを使用しながら簡単な画像、図形、テキストの作成を行う。2 日間を通して複数の小課題を行う。

【授業計画】

○面接授業
全日を通して、小課題制作を複数回行う。途中、グループでディスカッションを行う。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
入学初年次での履修が望ましい。初学者は、先に「デジタル造形基礎Ⅰ」を受講することを推奨する。特にデザイン総合コースの必修科目、または推奨科目ではこの科目で使用するソフトウェアを使用する機会が多く、最低限の知識が必要となるので、それらの科目を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。
スクーリングで使用するコンピュータはMacである。
データバックアップ用のUSBメモリを用意しておくこと。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

面接授業について：グループディスカッションを行う。

科目名	デッサンA						
授業コード	2720	授業科目名	デッサンA			担当者	教授吉田 明雄、講師浦辺 泰昌、講師坂本 健、講師松井 星昌、講師世渡 和彦、講師佐山 一、講師小島 美繁、講師仁村 由己、講師藤今 幸範、講師川井 民教、講師阿部 英伊、講師木村 真治、講師介家 啓三、講師庸大師之木 隆小師幸 清佐畠師師 師つ 、講師繁 郎彌、講師龍 政、講師三森 健、講師水師子山 、師 、師 、講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

室内風景は、普段見慣れた“場”を新たに造形的視点で観察しデッサンする。日常的視点との違いを確認しながらも、日常暮らす室内を、あるいは日常の中の様々な感覚や感情をどの様に画面に定着するのか探究する。
室外風景は、自然、人工物、人や様々な生き物など範囲が広く、多様である。我々に様々な感動や問いかけを与えてくれるし、様々な感覚や感情を喚起してくれる。これらをどの様に画面に定着するのか、その造形を分析して、探究する。

【課題の概要】

○通信授業課題「室内、室外風景を描く」
1-1　室内風景をモチーフにクロッキーする。
1-2　室内風景をモチーフにデッサンする。また、その場所を選んだ理由を２００字から４００字にまとめた文章を提出する。
1-3　室外風景をモチーフにクロッキーする。
1-4　室外風景をモチーフに彩画又は油彩を制作する。また、その場所を選んだ理由を２００字から４００字にまとめた文章を提出する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『デッサンＡ・デッサン表現　2021 年度』の「デッサンA」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『デッサンＡ・デッサン表現　2021 度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	デッサンB						
授業コード	2730	授業科目名	デッサンB			担当者	教授吉田 明宏、講師伊藤 英治、講師木村 泰介、講師坂本 真一、講師松浦 健治、教授仁科 啓三、教授阿部 昌彦、講師星 龍大、講師渡辺 隆之、講師小松 幸雄、講師佐藤 清彦、講師山本 佳世、講師井上 繁雄、講師つこ 和幸、講師小林 美郎、講師島田 龍彦、講師繁昌 郎、講師本渡 弥生、講師佐山 由香、講師岡田 晃子、講師村室 久美、講師神子島 太一、講師今井 己喜、講師小林 由美、講師仁村 範子、講師幸川 重政、教授藤原 民雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人間を描く。今日イラストやマンガをとおして描写された人物をいたるところで目にする。しかし実際に生身の人間を描くとなるとそこには様式による描写とは別の骨格や肉付きなど日頃は捉え切れていなかったリアルがあり、人間個体としての個性や形態としての個性など千差万別の様相がそこに示される。面接授業ではモデルを使って人間と直接向き合い、デッサン及びドローイングの形で、画面上でそれらをどのように捉えることができるかに取組む。

【課題の概要】

○面接授業課題
1-1　人体(ヌード) 合わせてB2以上となる複数点のドローイング、デッサンそれぞれ1点以上提出。描画材自由。
1-2　人体(着衣) 合わせてB2以上となる複数点のドローイング、デッサンそれぞれ1点以上提出。描画材自由。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義及び制作、午後：制作(人体を描く)
第2日 午前：制作、午後：制作
第3日 午前：制作、午後：制作及び採点・講評
第4日 午前：前提講義及び制作、午後：デッサン（人体を描く）
第5日 午前：制作、午後：制作
第6日 午前：制作、午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	デッサン表現						
授業コード	2740	授業科目名	デッサン表現			担当者	教授、教授、教授、講師、講師、講師

科目名	絵画研究　ＩＡ						
授業コード	2750	授業科目名	絵画研究　ＩＡ			担当者	教民川教英伊、講泰木　真、講琢坂　健、講晶辺師範川　雄部、師介家、講村師三森明吉授、講庸大師、講村師之木講隆小師幸清講昌山、こ浦、教起美阿師講仁井、講繁、美島、講龍、郎山、師つ三授、仁口授幸藤今師仁村師由小師己本師太畠師講え
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「古典技法」
古典的な技法の基礎と理論を学ぶと共にデッサン及びアクリル絵具、ガッシュ（不透明水彩）による着彩をともなった表現を行う。

【課題の概要】

○通信授業課題「古典技法で描く」
1-1　身のまわりの物をモチーフにクロッキーする。
1-2　1-1 で行ったクロッキーを基に、着色した画用紙又は色画用紙に、鉛筆と白い描画材（コンテ、パステル、色鉛筆など）でデッサンする。
1-3　植物や樹木あるいは食物をモチーフにクロッキーする。
1-4　1-3 で行ったクロッキーを基にアクリル絵具又はガッシュ（不透明水彩）による着彩をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画研究ＩA・ⅡA　2021 年度』の「絵画研究ＩA」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
通信課題に取り組む前にWebキャンパス内の「動画視聴」にて「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴すること。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『絵画研究ＩA・ⅡA　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画研究　ＩＢ						
授業コード	2760	授業科目名	絵画研究　ＩＢ			担当者	教民川敦菅則内米師 範川教村子講 明古授、雄鈴師、講 三浦授、美起智 仁口授、夫講 原師、 子講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「古典技法」
西洋中世からルネサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に止まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がりを学ぶ。
テンペラ・フレスコ・モザイク・ステンドグラスの4つの表現技法の中から1つを選択し、実習を通して学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典技法等の実習」
1-1　古典技法の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。
テンペラ・フレスコ・モザイク・ステンドグラスの4つの表現技法の中から1つを選択し、制作する。

【授業計画】

○面接授業
第1日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作（各古典技法による制作）
第2～5日　　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画研究 ⅡA						
授業コード	2770	授業科目名	絵画研究 ⅡA			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌山、こ範川　講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師、つ明吉授、講幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講え浦授、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師三仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「色数制限」
油彩画における基本的な技法を学ぶ。指定された色の混色を通して、絵画における彩色への展開と絵画空間の構築を学んでいく。また、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高めることにより、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。

【課題の概要】

○通信授業課題
1-1　イエローオーカー、ライトレッド、コバルトブルーの 3 色による色相環を作る。
1-2　ライトレッド＋コバルトブルー＋シルバーホワイト等の 3 色に色数制限し、油彩で制作する。
1-3　「1-2」と同じモチーフと構図を、ライトレッド＋イエローオーカー＋コバルトブルー＋シルバーホワイト等の計 4 色に色数制限し、油彩で制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画研究 ⅠA・ⅡA 2021 年度』の「絵画研究 ⅡA」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
なし

○備　　考

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画研究ⅠA・ⅡA 2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画研究 ⅡＢ						
授業コード	2780	授業科目名	絵画研究 ⅡＢ			担当者	三浦明範教授、古川民仁教授、川口起美雄教授、
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年		指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「古典模写」
古典絵画を模写することで、油彩画の基本的な構造を知る。

【課題の概要】

○面接授業課題

1-1　ルーベンスやレンブラント等の 17 世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。作品の模写を通してカマイユを用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

【授業計画】

○面接授業

第 1 日　午前：前提講義及び制作（古典模写）／午後：制作（下層描き）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作及び講義／午後：制作及び講義
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「絵画研究 IB」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3 年次編入学生を除く）。

○備　　考
「絵画研究 IB」、「絵画研究 ⅡB」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画研究 Ⅲ						
授業コード	2300	授業科目名	絵画研究 Ⅲ			担当者	教民範川明古授、川教敦菅雄村美鈴師、講子米師則三浦仁口教起授、講智内夫原師、講子
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

学1課程「絵画研究 I」・学2課程「絵画研究IB」を履修した者が、同科目で選択しなかったテンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの 4 つの技法から 1 つを選択し、さらに研究を重ねることを目的とした科目。授業としては「絵画研究 I」「絵画研究IB」 と同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

西洋中世からルネッサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に止まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がりを学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典技法等の実習」
1-1　「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの４つの表現技法の中から１つを選択し、制作する。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（各古典技法による制作）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
学1課程の学生は「絵画研究 I」の単位を修得していること。
また、「絵画研究 I」で選択していない技法を選択すること。
学2課程の学生は「絵画研究IB」の単位を修得していること。
また、「絵画研究IB」で選択していない技法を選択すること。

○備　　考
スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	版表現Ⅰ						
授業コード	2790	授業科目名	版表現Ⅰ			担当者	教民遠　利元 範川　教浜、教井　庸木 明吉授、教太高授、治今師、講村師己　真、講 浦、教竜、教久、講繁、美森 三授仁藤授也田授介村師由小師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔、の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念によって結ばれている。

「木版」か「リトグラフ」のどちらかを選択し、版種の特性と表現の関係を体感しながら、その基本技法を習得する。また、版を用いることで造形的課題を明確にする。

【課題の概要】

○面接授業課題
1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。
・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm
・「リトグラフ」イメージサイズ：30cm×40cm 程度

【授業計画】

○面接授業
・「木版」または「リトグラフ」（選択）
第 1 日　　午前：前提講義及び制作　午後：制作
第 2 ～ 5 日　午前：制作　午後：制作
第 6 日　　午前：制作　午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	版表現Ⅱ						
授業コード	2800	授業科目名	版表現Ⅱ			担当者	教民遠 利元 庸木 真、講 範川 教浜、教井、講村師己 明吉授、教太高授、教治今師之木講琢 浦、教竜、教久、講繁、美森 三授仁藤授也田授介村師由小師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版画は紙やキャンバスに直接描くのではなく、「版」という媒体を使った間接的な表現である。そこには様々な魅力や偶然性、造形的発見などが混在している。

授業は面接授業のみで行い、「銅版」か「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで、イメージの膨らみや発想の広がりを体感し、造形上の課題を明確にする。

【課題の概要】

○面接授業課題「技法と表現の発展②」
1-1　「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。
・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm
・「スクリーンプリント」：イメージサイズ：A4 程度、30cm×42cm 程度（各１点）

【授業計画】

○面接授業
・「銅版」または「スクリーンプリント」（選択）
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作
第４日　午前：制作／午後：制作
第５日　午前：制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
「版表現I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある

【教材等】

なし

【その他】

科目名	彫刻Ⅰ（塑造クラス） （旧科目名：彫塑Ⅰ）						
授業コード	0640	授業科目名	彫刻Ⅰ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち専任講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

山羊または羊の頭部を観察し、粘土（塑造）及び石膏（直付け）でほぼ等身大の頭部彫刻を制作します。

この授業は、複数頭の山羊または羊の中から一頭を選ぶことから始まります。人物モデルや静物と違い、動きまわる動物は手強いモチーフですが、一つ一つの動きの中に造形上のヒントが隠れています。スケッチブックへのデッサンや直接触れてみたり、あらゆる角度から観察してください。また、一頭を選ぶということも重要なポイントです。山羊や羊は一見どれも同じに見えますが、観察を継続することで選んだ一頭の持つ固有のかたちを発見できます。モチーフの観察を通して、日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
この授業において重要なことは、「山羊または羊の頭部」という概念をまとめ上げることではなく、目の前にいる生身のモチーフの頭部を、自分の目を通して深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものです。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分の作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、試行錯誤を繰り返し制作することで、さらに対象の観察が深まることを体験してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフとして、粘土（塑造）及び石膏（直付け）で彫刻を制作します。
授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏（直付け）により継続して制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第１日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意 ／午後：制作（塑造）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第４日　午前：石膏型取り作業／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第５日　午前：清掃、制作（石膏直付け）／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ⅰ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。
・この授業は、「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅴ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）
※「彫刻I」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅰ（木彫クラス） （旧科目名：彫塑Ⅰ）						
授業コード	0640	授業科目名	彫刻Ⅰ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち専任講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20 ㎝の立方体に製材された木材を素材として彫刻を制作します。

この授業では、自然物であるモチーフを観察し立体として制作することを通して、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見します。
木材が、粘土や石膏のように簡単に加工することが難しい素材であるため、木彫制作は難しいのではないかと感じる人がいます。木彫は、かつての美術大学では、粘土などの可塑性の高い素材で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に制作することが望ましいとされていました。確かに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることへの厳密さが求められます。しかし、木彫制作のそういった特質こそが、たとえ初学者であったとしても、全ての制作者に、造形上の思い切った判断や決断を促してくれる助けにもなることを体験してください。
木彫制作を通して木材から切り出され、彫り出される形が、粘土など可塑性の高い素材で作られた形よりも明確な立体上の性格を帯びやすいことも、この授業での彫刻制作体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。
動きまわる山羊や羊の観察を通して、「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
＊この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって事前に木工技術や木彫りの方法を事前学習しておく必要もありません。（木彫制作のための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います）

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフに、一辺 20 ㎝の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明　／午後：制作（木彫）
第 2 日　午前：制作／午後：制作・木材接着説明
第 3 日　午前：制作／午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ⅰ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。
・この授業は、「彫刻Ⅲ」【木彫クラス】、「彫刻Ⅴ」【木彫クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）
※「彫刻I」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅱ（旧科目名：彫塑Ⅱ）						
授業コード	0650	授業科目名	彫刻 Ⅱ			担当者	伊藤誠教授、黒川弘毅教授、冨井大裕准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

現実的（アクチュアル）な世界は、「変化して止まぬ不定性」と「揺るぎない不動性」という両面性を持つ。彫刻の制作には、この両面への探究が不可欠である。触覚はしばしば言われているような手で触れる感覚ではない。見えないが、実在的（リアル）な対象であるエモーション（情動）を実体化する働きを持ち、正確には「内触覚」と呼ばれる。量塊は、内触覚の働きによって、豊かな両面性を獲得する。

この課題は、量塊の問題について考察し、立体表現を追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題
課題として用意された詩・短歌等を契機として、作品制作を試みる。
詩・短歌等の言葉を造形的に解釈し、粘土塑造と石膏型取り、及び石膏彫刻により作品を制作する。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　午前：オリエンテーション／午後：技法説明
第 2 日　午前・午後：制作
第 3 日　午前・午後：制作
第 4 日　午前・午後：制作
第 5 日　午前・午後：制作
第 6 日　午前：清掃・展示／午後：講評

【成績評価の方法】

出席の状況を確認しながら、提出し展示された作品の内容を担当教員と講師により合議の上、採点評価を定める。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ⅰ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

【教材等】

教材は実習時に配付する。道具は実習時に指示する。

【その他】

油絵学科所属の教職課程履修者は、この授業科目は「教科に関する専門的事項」として取り扱われる。

科目名	彫刻Ⅲ（塑造クラス） （旧科目名：彫塑Ⅲ）						
授業コード	0660	授業科目名	彫刻Ⅲ			担当者	戸田裕介教授、 山本一弥教授、 長谷川さち専任 講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

山羊または羊の頭部を観察し、粘土（塑造）及び石膏（直付け）でほぼ等身大の頭部彫刻を制作します。

この授業は、複数頭の山羊または羊の中から一頭を選ぶことから始まります。人物モデルや静物と違い、動きまわる動物は手強いモチーフですが、一つ一つの動きの中に造形上のヒントが隠れています。スケッチブックへのデッサンや直接触れてみたり、あらゆる角度から観察してください。また、一頭を選ぶということも重要なポイントです。山羊や羊は一見どれも同じに見えますが、観察を継続することで選んだ一頭の持つ固有のかたちを発見できます。モチーフの観察を通して、日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
この授業において重要なことは、「山羊または羊の頭部」という概念をまとめ上げることではなく、目の前にいる生身のモチーフの頭部を、自分の目を通して深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものです。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分の作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、試行錯誤を繰り返し制作することで、さらに対象の観察が深まることを体験してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフとして、粘土（塑造）及び石膏（直付け）で彫刻を制作します。
授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏（直付け）により継続して制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第１日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意 ／午後：制作（塑造）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第４日　午前：石膏型取り作業／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第５日　午前：清掃、制作（石膏直付け）／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ⅰ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。
・この授業は、「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅴ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）
※「彫刻Ⅲ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、芸術文化学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅲ（木彫クラス） （旧科目名：彫塑Ⅲ）						
授業コード	0660	授業科目名	彫刻Ⅲ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち専任講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20 ㎝の立方体に製材された木材を素材として彫刻を制作します。

この授業では、自然物であるモチーフを観察し立体として制作することを通して、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見します。
木材が、粘土や石膏のように簡単に加工することが難しい素材であるため、木彫制作は難しいのではないかと感じる人がいます。木彫は、かつての美術大学では、粘土などの可塑性の高い素材で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に制作することが望ましいとされていました。確かに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることへの厳密さが求められます。しかし、木彫制作のそういった特質こそが、たとえ初学者であったとしても、全ての制作者に、造形上の思い切った判断や決断を促してくれる助けにもなることを体験してください。
木彫制作を通して木材から切り出され、彫り出される形が、粘土など可塑性の高い素材で作られた形よりも明確な立体上の性格を帯びやすいことも、この授業での彫刻制作体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。
動きまわる山羊や羊の観察を通して、「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。
＊この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって事前に木工技術や木彫りの方法を事前学習しておく必要もありません。（木彫制作のための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います）

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフに、一辺 20 ㎝の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明　／午後：制作（木彫）
第 2 日　午前：制作／午後：制作・木材接着説明
第 3 日　午前：制作／午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次　1年次～
○履修条件　なし
○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ⅰ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。
・この授業は、「彫刻Ⅰ」【木彫クラス】、「彫刻Ⅴ」【木彫クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）
※「彫刻Ⅲ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、芸術文化学科教職課程履修者の「教科に関する専門的事項」として取り扱われます。

科目名	彫刻Ⅳ（旧科目名：彫塑Ⅳ）						
授業コード	0670	授業科目名	彫刻 Ⅳ			担当者	伊藤誠教授、黒川弘毅教授、冨井大裕准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

○「抽象彫刻のA/B/C」：スマートフォンのカメラ機能、石膏型取り、アーク溶接（鉄の溶接）の技法を使い、3 人の彫刻家（Arp/Brancusi/Caro）の、作品に至る方法を分析することから生まれる 3 つの課題の制作を行う。
○「抽象彫刻」とはなんでしょうか。それらは具象彫刻に対して一般的にはそのように呼ばれています。
しかし、各々の抽象彫刻はいったい「何が」違うのでしょうか。そして「何を」目指してきたのでしょうか。この実技は彫刻家の方法を新たな解釈で分析することから生まれる課題による実習です。

ここでは３人の彫刻家（Hans Arp/Constantin Brancusi/Anthony Caro）を取り上げ、作品の造形的な特徴よりも、彼らのドローイングや展示された空間、歴史的背景など、制作のバックボーンを探ることから、少し実験的な課題を作ってみました。彫刻制作の経験は問いません。この実習は 3 種類の課題作品の制作をします。作品のプロセスを分析しそれぞれの異なるアプローチから追求することによって、よく知られた美術史とは少し違った視点の可能性を探ること、自身の制作のための実験や課題を発見する力をつけることを目標とします。

【課題の概要】

課題Ａ： 写真から抽象形体を導き出す実習と、それを立体にする実習（石膏型取り）。
課題Ｂ： 抽象形体を、日常にあるものから見つけ出す実習（デジタル写真）。
課題Ｃ： 鉄筋（6 ～ 9 ㎜径の鉄棒）を溶接して言葉（文字）を作り、空間的に構築させる実習（アーク溶接）。

＊各課題の詳細は当日のオリエンテーションで説明

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　課題Ａオリエンテーション：３人の彫刻家について。課題の概略説明。分析するための3つのキーワードについて。ハンス・アルプ（1886~1966）についてのリサーチ。写真とドローイング開始。
第 2 日　課題Ａドローイングの継続、石膏を使用した実習。展示と講評。
第 3 日　課題Ｂオリエンテーション。コンスタンチン・ブランクーシ（1876~1957） についてのリサーチ。チェスのルールと 6 種類の形体の設定。
第 4 日　課題Ｂ写真撮影、展示、講評
第 5 日　課題Ｃオリエンテーション。アンソニー・カロ（1924~2013）についてのリサーチ。アーク溶接の実習。
第 6 日　課題Ｃ作品制作、展示、講評（日程が変更する可能性あり）

【成績評価の方法】

制作された作品とプレゼンテーションから以下の基準で採点します。
評価基準：各プロセスが各自の判断で正確に行われていたか。制作の結果、新たな観点が獲得できたか。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。学1課程受講者は「造形基礎Ｉ」と「造形基礎II」の単位を、学2課程受講者は「造形基礎I」と、「造形基礎IIA」または「造形基礎IIB」いずれかの単位を、修得していることが望ましい。
※教職課程履修者は『教職課程ガイドブック』を熟読すること。

設備と指導体制の関係上、スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。
下記の条件を満たす端末（スマートフォン・携帯電話・iPad など）を所有・持参し、利用できること。
・写真を撮影できること。
・撮影した写真を即時に送信できること。

【教材等】

・各課題のオリエンテーション時に配布する。
・ 5 日～ 6 日目はアーク溶接機を使用します。保護具は準備しますが強い紫外線が発生することをご了承ください。

【その他】

芸術文化学科所属の教職課程履修者は、この授業科目は「教科に関する専門的事項」として取り扱われる。

科目名	彫刻Ⅴ（塑造クラス） （旧科目名：彫塑Ⅴ）						
授業コード	2340	授業科目名	彫刻Ⅴ			担当者	戸田裕介教授、山本一弥教授、長谷川さち専任講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

この授業では、「彫刻Ⅰ」や「彫刻Ⅲ」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、塑造制作をさらに広げ、深めてください。
指導もさらに踏み込んだ専門的なものとなります。
※「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】と「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】の授業の概要と目標については、 それぞれのシラバスを参照してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフとして、粘土及び石膏直付けで彫刻を制作します。
授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏直付けにより継続して制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第１日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意 ／午後：制作（塑造）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第４日　午前：石膏型取り作業／午後：石膏型取り作業　夜：石膏型取り作業（～ 18:30）
第５日　午前：清掃、制作（石膏直付け）／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～
○履修条件
「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】または「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】の単位を既に修得していることを条件とします。
○備　考
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。
・この授業は「彫刻Ⅰ」【塑造クラス】、「彫刻Ⅲ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）

科目名	彫刻Ⅴ（木彫クラス） （旧科目名：彫塑Ⅴ）						
授業コード	2340	授業科目名	彫刻Ⅴ			担当者	戸田裕介教授、 山本一弥教授、 長谷川さち専任 講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

この授業では、「彫刻 I」や「彫刻Ⅲ」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、木彫制作をさらに広げ、深めてください。
指導もさらに踏み込んだ専門的なものとなります。
※「彫刻Ⅰ」【木彫クラス】と「彫刻Ⅲ」【木彫クラス】の授業の概要と目標については、それぞれのシラバスを参照してください。

【課題の概要】

○面接授業課題
山羊または羊の「頭部」をモチーフに、一辺 20 ㎝の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

【授業計画】

［面接授業］
第 1 日　午前：前提講義　研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明　／午後：制作（木彫）
第 2 日　午前：制作／午後：制作・木材接着説明
第 3 日　午前：制作／午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日　午前：制作／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：清掃、講評・採点

【成績評価の方法】

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～
○履修条件
「彫刻Ⅰ」【木彫クラス】または「彫刻Ⅲ」【木彫クラス】の単位を既に修得していることを条件とします。
○備　　考
月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読すること。

【教材等】

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

【その他】

・授業初日より、必ず、作業着・作業靴（運動靴可）を着用してください。
・この授業は「彫刻Ⅰ」【木彫クラス】、「彫刻Ⅲ」【木彫クラス】と合同で面接授業を行います。（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます）

科目名	工芸 Ⅰ						
授業コード	0680	授業科目名	工芸 Ⅰ			担当者	牧野良三教授、伊東茂講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

私たちの暮らしは、衣食住のさまざまな局面で西欧化の道を辿ってきた。しかし、一方では日本の伝統的な習慣や事物も根強く受け継がれ、今日の生活文化を豊かなものにしている。様々な生活用品も、大量生産による工業製品によってその多くを占められているが、日本の各地で発展継承された地域の産業によって供給されているものも少なくない。しかし、生活様式などを含めた社会の激しい変動は、この地域の産業と生活者の関係を希薄にし、将来を楽観できない状況にまで追い込んでいる。デザインの役割の一つはこの伝統的産業に現代的意味を見いだし活性化させることだと言える。それには、地元産業への深い理解とともに、良質の生活観から提言される新たなライフスタイルと産業が濃密に関係することが重要である。

この授業は、日本各地の地域の工芸に注目し、その調査から「工芸」の現代的意味を探るとともに、ハンドクラフト、工業製品などとの関係、地域の工芸の将来、製品デザインの在り方を考察することを内容としている。なお、教職「工芸」の鑑賞に対応している。

【課題の概要】

○面接授業課題
「見学と体験」工芸品の生産現場や博物館、資料館などの見学・体験、ライフスタイルショップの見学など幅広く工芸の有り様に直接ふれ、日本人の美意識を形成する伝統と現代のライフスタイルを考察。最終日に「工芸のあり方」の提言を 2000 字程度のレポートにまとめる。

○通信授業課題
「デザイン調査」　居住する地域や近在の産業として営まれている工芸を俯瞰し、また生産現場を見学して記録するとともに、自分自身でその製品を使用してデザインを分析、考察しレポートにまとめる。

＊課題については学習指導書『工芸 Ⅰ・II　2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業
第 1 日：工場見学
第 2 日：見学した工場に関連した展示等の見学
第 3 日：授業のまとめ
面接授業の内容は受講者数や見学先の都合、面接授業の日程により変更することがある。

○通信授業
工芸品の産業的調査及び製品のデザイン的調査・分析をし、レポートとしてまとめる。

【成績評価の方法】

通信授業、面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図 Ⅰ・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 Ⅰ・II等の履修を勧める。
本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『工芸 Ⅰ・II　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

学外見学とワークショップ等の場合もある。

科目名	工芸 Ⅱ						
授業コード	0690	授業科目名	工芸 Ⅱ			担当者	牧野良三教授、野田昇一郎講師、大野洋平講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作することである。そこでは、材料の特性を生かし、合理的に用途を満たしつつ、生活に潤いをもたらす造形の美しさが求められてきた。今日では、手工業的に制作されてきた用具の大半は機械工業的生産方法に代わってしまった感じすらある。新しい材料が開発され、工業的な生産技術による量的規模が拡大しても、人と用具との関係は変わることなく、その造形的な美しさに生活の潤いを求めている。この科目では、日本の伝統的な自然素材を使用し、工芸的手法を活かしながら、用具（照明器具）と現代の生活の関わりを考察して新たなデザイン提案と制作をする。なお、教職「工芸」の学習に求められるプロダクト制作とデザイン表現に対応している。

【課題の概要】

○面接授業課題「照明器具（スタンドライト）のデザイン」
面接授業で、日本の伝統的素材である和紙を主材料に、生活空間の照明器具（スタンドライト）をデザインし制作する。照明は、その使われる場や用途（玄関や居間といった）によって様々な性能や効果が求められる。その照明が使用される状況を良く想像しながらデザインし、和紙の特性、風合いを生かした造形性と共に、あかりを点灯した時の光の効果も含めた創造性ある照明器具を制作する。その際には少量でも良いが、生産性を考慮に入れたプロダクトデザインの考えで実施する。

○通信授業課題「照明器具（スタンドライト）のリデザインとその説明資料の作成」
面接授業で制作した照明器具を講評にしたがって改良（リデザイン）し、デザインの主旨や特徴、図面、写真などを内容とするデザインの説明書を提出する。プロダクト制作に求められるのは、デザインの主要な要件（目的性、機能性、生産性、流通、造形様式など）への見識であり、またデザインの表現（製図やレンダリングなど）技術の習得でもある。ここではその基本的な技術に触れつつ各自のデザインの全体像を構築する。

＊課題については学習指導書『工芸 Ⅰ・II　2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

予習課題→面接授業→通信授業

面接授業で具体的な現物の制作を行い、続いて通信授業でそのデザインを総括するという順序で学習する。
尚、面接授業の受講前には予習課題があるので、学習指導書・工芸 II の面接授業前予習課題の項を予習する。

○予習課題
予習課題では、照明器具（スタンドライト）に関するコンセプトの作成と、そのアイデアのスケッチを5 点作成し、面接授業初日に持参する。
※初日に予習課題を持参しなければ面接授業を受講することはできないので、必ず持参すること。

○面接授業
面接授業では、前提講義で照明の基礎的知識と和紙について講義があり、続いてスケッチによる照明器具の構想、現物の制作を展開し講評に至る。和紙や器具などの主要な材料は大学が用意する。

○通信授業
面接授業における講評をふまえ、自宅でデザインの改良を試み、その結果を図面や写真を添付したリデザインの説明資料で報告する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価と通信授業の評価の平均を原則とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図 Ⅰ・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、「工芸 Ⅰ・II」及び、素材別基礎実習 Ⅰ・II 等の履修を勧める。
本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。

【教材等】

○教科書
横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『工芸 Ⅰ・II　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

通信授業課題は、面接授業受講後 2 ヶ月を目途に提出する。
○参考資料
横溝健志監修、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	ガラス基礎実習　I						
授業コード	2350	授業科目名	ガラス基礎実習　I			担当者	大村俊二教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、加熱することで液体状態に柔らかくなるガラス素材の特性を理解し、ガラスの粉末、粒、板などをキルン（電気炉）内で加熱し、変形、熔着による成形加飾する技法を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
キルンワークによる「菓子器」のデザイン・制作。

【授業計画】

○面接授業
・菓子器のデザインスケッチと配色イメージの作成
・型作り
・ガラス素材を配色イメージに合わせて配置
・キルンで加熱成形

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	ガラス基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2360	授業科目名	ガラス基礎実習 Ⅱ			担当者	大村俊二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、板ガラスの加工方法と接合方法を習得し、伝統的なステンドグラスの手法、また接着技法による照明器具を制作することで、ガラス素材の特性、光の透過による効果を理解し、場と「あかり」の関わり方を考察する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
生活用品としての機能を持った「あかり」のデザイン・制作。

【授業計画】

○面接授業
・「あかり」のデザイン、イメージスケッチ
・スケッチから、型紙図を作成しガラス板をカット
・コパーテープの貼り付けと半田付けにより組立、又は接着剤を用いて組立

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品やイメージボードで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	テキスタイル基礎実習 Ⅰ						
授業コード	2370	授業科目名	テキスタイル基礎実習 Ⅰ			担当者	山中一宏教授、後藤大樹講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、テキスタイルの基礎技術である、オフルームによるタペストリーの制作をとおして、その歴史と技法を学ぶ。オフルームとは織機（LOOM）を使わない織りの技法で、木枠の道具を使い、織る、結ぶなどの技法により表現の違いを学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」素材別テキスタイルクラスの〈OFF LOOM〉とほぼ同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
アートへの展開とタペストリー制作の為の OFF LOOM 研究。

【授業計画】

○面接授業〈OFF LOOM〉
1. タペストリーの技法の講義、フリードローイング、トリミングから制作
2. OFF LOOM による製織
3. 作品制作（2 点）、プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品やプレゼンテーションで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」テキスタイルクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系テキスタイルクラスを選択する場合は、1・2 年次において「テキスタイル基礎実習 Ⅰ・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 Ⅰ・II の科目の他、工芸 Ⅰ・II の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
田中秀穂 監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）

科目名	テキスタイル基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2380	授業科目名	テキスタイル基礎実習 Ⅱ			担当者	山中一宏教授、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、テキスタイルの基礎技術である、布（織物）の構造としての組織を学び、織組織と色彩効果の理解を深める。さらに模様を織り出す技法として、昼夜織によるタペストリーを制作する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」素材別テキスタイルクラス及び、2017 年度までの「テキスタイル基礎実習 I」の〈織〉とほぼ同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
布を成立させる〈織〉の構造〈組織〉と並置混色研究。

【授業計画】

○面接授業〈織〉
1.　織の構造と色彩の講義／製織準備
2. 卓上機による製織
3. 作品制作（2 点）、プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品やプレゼンテーションで評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」テキスタイルクラス及び、2017 年度までの「テキスタイル基礎実習 I」の受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系テキスタイルクラスを選択する場合は、1・2 年次において「テキスタイル基礎実習 Ⅰ・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 Ⅰ・II の科目の他、「工芸 Ⅰ・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
田中秀穂 監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）

科目名	金工基礎実習　I						
授業コード	2390	授業科目名	金工基礎実習　I			担当者	鈴木洋教授、高橋勇一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、金属加工用の槌、当金等を使用し、銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し、平面から立体へ成形する鍛金技法を習得する。板金絞り加工による器の制作を通して金属の焼鈍による組織の軟化、展延性の向上と、加工硬化の特性を理解し、鍛金による造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別金工クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
鍛金技法により銅板素材から容器を制作する。

【授業計画】

○面接授業
・容器のデザインと型紙の作図、制作
・銅板を槌起加工と焼鈍をくり返し行い、容器を制作

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸 III」金工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	金工基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2400	授業科目名	金工基礎実習 Ⅱ			担当者	鈴木洋教授、高橋勇一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、ガラスが金属に焼き付くと言う特性を理解し、七宝技法のひとつである、有線七宝を学んでいく。これにより、基礎知識、技法の習得、色彩造形を体験し、探求することを目的とする。

【課題の概要】

○面接授業課題
有線七宝による平面作品の制作。

【授業計画】

○面接授業
ガイダンス、技法について
エスキースチェック、素地作り、下地焼成
銀線植線→焼成
釉薬施釉→焼成（3 回）
研磨
仕上げ

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 Ⅰ・II の科目の他、「工芸 Ⅰ・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

科目名	陶磁基礎実習　I						
授業コード	2410	授業科目名	陶磁基礎実習　I			担当者	西川聡教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然からもたらされた素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、元来自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらに今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。手びねり・板作り・彫り・印花などの技法を使い、道具立てを制作する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
日常的に使う事務用品、洗面用具、調理具等を立てておく器（歯ブラシ立て、箸・スプーン立て等）のデザインと制作。

【授業計画】

○面接授業
・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
・　手びねり、ヒモ作り、輪積み、板作り、接合、印花、布目、押し出し等の技法を実習し、課題を制作

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」陶磁クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2 年次において「陶磁基礎実習 I・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、「工芸 I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
小松誠 監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	陶磁基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2420	授業科目名	陶磁基礎実習 Ⅱ			担当者	西川聡教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然からもたらされた素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、元来自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらに今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。ここでは、造形表現の面白い可能性を持っているさまざまな土の板の作り方を実習。粘土板（たたら）による成型法と造形表現を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
粘土板（たたら）成形法による花器のデザインと制作。

【授業計画】

○面接授業
・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
・花器のデザインと制作

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」陶磁クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2 年次において「陶磁基礎実習 Ⅰ・II」を履修していることが望ましい。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 Ⅰ・II の科目の他、「工芸 Ⅰ・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
小松誠 監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	木工基礎実習　I						
授業コード	2430	授業科目名	木工基礎実習　I			担当者	山中一宏教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では木の加工の原初的手法である鑿、鉋などを使用した手彫りによる制作を通して、木が繊維素材であることを理解する。また、刃物を使い木の塊を削り出すことで、木の温かさ、硬さ、など木材の性質を知る。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸III」の素材別木工クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
くりもの技法によるサラダボール、コンポートなどを制作。

【授業計画】

○面接授業
・デザインのアウトラインを木の塊に描く
・鋸、鑿等を使用し、器の形の荒削りを行う
・豆鉋などを使用して仕上げる

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸III」木工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II の科目の他、工芸「I・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
十時啓悦 監修『木工　樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	木工基礎実習 Ⅱ						
授業コード	2440	授業科目名	木工基礎実習 Ⅱ			担当者	山中一宏教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、木の薄板の巻き上げ技法による器の制作を通して、木が繊維素材であることの理解と、造形の可能性を研究する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別木工クラスと同一の内容である。

【課題の概要】

○面接授業課題
帯状の単板を使用し、巻き上げ技法によりサラダボール、コンポートなどを制作する。

【授業計画】

○面接授業
・器のデザインと断面図により、形を整える台（治具）を作る
・器の底板を作る
・帯状の単板を作り、底板に単板を巻き締める
・治具に合わせて形を整える
・内側、外側を豆鉋で削る
・サンディングにより仕上げる

【成績評価の方法】

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 ～ 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」木工クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。
工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 Ⅰ・II の科目の他、「工芸 Ⅰ・II」の履修を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

○参考資料
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
十時啓悦 監修『木工　樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）

科目名	デザイン Ⅰ						
授業コード	0720	授業科目名	デザイン Ⅰ			担当者	教授、信子、小原、幸徳、講師、幸米、介護、講師、教授、幸風、朗講師、一郎、二笠原、講師、吉田
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

デザインⅠおよびデザインⅡは、広いデザインの領域から、物事を視覚的に人々に伝える役割を担ったヴィジュアル・コミュニケーションデザインを取り上げて学習します。
デザインⅠでは、従来からマスコミュニケーションの主要な媒体であった印刷メディアを軸に学習します。
現代の社会を成り立たせている膨大な量のさまざまな情報は、主に大量伝達を可能にした印刷物によってもたらされました。この授業は、ヴィジュアル・デザインの原形ともいうべき広報を目的とした印刷の特性を踏まえ、さまざまな印刷媒体に求められる役割を認識し、その企画やイメージ表現の方法などを学習します。
印刷デザインの手法も今やデジタルが主流ですが、従来の手作業による制作（アナログ）も変え難い表現方法としてヴィジュアル・デザインの世界を支えています。さまざまな画材は、文字やイラストレーションに個性を与え、微妙な情感を表現してきました。デジタルとの違いや、手作業のもつ魅力が再認識されつつあるといえます。授業は、このどちらかの方法を課題制作の手段として選択して行います。

【課題の概要】

○面接授業課題
「各自が生活している地域、グループなどのイベントを企画し、それを伝える印刷物をデザインする」というテーマで、文字やイラストレーション、写真などを駆使して制作します。
画材を用いる制作は、主にパネルに水張りしたケント紙などを用い、パソコンを利用する場合は、プリント出力とします。
なお、パソコンでの制作を選択する人は、イラストレーター・フォトショップなどの基本的な技術がマスターされていることが条件になります。

【授業計画】

○面接授業
面接授業申込み時に、画材（アナログ）で制作するかパソコン（デジタル）で制作するか表現技術選択をします。授業の前半は教員とディスカッションしながらイベントの企画立案をし、プレゼンテーションを行います。そして、ポスター、チラシ、ダイレクトメールなどの中から企画内容に合った適切な媒体を選定します。後半は企画時に決めた印刷媒体を受講前に選択した制作技術で制作します。

【成績評価の方法】

制作したイベント企画書、ポスター、チラシ、ダイレクトメールなど完成作品の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	デザイン Ⅱ						
授業コード	0730	授業科目名	デザイン Ⅱ			担当者	教授 信子、清原 一平、直田 幸徳、丸山 恒、米 美水 講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業（web提出可）						

【授業の概要と目標】

デザインⅠおよびデザインⅡは、広いデザインの領域から、物事を視覚的に人々に伝える役割を担ったヴィジュアル・コミュニケーションデザインを取り上げ学習します。
デザインⅠでは従来からマスコミュニケーションの主要な媒体であった印刷メディアからポスターの制作を内容としましたが、デザインⅡでは、今やコミュニケーション手段として主流となったコンピュータ・ネットワークをテーマとします。
コンピュータ・ネットワークの利用は、私達の日常生活に欠かせないものとなり、その特性を理解し、より良いデジタル環境を整えることがデザインに求められています。この授業は、Webデザインの制作を通して日々変化しつつあるインターネットの特性を認識し、テーマの構築や Webデザインの可能性を探ることを目標にしています。また、デザインに求められる基本的な要件、企画力や表現力、インターフェイスとしての機能などについてあわせて学習します。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
Webページの企画と設計
「身の回りで見過ごしてしまうような事柄を掘り起こす」というテーマで Webページの企画を発案し、企画内容と設計方法を考えて企画書を作成します。
Webキャンパスのネットフォーラムを開設し、任意でテーマの選定や企画についての意見交換を行います。
Webページには「個人的な表現媒体」であることが特徴として挙げられますが、課題ではその特質を生かし、個人の趣味や生活、住環境などからテーマを定め、コンセプトに合わせて内容を構成し、相応しい設計や表現を企画、制作して公開します。

○通信授業課題 2
Webページの制作と公開
課題 1 で立案した企画をもとに Webページを制作し、各自の用意した Webサイト用領域にアップロードして公開します。
Webページの制作方法は、学習指導書を参考に各自の企画内容と経験に合わせた最適な方法を選択します。

※ 課題については、学習指導書『デザイン Ⅱ 2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
事前に教科書を精読し、学習指導書『デザイン Ⅱ 2021 年度』に従って、Webページのテーマの発案、企画、設計、制作、公開を行います。

【成績評価の方法】

各課題の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。日常的にパソコンでインターネットを利用し、Webサイトの閲覧や文書作成などの基本操作に親しんでいること。インターネットに接続でき、Webブラウザ、テキストエディタ、画像加工のソフトウェアを利用できること。可能であれば、Webサイト作成、ファイル転送のソフトウェアを利用できること、Webページをアップロードする自分の Webサイト用領域を用意できることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『Webインターフェイスで学ぶ　インタラクションと情報のデザイン』（若林尚樹　オーム社　2011）

○学習指導書
『デザイン Ⅱ 2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	ブックバインディング						
授業コード	0740	授業科目名	ブックバインディング			担当者	田村裕教授、近藤理恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

【授業の概要と目標】
「ブックバインディング」面接授業では、手製本の制作を通し、「もの」としての本の構造を知ること、紙などの素材を扱う基本的な作業を習得すること、製本作品として装丁を表現することを目標とする。
　身近な存在である「本」について、受講者各自が改めて考えてみる機会にもしたい。西洋で4世紀頃に定着した冊子の製本は、中世の手写本から活版印刷、ルネサンスの時代、19世紀末の機械製本の始まりを経て、現代まで続いている。紙の本の存続が問われる今、手製本の意味や可能性について考えるきっかけとなることを望んでいる。
前提講義では、製本構造の種類や、古代からの製本の歴史や伝統的な製本工房の仕事について概観する。

【課題の概要】

○面接授業課題 1
文庫本（ソフトカバー）の角背ハードカバー製本への改装。

○面接授業課題 2
和綴じ製本の製作。

○面接授業課題 3
折丁を糸綴じし、丸背ハードカバー製本を製作。保存函の製作。

【授業計画】

○面接授業
1)　導入講義／本の構造を分析。本の歴史概説（製本工芸作品や現代手製本の紹介を含む）。紙の製法と分類概説。課題 1 文庫本の中身の処理
2) 角背ハードカバーの表紙をつくり、中身に合わせる。課題 2 和綴じ製本。
3) 課題 3 ①丸背ハードカバー製本の折丁を用意し、糸綴じをする。
4) ②丸背をつくり、背の処理をして中身を仕上げる。
5) ③ハードカバーの表紙をつくり中身と合わせて組み立てる。
6) 保存函の製作。タイトル入れなどの仕上げ作業。午後講評。

※ 注　各課題の工程は、準備段階を含め、平行して行われる場合もある。
※ スクーリング前に、参考書に限らず、本に関する図書に目を通しておきましょう。
　自分と本の関わり、思い出深い本についても考えてみましょう。

【成績評価の方法】

講評による。課題 1 と課題 3 の 2 冊が評価の対象となる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
学1課程在籍者は「造形基礎 Ⅰ ～Ⅳ」の単位を修得していること（3 年次編入学生を除く）。
学2課程在籍者は「造形基礎 Ⅰ」「造形基礎ⅡA」「造形基礎ⅡB」「造形基礎ⅢA」「造形基礎ⅢB」「造形基礎Ⅳ」のいずれかの単位を修得していること。

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（一開講につき 40 名程度）。

【教材等】

なし

【その他】

○参考書
ブリュノ・ブラセル『本の歴史』木村恵一訳（創元社（「知の再発見」双書）　1998 年）
岩波書店編集部編『本ができるまで』（岩波ジュニア新書　2003 年）
スティーヴン・グリーンブラット著『一四一七年　その一冊すべてを変えた』河野純治訳(柏書房　2012年)
坂川栄治『本の顔』(芸術新聞社　2013年)
ナカムラクニオ『本の世界をめぐる　冒険』(NHK出版学びのきほん　2020年)

科目名	映像メディア表現 Ⅰ						
授業コード	0750	授業科目名	映像メディア表現 Ⅰ			担当者	教授 三野 良、教授 緑屋 板、教授 篠原 規行、講師 岡川 純子
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

映像とは、写真、映画、テレビ、ビデオなどを中心とした、比較的新しい表現方法であり、その特性は記録性、再現性、現実性、訴求力の高さである。また伝達媒体、メッセージ、言語という側面も持っている。
この授業では、動的映像設計を主体とした表現について、その歴史をひもとき、特徴を理解し、映像制作の過程を丁寧に演習しながら、作品構成のプロセスを学ぶ。実地でのカメラによる撮影や編集作業などは授業課程中には含まれないが、単なる「ビデオ制作のハウツー」ではなく、「動画による表現」の核心に触れることを目的とする。

【課題の概要】

◯通信授業課題 1
テキストに含まれる参考作品を分析する。

◯通信授業課題 2
テーマに沿った映像作品を企画立案し、構成する。

【授業計画】

◯通信授業
テキストと学習指導書をよく読んでから取り組むこと。
・課題 1
テキスト付属の DVD に収録されている作品の構成を分析する。
学習指導書に添付されたフォーマットを複製し、規定の書式で分析をまとめる。
・課題 2
課題 1 の分析結果を生かして、自作の映像作品の企画構成を行う。
学習指導書に添付されたフォーマットを複製し、作品の企画を他者に伝えやすくまとめる。

【成績評価の方法】

課題 1 と課題 2 の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
履修年次は問わない。
実技演習は含まれない。

【教材等】

◯教科書
板屋緑、篠原規行監修『映像表現のプロセス』（武蔵野美術大学出版局　2010 年）

◯学習指導書
『映像メディア表現Ⅰ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	映像メディア表現 Ⅱ						
授業コード	0760	授業科目名	映像メディア表現 Ⅱ			担当者	牧野良三教授、山内道彦講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

映像メディア表現Ⅱは写真を使った映像表現を面接授業課題と通信授業課題 2 つの制作課題を通して学びます。写真は私達にとって大変身近なメディアです。デジタルカメラの普及と更に携帯電話等の様々なモバイル機器にもカメラの機能が搭載されて、写真を使ったコミュニケーションは日常化しています。写真は私達の生活で益々不可欠なメディアになっています。その一方で写真の表現自体は貧弱なものが少なくありません。このような状況にあって写真表現というものを改めて考え直しながら学ぶことは今日の美大生にとって有意義だと考えられます。本科目では写真を撮ることと見ることを通して日常で撮る写真とは違う写真を学び、写真で映像表現をする基礎的な思考を得ることを目標とします。

【課題の概要】

○面接授業課題
セルフポートレート（自画像）を撮影して、16 枚の写真で構成した作品を制作します。

○通信授業課題
以下の言葉の中から 1 つ言葉を選んで、4 枚の連続する写真で言葉を表現する作品を制作します。

日本人・21世紀・宇宙・たまご・携帯・東京・光と影・男と女・驟雨（にわかあめ）・宗教・黙示録・時空・鍵・ブラックホール・IT・亜麻色（あまいろ）・親と子・境界・原子力・0（ゼロ）・東風（こち）・夢

＊課題の詳細は学習指導書『映像メディア表現Ⅱ　2021 年度』を参照してください。

【授業計画】

面接授業→通信授業

学習の順序は面接授業課題を合格してから通信授業課題に進んでください。

○面接授業
面接授業を受講する前に学習指導書の内容をよく読み、可能ならば実際に自画像を撮ってみてカメラの操作などを事前に確認しておいてください。更に作品のアイディアを幾つか考えておくことが望まれます。また撮影で着る服やその他必要な小道具などがあれば用意してください。

第 1 日　午前　前半： 前提講義。学生の参考作品などを紹介しながら課題制作の手順と本科目の学習で必要な基本知識の手引き。
第 1 日　午前　後半：クラスに別れて習作（コラージュ）を制作。
第 1 日　午後：習作（1 枚の自画像）を制作
第 2 日　午前：本作品の制作／午後：本作品の制作
第 3 日　午前：本作品の制作（写真のレイアウトと仕上げ作業）
第 3 日　午後：作品のプレゼンテーション、ディスカッションと学生による作品の評価、講評（採点）。

○通信授業
学習指導書の内容をよく読み、また面接授業で学んだ内容を確認してから制作に取り組んでください。
1 ：言葉を選び言葉の意味を確認する。
2 ：言葉から映像をイメージする。
3 ：絵コンテの制作 1（イメージを基に絵を描くラフな絵コンテ）。
4 ：撮影 1（絵コンテを基に写真撮影をする）。
5 ：コンタクトシートの制作と写真の確認。
6 ：撮影 2（先の写真の結果から、写真の特徴を考えた撮影を心掛ける）。
7 ：作品のテーマと表現方法の決定（5、6 を繰り返してテーマと表現方法を見つける）。
8 ：写真の選択と印刷（作品に係わる写真を選んで印刷する）。
9 ：映像構成と作品の仕上げ（時間軸に沿う映像進行を考えて写真を配置する）。
10：絵コンテの制作 2（最終作品を元に改めて提出するための絵コンテを制作する）。
11：作品のテーマと意図について分かり易い文章で書く。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の評価の平均点とします。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
学習の順序は面接授業課題を合格してから通信授業課題に進んでください。

○備　　考
履修年次は問いません。

【教材等】

○教科書
なし
※面接授業時に教員から必要に応じて配付。参考作品などはスライドや他の機器を使用して解説します。

○学習指導書
『映像メディア表現Ⅱ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	レタリング						
授業コード	0770	授業科目名	レタリング			担当者	白尾隆太郎教授、木村文敏講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

情報化社会におけるコミュニケーションは、さまざまな媒体による幅広い展開がみられるが、その基本的なツールとして文字があげられる。文字によって人類の英知は記録され文明は発展してきた。この文明の発祥とともにそれを支えてきた文字は、今日の情報化社会においてもコミュニケーションの基本的ツールの意味は変わることがない。デザインの観点からみれば、マス・コミュニケーションを可能にした印刷による文字、ひいてはその組版（タイポグラフィ）として文字が常に大きな関心事であった。時代は印刷文字のもつ訴求力やイメージや可読性を要求したが、コンピュータのディスプレイに表示される文字が馴染み深い文字になりつつある今日においても、そこに求められる要件に変わりはない。したがって、文字のデザインについて深い見識を得ることはデザインに関わる上での必須の技能といえる。

この科目はそのような意味から、デザイン全般の主要な基礎学習として位置付けられる課題が設定されている。日本で使用されている文字は、いうまでもなく漢字と平仮名・片仮名であるが、ラテン・アルファベットも多用されている。ここでは、印刷やディスプレイ上の基本とされるそれぞれの代表的な書体を書くことによって文字造型の原理を学びたい。また、汎用される書体（フォント）とは異なり、個性的でイメージの差異が求められるロゴタイプなど、広く文字デザインの世界の一端に触れることを意図した課題を出題している。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
和文・欧文・ロゴタイプのレタリング
1-1. 自分の姓名を和文の基本的印刷書体である明朝体とゴシック体で書く。
1-2. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体であるローマン体とサンセリフで書く。
1-3. 自分の名前のロゴタイプを制作する。

○通信授業課題 2
和文と欧文のスペーシングの実習。

＊課題については学習指導書『レタリング　2021年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
1. 課題 1（和文・欧文・ロゴタイプのレタリング）を、示された書体サンプルなどを参考にし、まず下書きを行う。3 点とも下書きの段階で提出し、指導を受ける。（1 次提出）
2. 返却された課題 1 の下書きの指導をもとに、課題 1 の作品を完成させる。
3. 課題 2（スペーシング実習）を行う。
4. 完成した課題 1・課題 2、および指導を受けた課題 1 の下書きを提出する。（2 次提出）

【成績評価の方法】

1 次提出は課題 1 の下書きのチェックのみとし評価は行わず、2 次提出（仕上げた作品とチェックされた下書き）で総合的に評価する。
科目の評価はすべての作品の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』（武蔵野美術大学出版局　2002年）

○学習指導書
『レタリング　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

○DVD 教材
『レタリング』

【その他】

なし

科目名	タイポグラフィ						
授業コード	0780	授業科目名	タイポグラフィ			担当者	清水恒平教授、大原大次郎講師、宮添浩司講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

タイポグラフィは活版印刷から DTP まで長い歴史の中で様々な技術的な変遷をたどってきた。数々のルールがあり、習得するには長い時間と訓練が必要である。この授業では、まずタイポグラフィの入り口として「文字」の楽しさを感じてもらいたいと思っている。最初の三つの小課題ではまさに文字の楽しさを感じてもらおうと思う。また、通信授業課題 2 では、実際の作品制作を通して、文字の視覚的な効果や最低限のルールを体験的に学んでもらいたいと思う。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
3つの小課題
簡単な課題とレポートを通して、文字の世界を広げてもらう。
3つの小課題の制作とレポートをまとめて提出する。

○通信授業課題 2
楽曲と歌詞をもとにした冊子の制作
こちらが提示する課題曲について、その楽曲の歌詞をまとめた冊子を制作する。制作にあたってはいくつか条件があるので、学習指導書をよく読んで制作すること。
課題曲はネットフォーラム上で発表する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『タイポグラフィ　2021年度』に従い、課題を制作する。

【成績評価の方法】

提出された課題評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
以下のコンピュータ環境があること。
1. ワープロソフトを利用できる。できれば DTP 関連アプリケーションが使える環境が望ましい。
2. インターネットに接続できる。
3. 音楽データを再生することが可能。

【教材等】

○教科書
後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』（武蔵野美術大学出版局　2002年）

○学習指導書
『タイポグラフィ　2021年度』（武蔵野美造形学部術大学通信教育課程　2021年）

【その他】

なし

科目名	イラストレーション						
授業コード	0790	授業科目名	イラストレーション			担当者	教授金子紀二、講師竹内伸大、講師代田和弘、講師貞憲
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

制作を通じて、イラストレーションでの表現の幅と可能性を考える。目に見えない現象、内面世界やイメージの世界を視覚化する技法を学ぶ。また、自らが持つ表現技法を拡大し、独自の表現スタイルの確立を目指す。教科書を参考に、イラストレーションのルーツや、現在の可能性、世界観を学び、第三者の鑑賞に耐えうる作品の制作方法を修得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1 「写真とイラストレーション」
写真の内容をイラストレーションと文章を使って表現する。一見ばらばらに思える「写真」「文字」「絵」を一枚の紙に構成することで、3 つの表現のバランス感覚を養いながら、イラストレーションの技術を習得する。

○通信授業課題 2「いまの“わたし”に至るまで」
美術を志すきっかけとなった出来事を、イラストレーションと文章を使って表現する。自らの創造の原点を探し、それらを第三者へ伝えるための技術を習得する。

＊課題については学習指導書『イラストレーション　2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
・描かれる世界
（イラストレーションとは／未知の世界へのまなざし／見えないものを描く）
・書物とイラストレーション
（書物と挿絵の出会い／書物の中の挿絵／書物と挿絵の出会い／諷刺画がつくり出したイメージと擬人化／挿絵と印刷技術の深いかかわり／挿絵からイラストレーションへ―挿絵本と絵本）
・ことばとイメージ
（絵本におけることばとイメージ／ことばとイメージの相互作用／ことばの視覚化／イメージの視覚化／イメージのひろがり）

【成績評価の方法】

課題作品の評価の平均による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
今井良朗編著『絵本とイラストレーション―見えることば、見えないことば―』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

○学習指導書
『イラストレーション　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	絵本						
授業コード	0800	授業科目名	絵本			担当者	金子伸二教授、白尾隆太郎教授、吉川民仁教授、野崎麻理講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

面接授業では、造形的な絵本の制作を通して、文字と図像のレイアウト、造本のしくみなどを実際に体験して学習する。
通信授業では、グラフィック表現による絵本の制作実習を通して、表現として具体化するための方法論と編集デザインの視点から絵本の構造や表現の特性、イラストレーションの表現について学習する。

【課題の概要】

○面接授業課題「絵本 ―言葉からのイメージ表現」
初めに、見どころのある絵本を実物や映像などで紹介し、展開のおもしろさやイラストレーションと文字の表現、造本の工夫などを学ぶ。そこから学んだことを基に、与えられた素材とテーマに基づいてはさみとのりと色鉛筆による表現で絵本を制作する。
課題は、テーマとして「明るい・暗い」、「うれしい・かなしい」、「曲線・直線」、「高い・低い」など各自、自由に反対語を 1 つ選び、それを基にした内容を 12 ページの本の中に表現する。素材は用意された約 30 色ほどのラシャ紙（色画用紙）の中から選び、A4 変形の判型の本の形に製本をしてまとめる。

○通信授業課題「絵本の制作」
編集デザインの視点を重視したオリジナルの絵本を制作する。1. 既刊の絵本の研究、2. オリジナルのストーリーの作成、又は文章作品の選択、文章と絵の編集、3. 造本計画、4. 素材の選択、5. イラストレーションの制作、レイアウト、6. 製本作業、という手順を通して実際に自己表現を 1 冊の本にまとめる。本の編集、制作を実体験することから本におけるイラストレーションのあり方とブックデザインの成り立ちを考える。
判型は、B4 以内自由、本文 16 ページを綴じて表紙、見返しをつけ、装幀のデザインを施し、本としてまとめられたものとする。素材、内容、表現方法は自由。制作物と共に本の制作過程についての 600～ 800 字程度のレポートを添付する。

＊課題については学習指導書『絵本　2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

アイデアスケッチプラン→面接授業→通信授業

面接授業課題を合格してから通信授業課題へ進むこと。

○面接授業
事前に学習指導書をよく読み、授業にアイデアスケッチプランを持参すること。
第 1 日　午前：参考絵本についての講義・課題説明／午後：絵本制作の実習
第 2 日　全日：絵本制作の実習・製本についての講義
第 3 日　午前：絵本制作の実習／午後：講評

○通信授業
・教科書を読み、絵本に関する基礎的知識を習得する。
・教科書や学習指導書を参考にすぐれた絵本を鑑賞し、絵本への見識を高める。
・学習指導書に従って、通信授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
今井良朗編著『絵本とイラストレーション―見えることば、見えないことば―』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

○学習指導書
『絵本　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	パッケージデザイン						
授業コード	0810	授業科目名	パッケージデザイン			担当者	白尾隆太郎教授、福井政弘講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

我々に最も身近なデザインの一つであるパッケージデザインは広範な知識と技能が常に要求されるデザイン分野である。それは、パッケージデザインが形態・意匠・材料・加工といった要素を多く含み、それらが複雑に作用し成立しているからである。また、パッケージデザインはその対象のほとんどを一般消費者としており、時代によって変化するニーズが常に反映されるものである。

この科目では、パッケージデザインの実際、パッケージの基本概念、パッケージの目的と機能、パッケージの構造デザイン、パッケージのグラフィックデザインを学ぶ中で「パッケージデザインとは何か」を理解していく。さらに現代社会での包装の意味、今日的課題でもある環境問題についても考えていき、パッケージデザインの基本的知識と製作感覚の両方を理解してもらうことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題
1.自分の興味のあるパッケージを 2 つ購入して、それを観察、レポートしなさい。
・パッケージを選んだ理由をそれぞれに述べ、そのパッケージが対象としている人（購買層）、内容物との関連性、価格との関連性、材質・形態・デザインとの関連性について分析する。
・購入したパッケージはレポートに同封すること。
2. 身近にある『米』『あずき』『珈琲豆』『ジェリービーンズ』から一つを選び、包装してこぼれないようにして郵便で送りなさい。
・サイズは、10 センチメートル角の立方体。
・ 材質は限定しない。

＊課題については、学習指導書『パッケージデザイン　2021年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
通信課題を行う過程で、以下の切り口を段階的に学んでゆくことが求められる。
・パッケージデザインの実際
・パッケージの基本概念
・パッケージの目的と機能
・パッケージの構造デザイン
・パッケージのグラフィックデザイン

【成績評価の方法】

提出された課題の評価の平均。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
白尾隆太郎監修、福井政弘＋菅木綿子著『パッケージデザインを学ぶ　基礎知識から実践まで』（武蔵野美術大学出版局　2014年）

○学習指導書
『パッケージデザイン　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考文献
フミ・ササダ『CIKTMUPS パッケージデザインのすべて』（宣伝会議ビジネスブックス 2011年）
佐藤卓『デザインの解剖①＝ロッテ・キシリトールガム』（美術出版社　2001年）
岡秀行『包：日本の伝統パッケージ、その原点とデザイン』（コンセント　2019年　新装再編集版）

科目名	ファッションデザイン						
授業コード	0820	授業科目名	ファッションデザイン			担当者	牧野良三教授、天野勝教授、中澤小智子講師
開講期間	通年	単位数	2単位（T1、S1）	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

ファッションを単なる身体装飾と考えず、身体をめぐる芸術表現と捉えて研究します。
美術大学ならではの、アートやコミュニケーションまた空間演出など、隣接する領域との融合を視野に入れて、作品制作に取り組みます。
より豊かな発想力としなやかで柔軟な感性を目指し、個性に磨きをかけ、技を鍛え、表現のトレーニングを続けることで、立体的な思考と空間的な表現が出来ることを目標としています。
あなた独自の視点で課題に取り組むことで、ファッションの新たな可能性を発見すると共に、表現手段としてのファッションは、奥行きのある多様性豊かな領域であることを体感してください。

【課題の概要】

○通信授業課題（素材研究）
面接授業でのスカーフ制作に必要な素材研究とは、材料の布に限らず、色、形、質感や機能も含む制作しようとするスカーフの全てに関わる事を意味している。スケッチブックをもとにサンプラーを作成し、春期スクーリング初日（7 月 2 日）もしくは冬期スクーリング初日（11 月 26 日）に持参、提出する。
※ 提出期日厳守のこと。提出が遅れた場合、スクーリングを受講できません。

○面接授業課題（スカーフ制作）
通信授業でつくったスケッチブックをもとに、自由な発想でオブジェ感覚の表現としてのスカーフ「身につけるアート」を制作する。面接授業の前に授業時間内に完成可能なデザインのラフ案および素材をいくつか準備しておく事が望まれる。尚、材料は布に限らない。制作したスカーフを身につけて発表する。

【授業計画】

通信授業→面接授業

○通信授業
学習指導書『ファッションデザイン　2021 年度』を参照。
通信授業課題はスクーリング初日に持参すること。
※ 事前提出不可

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の制作過程及び制作結果を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
小池一子編『Fashion―多面体としてのファッション』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『ファッションデザイン　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	図法製図 Ⅰ						
授業コード	0830	授業科目名	図法製図 Ⅰ			担当者	牧野良三教授、柴田克哉講師、富谷智講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

―情報の視覚化―
我々の身の回りには、様々な「モノ」が互いに関係し合いながら機能し、我々の生活を支えている。これらの「モノ」たちは、多くの人の手や様々な過程を経て我々の手元に届くが、それら「モノ」たちの生産にあたっては、客観的で正確な情報のやり取りがあって初めて可能になる。
図法製図Ⅰでは、情報を正確に伝えるための表現手法である製図について、その図法原理に触れながら基本的な考え方と図的表現の方法を学ぶ。また、我々にとって自らが思い描いた立体、空間のイメージを絵画的な表現として表すことは、製図表現と合わせて欠くことの出来ない伝えるための技術であることから、図法的な原理である透視図法の基本的な考え方についても学ぶ。

【課題の概要】

図法原理に則った製図と透視図法の諸規則の理解と修得。

○通信授業課題 1
平面図形の描き方と立体図形の図面表記。

○通信授業課題 2
透視図法による立体図形の絵画的表現。

＊課題については学習指導書『図法製図 Ⅰ 2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書『図学・製図』及び、学習指導書『図法製図Ⅰ』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

2 通の第 1 回作図レポートの評価と第 2 回作図レポートの評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 〜 4 年次

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
堤浪夫『図学・製図』（武蔵野美術大学 2002 年）、補遺

○学習指導書
『図法製図 Ⅰ 2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2021 年）

【その他】

科目名	図法製図 II						
授業コード	0840	授業科目名	図法製図 II			担当者	牧野良三教授、桜井隆樹講師、山本博一講師、柴田克哉講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

―情報伝達とスケッチ―
我々の身の回りには、様々な「モノ」が互いに関係し合いながら機能し、我々の生活を支えている。これらの「モノ」たちは、多くの人の手や様々な過程を経て我々の手元に届くわけだが、それら「モノ」たちの生産にあたっては、客観的で正確な情報のやり取りがあって初めて可能になる。
図法製図Ⅱでは、図法製図Ⅰで修得した図法的な原理を踏まえ、製図表現と透視図法の理解を深めると共に、デザインスケッチを描くために必要な立体、空間を正確に把握し表現するための技術を深める。

【課題の概要】

製図と透視図法の諸規則について理解を深め、より広い活用方法を修得する。

○通信授業課題
〈製品の実測と製図〉
身の回りにある工業製品を実測し製図におこす。

○面接授業課題
〈スケッチ、三面図、展開図による立体表現の学習〉
ペーパーモデルの制作と立体把握の学習。

＊課題については学習指導書『図法製図 II　2021 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書『図法製図Ⅱ』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

○面接授業
第１日　前提講義　課題説明
　　模型製作
第２日　制作した模型を実測し図面表記とスケッチ表現
第３日　制作した模型を実測し図面表記とスケッチ表現
　　講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 〜 4 年次

○履修条件
「図法製図 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。または相当の学習歴を有すること。

○備　　考
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）

○学習指導書
『図法製図 II　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

○参考文献
堤浪夫『図学・製図』（武蔵野美術大学　2002 年）（「図法製図 I」の教科書）

科目名	マルチメディア基礎						
授業コード	0850	授業科目名	マルチメディア基礎			担当者	清水恒平教授、加藤咲講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T2、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）　面接授業						

【授業の概要と目標】

テレビ・PC・スマートフォン・タブレットなど、情報との接触機会は社会生活の多くの場面で非常に多様化してきています。また、Google検索、YouTube、Facebook、Line、Twitter、etc…といったWeb サービスや SNS などから、様々なマルチメディアコンテンツ（映像・写真・音・テキスト）に触れる機会が増えてきています。

本科目では、そのようなマルチメディアを取り巻く環境と特性を把握した上で、「作り手としてマルチメディアと向き合うこと」の基礎となる映像・写真・音・テキストを使ったデジタル表現の入り口に触れ、主に PCを中心とした触覚・聴覚・視覚に作用する心地よい表現のノウハウと手法の基礎を学びます。

【課題の概要】

◯通信授業課題 1
学習指導書『マルチメディア基礎　2021年度』に提示されるテーマから、10 個以上の事例を探してレポートを作成する。
主に PC ／スマートフォン向けの様々な Web サイトを閲覧し、マルチメディアの表現手法をテーマに沿って読み解くことを目的とする。

◯面接授業課題
課題発見ワークショップと、それを元にしたマルチメディア作品の制作。
3 日間のうち、初日はムービーを使用したレポートの制作・発表を行い（グループワークを想定）、残り2日間で PC 用アプリケーションを使用したマルチメディア作品の制作・発表を行う（具体的な内容はスクーリング当日に告知）。

◯通信授業課題 2
学習指導書『マルチメディア基礎　2021年度』に提示されるテーマで、シンプルなアニメーション作品を制作。規定の Web サービス上（Tumblr）にアカウントを開設し、作品をアップロードする。
本カリキュラムを通じ、マルチメディアコンテンツで行われている表現の工夫に触れ（通信授業課題 1）、マルチメディア表現の入り口となる制作を実践し（面接授業課題）、テーマに沿って制作した作品をインターネット上に公開する（通信授業課題 2）この一連の流れを体験・学習することで、製作者としてのマルチメディアコンテンツへの向き合い方の基礎を作ることを目的とする。

【授業計画】

面接授業では、通信授業課題 1 の成果を前提とした学習を行うので、予め提出しておくことが望ましい。

【成績評価の方法】

通信授業・面接授業の課題評価の平均点とする。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
履修年次は問わないが、1 ～ 2 年次までに履修するのが望ましい。
以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。
・ Macintosh または Windows で、Web ブラウジング・電子メール送信が可能な環境を有すること。
・ レポート作成の編集作業ができるソフトウェア（PowerPoint、Word、Keynote など。Google ドライブなどの Web アプリケーションでも構わない）。
・ 画像加工・動画編集が可能なソフトウェア（Adobe Photoshop、Adobe illustrator、Adobe Animate、iMovie など）。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

◯教科書
清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局　2016年）

◯学習指導書
『マルチメディア基礎　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

面接授業について：グループワークを行う可能性があります。

科目名	コンピュータ基礎 Ⅰ						
授業コード	0890	授業科目名	コンピュータ基礎 Ⅰ			担当者	清水恒平教授、小西俊也講師、須田拓也講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日常生活のみならず美術やデザインの分野においてもコンピュータの利用は不可欠であるが、各分野の専門や個々人でその利用方法は様々であるのが現状だろう。色々な用途に使用できるがゆえに、コンピュータを日常的に使用している人たちの間でも理解の範囲に差が生じることがある。この科目では特定のソフトウェアの使用方法に主眼は置かず、日常生活や各専門分野でコンピュータを利用する上で、最低限理解しておいた方が良い基礎知識・技能の習得を目指す。それは他の分野の人々と共にコンピュータを利用する場面があったとしても、同じ言葉で話せるようになることを目標とすることでもある。

コンピュータサイエンスの分野では、一般の使用者がわからないままにしがちな基礎として、ハードウェアやソフトウェアの仕組み、プログラミングの基礎知識や技能、情報通信の基本、情報理論やコンピュータの歴史などがある。またそれらの応用としてコンピュータの社会・研究などへの活用事例、例えば美術やデザインの分野での先進的利用、情報機器による計測及びその制御、モデル化とシミュレーション及びその可視化などといった事例を知っておくことも重要である。

授業では美術やデザインの分野で必要なコンピュータ関連の基礎知識の習得はもちろんのこと、上記のようなコンピュータサイエンスの分野におけるコンピュータの基礎に関する講義、実験などを適宜盛り込みつつ、それらの総合的な理解を目標とする。その理解は美術やデザインの専門分野において、基礎的な知識を応用しコンピュータを有効に利用できるようになることにつながると考えている。

【課題の概要】

◯面接授業課題
前半は、小課題が出題される。また全日を通じ各種データを作成する課題制作を行う。

【授業計画】

◯面接授業
各日、ハードウェアの性能、コンピュータで扱う数値・文字・色・画像・音、ネットワーク、プログラミングなどのテーマを設定し、講義、実習、課題制作を行う。主な実習内容は以下の通り。
・各種ハードウェア機器・部品の性能調査
・バイナリエディタを使用したテキストファイル、画像ファイルの作成
・音声ファイルの編集
・動画ファイルの作成
・ネットワーク環境の調査
・Processing を使用したプログラミング実習
その他、補足的な講義・実習も併せて行われる。

【成績評価の方法】

各課題の評価を総合的に判断する。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次〜

◯履修条件
なし

◯備　　考
履修年次は問わないが「コンピュータリテラシー Ⅰ」程度の知識は有していること。学1課程は「情報システム基礎 Ⅰ・II」学2課程は「デザイン基礎IIA・B」を受講する学生は事前に本科目を履修していることが望ましい。
授業で使用するコンピュータは Macintosh を予定しているが、授業内で基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Web ブラウザを使用した Web の閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
「基礎」イコール「簡単」というわけではない。基本操作に自信がない人は必ず事前に「コンピュータリテラシーⅠ」を履修すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

◯参考文献
ケイシー・リース、チャンドラー・マクウィリアムス、ラスト　久保田晃弘監訳　吉村マサテル訳『FORM ＋ CODE　デザイン／アート／建築における、かたちとコード』（ビー・エヌ・エヌ新社　2011年）
佐藤淳一『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局　2018年）
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン　2011年）

面接授業について：テーマによりペアワーク・グループワークを行う場合があります。

科目名	コンピュータ基礎 Ⅱ						
授業コード	0900	授業科目名	コンピュータ基礎 Ⅱ			担当者	清水恒平教授、井上智史講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

現在では、コンピュータを使用するといっても、ソフトウェアの使用方法を覚えれば、ある程度の作業はできてしまう。しかし、専門的な分野におけるコンピュータの活用方法を考えるためには、ソフトウェアが行う処理、プログラムへの理解が必要となる。その理解は、美術やデザインの分野でいえば、他人が作った道具だけによらない作品制作やデザイニングの可能性を開くことにつながるだろう。

この科目では、コンピュータ・プログラムによって平面作品を制作する。その作業を通じ、プログラミングの基本はもちろんのこと、制作の手順そのものに自覚的な態度を身につけること、コンピュータを制作に使うことのメリットや意義について考えること、を目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
プログラムでヴィジュアルを作ろう
［基本：点・線・面、色、繰り返し、ランダム］

○通信授業課題 2
プログラムでヴィジュアルを作ろう
［応用：作品の作り方を作ることを意識する］

＊課題については、学習指導書『コンピュータ基礎 II　2021年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書や教科書の該当箇所を確認しながら課題を進めることになる。教科書や学習指導書だけで課題の進行が困難な場合には、Web サイトやその他の参考文献を各自参照し、課題を進めること。

【成績評価の方法】

各課題の評価の平均とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
履修年次は問わないが、「コンピュータ基礎 I」を事前に履修するか、同程度の知識を持っていることが望ましい。
学1課程は「情報システム基礎 I・II」、学2課程は「デザイン基礎 IIA・B」を受講する学生は本科目を履修することが望ましい。
下記の条件を満たすコンピュータを所有するか、もしくは利用できること。
・インターネットに接続でき、Web ブラウザを利用できること。
・テキストエディタ、ワープロなど、文章を編集できるソフトウェアが利用できること。
また、プリンタを所有するか、利用できることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『［普及版］ジェネラティブ・アート―Processing による実践ガイド』（マット・ピアソン著　久保田晃弘監修　沖啓介訳　ビー・エヌ・エヌ新社　2014）

○学習指導書
『コンピュータ基礎 II　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考文献
『Generative Design ― Processing で切り拓く、デザインの新たな地平』（Hartmut Bohnacker、 Benedikt Gross、 Julia Laub Claudius Lazzeroni 編　THE GUILD（深津貴之、国分宏樹）監修　安藤幸史、杉本達應、澤村正樹訳　ビー・エヌ・エヌ新社　2016）
『FORM ＋ CODE　デザイン／アート／建築における、かたちとコード』（ケイシー・リース、チャンドラー・マクウィリアムス、ラスト久保田晃弘監訳　吉村マサテル訳　ビー・エヌ・エヌ新社　2011）

科目名	デジタルファブリケーション実習						
授業コード	2490	授業科目名	デジタルファブリケーション実習			担当者	清水恒平教授、成田達哉講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

近年のものづくりは、デジタル機器の発達により、大きく変化しています。3D プリンターやレーザー加工機といったデジタル加工技術が急速に発達し、これまでの手作業によるもの作りとは違う可能性が広がっています。また、Arduino のような小型のマイコンボードを使用することで、モーターやサーボといったアクチュエーター、距離センサーや圧力センサーなどを比較的簡単に扱うことができるようになりました。これらの技術を利用することで、これまでは難しかった実際に体験出来るプロトタイプを比較的短い時間で組み上げることが可能になりました。このような流れは近年ますます活発になっています。

本科目は、そのようなデジタル技術への導入となるものです。作品制作を通して、簡単な電子工作やレーザー加工機を扱うためのデータ作成方法を学ぶことで、デジタルファブリケーションの基礎的な知識を習得することを目的とします。

【課題の概要】

「めくる」「すくう」「ひねる」など人間の“動き”をひとつ取り上げ、その動きに合わせてなめらかに反応するデバイスを制作しなさい。
制作はマイコンボード(Arduino)とセンサー（タクトスイッチ、ポテンショーメータ、距離センサーなど）アクチュエータ（サーボなど）を用いて、動きの取得とデバイスのふるまいをプログラミングし、3Dプリンタなどのデジタルファブリケーション機器を用いて外装・機構の設計を行うこと。

【授業計画】

1 日目　前提講義 ／アイデア発想および中間発表
2 日目　制作
3 日目　制作 ／プレゼンテーション／講評

【成績評価の方法】

制作した作品とプレゼンテーションの内容によって評価する。

【履修条件及び履修年次】

◯履修年次
1 年次～

◯履修条件
なし

◯備　　考
履修年次は問わないが、プログラミング（Arduino)やAdobe Illustratorによるデータ作成を行うため、学1課程は「コンピュータリテラシーIII 」 学2課程は「デジタル造形基礎I 」程度の基本的なコンピュータ操作ができること。
学1課程は「情報システム基礎I 」、学2課程は「デザイン基礎IIA」、両課程ともに「コンピュータ基礎I 」「コンピュータ基礎II 」を受講済みであること、あるいはProcessingなどの初歩的なプログラミングスキルを有することが望ましい。
スクーリング時に、 受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

グループに一台ずつ Arduino 開発キットを貸与します。

【その他】

面接授業について：グループワークを行う。

科目名	デザイン基礎 ＩＡ						
授業コード	2810	授業科目名	デザイン基礎 ＩＡ			担当者	白尾隆太郎教授、石垣貴子講師、木多美紀子講師、上田和秀講師、高崎葉子講師、深澤涼子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『色と形の構成』
コミュニケーションのための有効な手段として発達してきたグラフィックデザインの総合的な基礎概念を把握し、その目的とさまざまな方法論を考察する。ここでは、グラフィックデザインの造形的な基礎となる「色」と「形」について、自らの感覚を前提としながらも、コミュニケーションを目的として的確に判断し、計画できる力を養うことを目標としている。

※この科目は実務経験を有する教員（白尾隆太郎教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、デザインの実務において必須となる色・形・構成やグラフィックデザインの基礎を指導する。

【課題の概要】

○課題 1　色・形・構成 1「オリジナル・パレット」
身近なところからさまざまな素材を色として採集。集めた物質としての色を基に、アクリルガッシュやコンピュータを使って色を再現し、その関係性と構成を考える。

○課題 2　色・形・構成 2「動物園に行こう」
架空の動物園を想定してコースター、バナー等のデザインをする。動物の形態や色彩、文字の配置などを考える。

【授業計画】

・教科書を読み前提学習をする。
・学習指導書を読み課題を理解する。
・課題 1 「オリジナル・パレット」を制作する。
・課題 1 を提出する。
・課題 2 「動物園に行こう」のバナー・コースターのデザインを制作する。
・課題 2 を提出する。
・返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
なし

○備　　考
「造形基礎ⅢA・B」「デジタル造形基礎Ⅰ・Ⅱ」を同時に履修していることが望ましい。
特に初学者でコンピュータを使用する場合は「デジタル造形基礎Ⅰ・Ⅱ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書
白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』（武蔵野美術大学出版局 2015年）
『PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L』（日本色研）

○学習指導書
『デザイン基礎ＩA・ⅡA・ⅢA・ⅣA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

なし

科目名	デザイン基礎 ＩＢ						
授業コード	2820	授業科目名	デザイン基礎 ＩＢ			担当者	白尾隆太郎教授、山口弘毅講師、上田和秀講師、福井政弘講師、深澤涼子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『ピクトグラムとコンピュータ表現』
コミュニケーションのための有効な手段として発達してきたグラフィックデザインの総合的な基礎概念を把握し、その目的とさまざまな方法論を考察する。ここでは、形で意味を伝える「ピクトグラム」という、ヴィジュアル・コミュニケーションの原点となる課題に取り組む。自らの感覚を前提としながら、広く意味を伝える意識と技術の獲得を目標とする。

※この科目は実務経験を有する教員（白尾隆太郎教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、デザインの実務において必須となる色・形・構成やグラフィックデザインの基礎を指導する。

【課題の概要】

○課題 1　「ピクトグラム」
人の基本動作である「歩く・走る・跳ぶ」を表すピクトグラムを制作する。

○課題 2　「蝶課題」
カテゴリーに基づいて考えた蝶をコンピュータやその他の表現を使いながら図像にする。

【授業計画】

○「ピクトグラム」（前半）
・前提講義、グループディスカッションののちパフォーマンスしながら動作の確認をする。その後スケッチをしながら、アイディアを固める。クイックピクト（アプリケーション）を使って、ピクトグラムを仕上げる。
・講評会

○「蝶課題」（後半）
オンラインプラス［準備］で前提講義を自宅で視聴する。
・グループディスカッションののち面談しながらアイディアを固める。アイディアにそって素材を集め、コンピュータなどを使って課題を完成させる。
・講評会
※オンラインプラス［準備］―事前説明動画配信
Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
「造形基礎ⅢA・B」「デジタル造形基礎Ⅰ・Ⅱ」を同時に履修していることが望ましい。
授業ではコンピュータ（Macintosh）、グラフィック系ソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）を使用するため、初学者は「デジタル造形基礎Ⅰ・Ⅱ」を先に受講すること。
受講人数を制限する場合がある。抽選の際はデザイン総合コース所属の学生を優先する。
オンラインプラスを受講する場合、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

なし

【その他】

参考文献：白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』（武蔵野美術大学出版局 2015年）
※「デザイン基礎ⅠA」教科書

面接授業について：グループディスカッション・発表を行う場合がある。

科目名	デザイン基礎 ⅡA						
授業コード	2830	授業科目名	デザイン基礎 ⅡA			担当者	清水恒平教授、小川修一郎講師、坂本優子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出）						

【授業の概要と目標】

「デザイン・アートのためのプログラミング入門 1」
現在、あらゆる事象の情報化が進み、世界には大量のデータが生成、蓄積されている。デザインの分野でもwebサイトやwebサービスの構築、マイコン基盤を使用したプロトタイピングや、データビジュアライゼーションなど、直接的にプログラミングのスキルが求められるものも少なくない。この科目ではその基礎となるプログラミングの習得を目指すと同時に、デザインに必要な論理的な思考を鍛えることを目標とする。
なお、言語はビジュアルデザインやアートに向いたプログラミング言語として知られている Processingを使用する。
教科書の「動き」の章まで程度の内容の学習を想定しているが、もちろん、それ以上の作品を制作しても構わない。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、プログラムの作成を通してデザインとシステムの基礎的な理解を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

［課題 1 ］静止画像作品の制作
［課題 2 ］動きを伴う作品の制作
それぞれ、数点のプログラムファイルの他にレポートを作成する。

【授業計画】

まずは学習指導書を一読し、課題の全体像をつかむ。（［課題 1 ］、［課題 2 ］に分けて、最初は［課題 1 ］だけを読んでも構わない）
それぞれの課題は教科書の内容に沿っているため、教科書を読み、実際に手を動かしながら、作品を制作していく。
プログラミングは初学者にとっては、敷居の高いものである。そのため、補助的な動画教材やフォーラムなどを用意するので、そちらも活用しながら課題を進めていく。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
インターネットに接続したパソコンを保有すること。

○備　　考
受講者はプログラミング未経験者でも構わないが、「コンピュータ基礎 I」修得程度のスキルを持っていることが望ましい。
Webキャンパスを通じてオンライン提出してもらう。

【教材等】

○教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processingをはじめよう』 （オライリージャパン　2011年）

○学習指導書
『デザイン基礎ⅠA・ⅡA・ⅢA・ⅣA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考文献
『Generative Design―Processingで切り拓く、デザインの新たな地平』Harmut Bohnacker、Benedikt Groß、Julia Laub、Claudius Lazzeroni編、THE GUILD（深津貴之、国分宏樹）監修、安藤幸央、杉本達應、澤村正樹訳（ビー・エヌ・エヌ新社　2016年）
『Processing: ビジュアルデザイナーとアーティストのための Processing 入門』Casy Reas, Ben Fry 著、中西泰人監修（ビー・エヌ・エヌ新社　2015年）

科目名	デザイン基礎 ⅡB						
授業コード	2840	授業科目名	デザイン基礎 ⅡB			担当者	清水恒平教授、小川修一郎講師、坂本優子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「デザイン・アートのためのプログラミング入門 2」
この科目では、プログラミングの基本的なスキルを理解したことを前提に、マウスやキーボードによって、反応するオブジェクトを制作する。
単純に動かすだけでなく、鑑賞者やユーザーの視点から、どのように反応することが適切なのかを考慮して、作品に触れた人に新鮮な驚きを与えるインタラクションを考える。いわば、UX、UIの基本的な要素の一つを考える科目と捉えてもよいだろう。
プログラミングの理解を深めることも目的の一つだが、難しいコードを書くことを求める科目ではない。自分自身が作品の最初の鑑賞者（体験者）として、客観的に作品と向き合う姿勢で臨んでほしい。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、プログラムの作成を通してデザインとシステムの基礎的な理解を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

［課題 1 ］対話型作品の制作（グループワーク）
グループに分かれて、パートごとに担当を決め、コンソールを使った対話型作品を制作する。
［課題 2 ］反応するオブジェクト（個人ワーク）
オブジェクトの仕組みを理解して、インタラクティブなビジュアル作品を制作する。途中にミニレクチャーを挟みながら、発展的に作品制作を行う。
※その他、受講生の習熟度に合わせて適宜小課題を行う場合がある。
※オンラインプラス［中間］―BBS 上での中間アドバイス
Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

【授業計画】

（前半）
・適正テスト
・グループを分けて、［課題 1 ］の制作
・［課題 1 ］の講評
・［課題 2 ］の説明／ミニレクチャー
・［課題 2 ］の制作

（オンラインプラス中間）
・［課題 2 ］の企画提出と進捗報告

（後半）
・［課題 2 ］の制作
・［課題 2 ］の講評

上記の流れを前提に受講者のレベルを鑑みて適宜内容を調整する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次〜

○履修条件
なし

○備　　考
プログラミングの経験者、具体的には「デザイン基礎ⅡA」で扱う内容程度の理解のある者を対象としているため、初学者は先に「デザイン基礎ⅡA」を受講しなければ、この科目では充分な学習効果は得られない。
言語はビジュアルデザインやアートに向いたプログラミング言語として知られているProcessingを使用するが、それ以外の言語の経験者でも、「変数」「繰り返し」「条件分岐」などの理解があれば問題ない。
スクーリングではmacを使用するが、自分のPCを持参できる場合は持参することを推奨する。その場合、OSはmac/windowsどちらでも構わない。
受講人数を制限する場合がある。抽選の際はデザイン総合コース所属の学生を優先する。
オンラインプラスを受講する場合、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processingをはじめよう』 （オライリージャパン　2011年）
※「デザイン基礎ⅡA」教科書

面接授業について：グループディスカッション、グループワークを行う。

科目名	デザイン基礎ⅢA						
授業コード	2850	授業科目名	デザイン基礎 ⅢA			担当者	牧野良三教授、山本博一講師、森史子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信科目						

【授業の概要と目標】

生活環境の考察ーヒト、モノ、コトの関係から学ぶー
我々の身の回りには様々な「モノ」が存在し、互いが密接に関係し合いながら我々の生活を支えている。言い換えれば、我々の身の回りには、暮らしをより便利に、快適に過ごすために様々な機能を持った生活機器や建築物が用意され、我々の多様な暮らしを可能にしている。デザイン基礎ⅢAでは、実際の機器デザインを行うにあたって、求められる様々な要件とはどのようなことなのか、生活者の視点から「ヒト、モノ、コト」の関係を調査し、問題の抽出から始まる思考のプロセスについて、課題の制作を通して体験的に学び、デザイン行為の基本的な方法を学ぶ。

【課題の概要】

身の回りにある生活機器を選出し、自分自身と生活機器との関係を明らかにする中で、生活機器の新たな機能の提案へ至るまでの思考のプロセスをプレゼンシートにまとめる。

○通信授業課題1
自分自身と生活機器との関係調査・考察

○通信授業課題2
生活機器のデータ収集と考察・図面表記とドローイングの制作

【授業計画】

学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

1年次～

【教材等】

○教科書
横溝健志、田中克明他『プロダクトデザイン』（武蔵野美術大学出版局　2002　年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002　年）
田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局　2006　年）

○学習指導書
『デザイン基礎ⅠA・ⅡA・ⅢA・ⅣA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	デザイン基礎ⅢB						
授業コード	2860	授業科目名	デザイン基礎 ⅢB			担当者	教授 柴田 博三、講師 山本 良一、講師 野口 克史、講師 森 敬子
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

生活環境の考察－立体・空間の表現－
我々の身の回りには様々な「モノ」が存在し、互いが密接に関係し合いながら我々の生活を支えている。言い換えれば、我々の身の回りには、暮らしをより便利に、快適に過ごすために様々な機能を持った生活機器や建築物が用意され、我々の多様な暮らしを可能にしている。デザイン基礎ⅢBでは、自身のアイディアを定着させ、提案に至る造形的なコミュニケーションの手段である「描く」「示す」といったスケッチや図面表記の技術を高め、提案者としての基礎力を養うことを目的とする。

【課題の概要】

立体・空間デザインを行うための表現技術の重要性を課題制作を通して認識し、同時に、普段使用している身の回りの生活機器を用いて技術修得のためのトレーニングを行う。

【授業計画】

［面接授業4日間］
前半
第１日　前提講義　課題説明
　　幾何形体とその組み合わせを図面化し、透視図法によるスケッチトレーニング
第２日　幾何形体とその組み合わせを図面化し、透視図法によるスケッチトレーニング

後半
第３日　用意した機器を実測し図面情報に変換し、スケッチ表現する
第４日　用意した機器を実測し図面情報に変換し、スケッチ表現する
　　講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

1年次～

【教材等】

なし

【その他】

受講人数を制限する場合がある。抽選の際はデザイン総合コース所属の学生を優先する。

科目名	デザイン基礎ⅣA						
授業コード	2870	授業科目名	デザイン基礎 ⅣA			担当者	牧野良三教授、富谷智講師、大野洋平講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	通信科目						

【授業の概要と目標】

観察と想像ーイメージの視覚化ー
我々を取り巻く環境は、様々な生活機器や建築物がそれぞれの役割を担いながら互いに影響し合い、我々の暮らしを支えている。ここで、視点や次元を変えて対象を観察すると、そこには新しい表情や意味を見出だすことが出来る。また、光と影、素材と形体という複合的な効果から生まれる空間の表情からは、様々な物語やイメージを想起することが出来る。

デザイン基礎ⅣAでは、様々に変化する環境と向き合い、その表情を読み取り、豊かなイメージの創出に努めて欲しい。このイメージを起点に造形的な表象の意味を分析して、テーマに即した独自の造形表現の手掛かりを見つけ出すことを目標としている。

※この科目は実務経験を有する教員（牧野良三教授）による授業科目である。舞台美術、商業施設等の設計を中心に活動している担当教員が、環境・空間からイメージを創出するプロセスを実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

身近な環境の意味やイメージを造形的、空間的なものとして捉え、造形的表情と構成要素の関係を明確にして考察する。また、文学作品（詩）のイメージを造形として表現する。

○通信授業課題1　物語性の発見
Step１　日常の風景を画像として切り取り、画像から想起されるイメージや思いを200字程度にまとめ、コメントとして表す。

Step２　コメントに記されたイメージを定着させるために、エスキーススケッチを繰り返し行い、造形表現のための準備をする。

Step３　イメージ構成として完成させる。

○通信授業課題2　テーマの視覚化
Step１　文学作品（詩）を選択し、そこに表現されている主題（テーマ）を読み取り、その後独自の解釈を加え、200字程度のコメントとして表す。

Step２　コメントに記された主題（テーマ）を視覚化（造形化）するために、思考のプロセス（マインドマップ）を作成し、その成果をイメージコラージュとして制作する。

【授業計画】

教科書『スペースデザイン論』及び、学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

1年次～

【教材等】

○教科書
小石新八監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局　2003　年）
寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局　2002　年）

○学習指導書
『デザイン基礎ⅠA・ⅡA・ⅢA・ⅣA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	デザイン基礎ⅣB						
授業コード	2880	授業科目名	デザイン基礎 ⅣB			担当者	牧野良三教授、富谷智講師、大野洋平講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

観察と想像－空間表現と構成－
我々を取り巻く環境は、様々な生活機器や建築物がそれぞれの役割を担いながら互いに影響し合い、我々の暮らしを支えている。ここで、視点や次元を変えて対象を観察すると、その組み合わせなどから様々な言葉や意味を感じ取ることが出来る。これは、造形言語と呼ばれる本来的に我々に備わっている共通の意識や感覚から生まれる、イメージを介したコミュニケーションと言っていい。

デザイン基礎ⅣBでは、我々の思いを誘発する共振力、触発力といった造形の持つ力を認識し、空間と造形の意味について考察する。また、空間構成を行う上で必要となるキーワード（イメージ、プロセス、構成）を手掛かりに、造形表現のための方法を探り、自身の造形表現の方法を見つけ出す契機となることを目指している。

※この科目は実務経験を有する教員（牧野良三教授）による授業科目である。舞台美術、商業施設等の設計を中心に活動している担当教員が、空間構成の基礎を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

指定された楽曲のイメージの造形化、空間化を目標とするが、合わせて制作の課程をコンセプトボードとして制作する。

【授業計画】

○面接授業
前半　第１日　前提講義　課題説明
　　エスキーススケッチ制作
　　第２日　エスキーススケッチ制作　コンセプト制作
　　中間発表　コンセプト制作

後半　第３日　模型製作　コンセプトボード製作
　　第４日　模型製作　コンセプトボード制作
　　発表　講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

1年次～

【教材等】

なし

【その他】

受講人数を制限する場合がある。抽選の際はデザイン総合コース所属の学生を優先する。

学科別専門科目

科目名	絵画表現基礎　ＩＡ						
授業コード	2890	授業科目名	絵画表現基礎　ＩＡ			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌山、こ範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師つ明吉授幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講え浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身の周りの生活空間に注目し選び出した植物や器物などを対象に「静物画」を制作する。作者の興味を基にした取材を通して、静物の構造や環境性の把握、明暗と色彩の関係、構成や構図と言った画面の内外への造形的視点を養うと共に、油彩絵具やアクリル絵具を用いた制作を実践し、各描画材が持っている特性や色彩の扱いを体得しながら独自の絵画表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題　「静物を描く」
1-1　植物や器物などの静物を対象に様々な視点から取材をする。
1-2　1-3につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。
1-3　植物や器物などの静物を対象に油彩またはアクリルで制作する。15号のキャンバス1点。また、作品制作に関する記述文を200～400字以内にまとめる。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現基礎 IA・Ⅱ　2021 年度』の「絵画表現基礎 IA」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画表現基礎 IA・Ⅱ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎　ＩＢ						
授業コード	2900	授業科目名	絵画表現基礎　ＩＢ			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌山、こ範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師つ明吉授、講幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講え浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日頃目にしている物が、モチーフとして目の前に置かれることで日常的な用途の意味から切離され、光の反射によって造形物としての純粋な形、色、質感、性質が浮び上がります。
この授業ではモチーフを通してそれらを捉えることから始まり、対象物と向き合いながら、そこにおける自らの関心や視点を探ります。

【課題の概要】

○面接授業課題「静物を描く」
1-1　組まれたモチーフをデッサンまたはドローイングする。描画材自由
1-2　組まれたモチーフを油彩またはアクリルで制作する。１５号キャンバス

【授業計画】

○面接授業
第1日　午前：前提講義及び制作　午後：制作
第2日　午前：制作　午後：制作
第3日　午前：制作　午後：制作及び採点・講評
第4日　午前：前提講義及び制作　午後：制作
第5日　午前：制作　午後：制作
第6日　午前：制作　午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画表現 ⅢA						
授業コード	2910	授業科目名	絵画表現 ⅢA			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌松、　え 範川　講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師講辺師 明吉授、講幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講畠渡講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講繁本、こ 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子村山師つ
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに人物や自然を対象とした制作を行う。人間や自然は、最も普遍的なテーマであり、絵画の歴史とともに描かれてきた。身近な人物や自然をじっくりと観察し、そこで得られた発見を通して、それぞれの表現に結び付けていく。

【課題の概要】

○通信授業課題「観察と表現」
1-1　「気になる人」をクロッキーまたはドローイングをする。
1-2　「1-1」を基に、エスキースを制作する。
1-3　「1-2」で制作したエスキースを基に、油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA　2021年度』の「絵画表現ⅢA」を参照。
教科書『絵画の材料』および 教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）

○学習指導書
『絵画表現ⅢA・ⅣA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 Ⅲ B						
授業コード	2920	授業科目名	絵画表現 Ⅲ B			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌松、　え 範川　阿　講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師講辺師 明吉授、講幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講晶渡講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講繁本、こ 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子村山師つ
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに、人物と植物を組み合わせた制作を行い、表現の多様性を知る。じっくりと観察することでそれぞれの関心の対象が異なることを知り、それに伴う表現を探求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「観察と表現」
1-1　人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、クロッキーまたはドローイングをする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙程度の大きさのエスキースを制作する。描画材は自由。 クロッキー、ドローイングを複数枚とエスキースを最低1枚提出。
1-2　エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。支持体は 30 号キャンバス。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
第 2 日　　午前：制作／午後：制作
第 3 日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評
第 4 日　　午前：前提講義及び制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
第 5 日　　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画表現 ⅣA						
授業コード	2930	授業科目名	絵画表現 ⅣA			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌松、　え 範川　講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師講辺師 明吉授、講幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講晶渡講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講繁本、こ 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子村山師、つ
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。今日の絵画においては、さまざまな空間表現が試みられている。この科目では植物と室内風景をモチーフに、それぞれの求める空間がどのようなものなのか、描く事で確認することが目標である。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○通信授業課題「空間と構成」
1-1　植物と室内をクロッキーまたはドローイングをする。
1-2　1-1を基に、植物と室内を組み合わせたエスキースを制作する。
1-3　エスキースを基に、植物と室内を組み合わせた油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA　2021年度』の「絵画表現ⅣA」を参照。
教科書『絵画の材料』および 教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）

○学習指導書
『絵画表現ⅢA・ⅣA 2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 ⅣB						
授業コード	2940	授業科目名	絵画表現 ⅣB			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌松、　え 範川　講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師講辺師 明吉授、講幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講晶渡講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講繁本、こ 三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子村山師つ
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。人体をモチーフに、さまざまな取材を行い、それを基に構成して描くことで、それぞれの求める空間がどのようなものなのかを確認する。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題「空間と構成」
1-1　人物（ヌード）の固定ポーズ、短時間ポーズ、ムービングなどを通して、さまざまな取材をする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙程度の大きさに構成したエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー等を複数枚とエスキースを最低1枚提出。
1-2　エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。30～40号程度キャンバス。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
第 2 日　　午前：制作／午後：制作
第 3 日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評
第 4 日　　午前：前提講義及び制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
第 5 日　　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画表現基礎 Ⅱ						
授業コード	3030	授業科目名	絵画表現基礎 Ⅱ			担当者	教民阿 仁井、講繁木講隆小 龍清講昌山、こ範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師つ明吉授幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講え浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

この課題では「人を描く」ことがテーマとなる。対象として「人」を観察すると色、光、形など、目の前の「人」からは色々な要素が見えてくる。「人」はとてもオーソドックスな対象であるが、決して色褪せることのない多様な要素を持つ絵画の代表的な題材の一つである。
　各人が自分の視点を通して制作に取り組み、それぞれの表現につながる発見を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題　「人を描く」
1-1　自画像、または身近な人を様々な視点から取材する。
1-2　1-3の制作につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。
1-3　自分又は身近な人を対象とし、油彩またはアクリルで制作する。15号～20号のキャンバス１点。作品制作に関する記述文を200字～400字にまとめる。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現基礎 IA・Ⅱ　2021 年度』の「絵画表現基礎Ⅱ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎Ⅱ～Ⅳ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画表現基礎 IA・Ⅱ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 Ⅲ						
授業コード	3040	授業科目名	絵画表現基礎 Ⅲ			担当者	教民阿　仁井、講繁木講隆小　龍清講昌山、こ範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎山、師つ明吉授幸伊、講泰木師由小師己坂師太畠師講え浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講晶辺師三授、仁部師講庸大師之村師三森師幸水師子本渡講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

美術史の中において人物を中心テーマとして描かれている作品は数多くある。
何故、人を描くのか？それは一番身近なモチーフであり人間が人間に興味と関心を持つ存在だからである。長い美術史において様々な画家が独自のスタイル（個性、世界観、感性）をどの様に築き表現してきたかを注視し、自分らしい表現とは何かを考え、それぞれの個性を重視する。そして前後半通し（６日間）十分な時間を使い、自由に絵を描く楽しさと難しさを体験する。

【課題の概要】

○面接授業課題「人物を描く」
1-1　人物(ヌード)1名を配置し、制作する。20号キャンバス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。
1-2　人物(着衣)1名を配置し、制作する。20号キャンバス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。

【授業計画】

○面接授業
第1日　オリエンテーション・前提講義→クロッキー・エスキース→油彩制作（アクリル可）
　　午前：裸婦　午後：着衣
第2日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第3日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第4日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第5日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第6日　制作　午前：裸婦　午後：着衣→講評
※ 上記の日程は、開講時期により異なる場合があるために、スクーリング持参物冊子を参照すること。

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。
「絵画表現基礎IB」を同時に履修する場合は「絵画表現基礎IB」を先に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	絵画表現基礎 Ⅳ						
授業コード	3050	授業科目名	絵画表現基礎 Ⅳ			担当者	教民遠 利元 庸木 真、講 範川 教浜 教井 講村師己 明古授 太高授 治今師 之木講琢 浦 教竜 教久 講繁 美森 三授 仁藤授 也田授 介村師 由小師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。
授業ではこの４つの形式のうちの２つを選択し、版表現と関わりの深い本を題材にして、版を使ってオリジナルの手帳カバーと蔵書票を制作する。その中で表現の可能性を探り、それぞれの版種の基本技法を体験する。

※蔵書票：所蔵者を示すために蔵書の表紙・見返しなどに貼りつける、印刷された小票。書票。エクスリブリス。

【課題の概要】

○面接授業課題
前半で「リトグラフ」または「スクリーンプリント」、後半で「木版」または「銅版」のそれぞれ1版種を選択する（面接授業申込時に選択）。
1-1　ムサビ手帳のカバーを制作する。「リトグラフ」「スクリーンプリント」イメージサイズ21.5×16cm程度
1-2　自身の気に入っている本の蔵書票を制作する。「木版」「銅版」イメージサイズ10cm×10cm程度

【授業計画】

○面接授業
・前半　ムサビ手帳のカバー　「リトグラフ」または「スクリーンプリント」
第1日　午前：制作　　午後：制作
第2日　午前：制作　　午後：制作
第3日　午前：制作　　午後：制作及び相互鑑賞会
・後半　本の蔵書票　「木版」または「銅版」
第4日　午前：制作　　午後：制作
第5日　午前：制作　　午後：制作
第6日　午前：制作　　午後：制作及び相互鑑賞会

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎Ⅱ～Ⅳ）より1科目以上単位修得が必要。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。
受講の際は下図を必ず持参すること。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎　I						
授業コード	3100	授業科目名	日本画基礎　I			担当者	教授　佐藤　治雄 講師　星　啓政 講師　室神　彌 講師　世田　和晃 講師　佐井　一
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1〜4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で用具を揃える、扱うといった初歩的なことから作品の制作をする準備から完成までの工程体験を中心に学ぶ。また日本画特有の骨描きやたらし込み、掘り塗り等の表現法や制作に必要な用法習得を目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画を描く」
日本画の用具用材の紹介をもとに与えられたモチーフを使い、F15号以上の画面への紙本彩色を通して用具の扱い方および制作工程の基礎となる準備から完成までの工程を体験する。

【授業計画】

○面接授業
第1日　　午前：用具解説／午後：制作のためのデッサン
第2日　　午前：デッサン／午後：大下図制作
第3日　　午前：骨描き／午後：下地作り
第4〜5日　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次〜

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
日本画表現コースの学生は初年次に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 Ⅱ						
授業コード	3110	授業科目名	日本画基礎 Ⅱ			担当者	教佐星室雄 治啓政神師、 彌師師、 講世講 田和師 師、 講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で必要な写生と言われるデッサンの導入として、モチーフの観察や捉え方、その描写する方法などの本画制作に必要な記録法について学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題1「日本画のデッサン」
モチーフを良く見て観察し、画用紙に日本画を描くために必要な資料としての鉛筆デッサンをする。
・部分的、クロッキー的、記録的な要素を踏まえたデッサンをする。
・細密描写をする。
・明暗、立体感をともなった細密描写をする。

○通信授業課題2「筆を使う」
筆の特性や使い方を知ることを目的に日本画筆を用いてデッサンをする。
・筆を用いて墨で描く。
・筆を用いて彩色する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎Ⅱ・日本画研究I　2021 年度』の「日本画基礎Ⅱ」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎Ⅱ・日本画研究I　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	日本画基礎 ⅢA						
授業コード	3120	授業科目名	日本画基礎 ⅢA			担当者	教授 佐治 啓政、講師 星 神彌、講師 室 晃子、講師 田 佳世、講師 雄井 和一
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

線を描くことは日本画では重要な位置を占める。その線は様々な描き方や表情を生むことができるが、描く、引く筆を使いこなす力を養うことも大切である。本授業では線の美しさや勢いのある線の練習をおこない、筆を扱う力を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「墨で描く」
筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドウサ引き）などを使い分けたくさんの線描をおこなう。又、筆を使った線描法でデッサンをする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2021 年度』の「日本画基礎ⅢA」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	日本画基礎 ⅢＢ						
授業コード	3130	授業科目名	日本画基礎 ⅢＢ			担当者	教佐星室 治彌雄 啓神師、 政子講師、講 重晃井師、和師 授講佳世田 一講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

古典模写をおこなうことで作品の鑑賞も含め、描写の工程、描写法などを見て、日本画の絵具がどのように扱われ使用されて来たか、また様々な技法や様式を検証することを目的とする。そのために現状模写として描き再現することで、基本としての日本画素材を扱う方法や技法の追求もあわせておこなう。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典模写」
古典の模本をもとに線描による模写と彩色による模写をする。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作
第 2 日　　午前：制作／午後：制作
第 3 日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評
第 4 日　　午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作
第 5 日　　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎I～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 ⅣA						
授業コード	3140	授業科目名	日本画基礎 ⅣA			担当者	教佐星室田雄 治彌師、 啓神師師、 政世講講 重和師師 授、 子講 晃講 井佳 師、 一講
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身近な人を題材に形態として、人の骨格、動き、自然造形の美しさを探り、人から受ける内面性を把握しながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題　人物を描く
身近な人、または自己をモデルにクロッキーおよびデッサンをする。また、それをもとに日本画制作をする。
・ 人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
・ 身近な人や自己をモデルに身体のデッサンをする。
・ クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2021 年度』の「日本画基礎ⅣA」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとに授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	日本画基礎 ⅣB						
授業コード	3150	授業科目名	日本画基礎 ⅣB			担当者	教佐星室 治彌雄 啓神師、 政子講 重授、 晃井師、講師 佳世和師 一講田
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、人から受ける内面性を探りながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「身体を描く」
・ 身体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義およびデッサン／午後：デッサン
第 2 日　　午前：デッサン／午後：デッサン
第 3 日　　午前：準備・下図・制作／午後：制作
第 4 日　　午前：制作／午後：制作
第 5 日　　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎I～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画基礎 Ⅴ						
授業コード	3160	授業科目名	日本画基礎 Ⅴ			担当者	教授 佐治 啓政、講師 星 彌生子、講師 室井 晃、講師 世田 佳和一 雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶために、指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること、彩色することをおこないながら水や支持体がもたらす表現の可能性を様々な手法を用い体感し、構築すること、表現をすることを研究することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題
1-1　制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。
2-1　静物をモチーフにスタンピングでデッサンする。
2-2　組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材をともに 3 種類選択し、デッサンする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2021 年度』の「日本画基礎Ⅴ」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	日本画研究　Ⅰ						
授業コード	3250	授業科目名	日本画研究　Ⅰ			担当者	教佐治 授星啓 、室神彌 講師、 師世田雄 講和師 一
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに通信授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○通信授業課題1　制作工程1
・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
・興味深い場所や、特徴のある視点で選んだ対象をデッサンする。
・風景をモチーフに、色を用いてデッサンする。

○通信授業課題1　制作工程2
・描いたデッサンをもとに小下図、大下図制作、本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ　2021 年度』の「日本画研究Ⅰ」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究Ⅰ～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	日本画研究 Ⅱ						
授業コード	3260	授業科目名	日本画研究 Ⅱ			担当者	教授 佐治 星雄、政子講師 啓彌、講師 神田 世和、晃井講師 佳一講師 室
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）						

【授業の概要と目標】

日本画の制作工程、日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに面接授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題　「日本画の制作工程」
風景をモチーフに写生、小下図、大下図の工程研究を踏まえ日本画絵具を使って、F15号の紙本着彩をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日　　午前：前提講義および制作解説／午後：制作のための風景デッサン
第2日　　午前：デッサン／午後：デッサン
第3日　　午前：下図、下地作り／午後：制作
第4～5日　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作、講評
※ 学外見学あり。第 1 日、第 2 日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	日本画研究 Ⅲ						
授業コード	3270	授業科目名	日本画研究 Ⅲ			担当者	教授 佐治 啓政、講師 星 神彌、講師 室 晃子、講師 井 佳世、講師 田 和一 雄
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために墨を使って制作する。付立てや風景等を題材に描いたものをもとに墨で大作を通して、独自の視点で捉えることと水がもたらす表現の幅がどのような可能性が示すかを追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題　「墨を使っての制作工程」
墨を使って様々なデッサン、それを使って本画へのプロセスとしての小下図、大下図の追求を通して、墨で大作を描く。

【授業計画】

○面接授業
第1日　午前：前提講義および手本学習　午後：手本からの学習
第2日　午前：制作プロセス、デッサン　午後：デッサン
第3日　午前：デッサン　午後：デッサン、中間講評
第4～5日　午前：墨による制作　午後：墨による制作
第6日　午前：墨による制作　午後：講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究学　Ⅰ						
授業コード	3280	授業科目名	芸術研究学　Ⅰ			担当者	田村裕教授、金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

［概要］芸術研究の前提となる「芸術」及び「作品」の概念とその成り立ちを理解し、造形を文化的・社会的な事象として研究するための視点を身につける。
［目標］自身の鑑賞体験を、作品・鑑賞者・美術館の3要素を用いて説明できること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
［レポート］美術館の空間や展覧会の構成と美術作品の鑑賞体験との関係について考察する課題。

○通信授業課題 2
［レポート］美術館と博物館における作品・資料展示の特質について考察する課題。

【授業計画】

教科書のⅠ及びⅢにより学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。
（主な内容）
・Ⅰ　ミュージアムというトポス（ミュージアムでなぜしゃべってはいけないの？／仏像を拝まなくていいの？／ミュージアム-作品の生まれるところ／博物館と美術館-文化を語る二枚舌の構造／ミュージアムと博覧会・展覧会-だれのため？　だれが見たのか？／ミュージアムという居場所）
・Ⅲ　ミュージアムに行こう（世の中とつながりたいミュージアムの考えていること／ミュージアムの展示と解説-聞く、読む、そして観る／デザイン・ミュージアムはどうやって鑑賞するの？／みんなで一緒に鑑賞するには-ミュージアムでの鑑賞と鑑賞支援／大学とミュージアム-学ぶ、見せる、研究する）

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備　　考
芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。

【教材等】

○教科書
木下直之編『未来を拓く人文・社会科学シリーズ 16 芸術の生まれる場』（東信堂　2009 年）

○学習指導書
学習指導書『芸術研究学　Ⅰ　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	芸術研究リサーチ						
授業コード	3290	授業科目名	芸術研究リサーチ			担当者	田村裕教授、金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位(M2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

造形芸術の研究やライティングに必要な文献・Web情報の探索と活用の方法、現地調査や人物取材の手法などを学ぶ。情報収集能力の向上と、集めた情報を編集・加工して論文などの自己表現に活かせるようなスキルの獲得を目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1「文献目録の作成」
芸術文化に関するテーマを設定し、それに関する文献資料を様々な情報源を活用して収集し、書誌データを整理して文献目録を作成する。また、テーマ設定から目録完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

○メディア授業課題2「年表（または年譜）の作成」
芸術文化に関するテーマを一つ設定し、それに関する主要事項を盛り込んだ年表（または年譜）を作成する。また、テーマ設定から表の完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

【授業計画】

○講義動画の構成
1章　芸術研究リサーチとは何か
2章　図書館を知る
3章　図書館での資料探索
4章　インターネットによる資料探索－1
5章　インターネットによる資料探索－2
6章　現地調査とインタビュー取材の方法
7章　情報活用のための整理と編集加工
・講義動画の終了時に「学習チェック」を受け、全問正解したあとにメディア授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備　　考
芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。同コース 2 年次編入生は 2 年次に、 3 年次編入生は 3 年次に履修すること。
推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究特殊講義 Ⅰ						
授業コード	3300	授業科目名	芸術研究特殊講義 Ⅰ			担当者	田村裕教授、金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

［概要］造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
［目標］造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題
課題 パブリックアート：地元地域等の駅前、公園、街路、公共施設等に設置されている、絵画・彫刻等の作品の作者・作品名・作品形態・制作年・状態・経緯等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
  1.パブリックアートとは何か。
  2.パブリックアートの現在
  3.パブリックアートの調査と報告
  4.パブリックアートを考える
・調査成果のWEBキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
・Microsoft Word Ver.12（Word 2007）文書またはMicrosoft Excel Ver.12（Excel 2007）ブックを閲覧・編集・保存できること。
・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。

○備　　考
推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究学 Ⅱ						
授業コード	3310	授業科目名	芸術研究学 Ⅱ			担当者	田村裕教授、金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

［概要］美術史学における作品研究の方法を参考として、造形作品が様々な要素によって構成された複雑な構造体であることを理解し、作品を資料としてその多様な意味を読み解くための基礎的な能力を養う。
［目標］造形作品の特徴を、物理的な側面と精神的な側面とに分けて説明できること。

【課題の概要】

課題1 ［レポート］鑑賞した美術作品のスケッチとディスクリプションを行う課題。
課題2 ［レポート］鑑賞した美術作品から作者の感覚や判断を推察する課題。

【授業計画】

教科書により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。
（主な内容）
・西洋美術史入門（美術史へようこそ／絵を〝読む〟／社会と美術／美術の諸相／美術の歩み）
・西洋美術史入門〈実践編〉（ひとつの作品をじっくりと読んでみよう／美術作品の何を見るか-一次調査と「主題と社会」／さまざまな視点-美術品と社会の関わりをみる実践例から／まとめ-より深い鑑賞のために）

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
池上英洋 著『ちくまプリマー新書 174 西洋美術史入門』（筑摩書房、2012年）
池上英洋 著『ちくまプリマー新書 212 西洋美術史入門〈実践編〉』（筑摩書房、2014年）

○学習指導書
『芸術研究学Ⅱ　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	芸術研究コンセプション						
授業コード	3320	授業科目名	芸術研究コンセプション			担当者	田村裕教授、金子伸二教授、臼井新太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位(M2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

［概要］ロジカル・シンキングやクリティカル・シンキング、様々な発想法など、芸術文化に関する研究・活動に向けて独自の観点を立てるための手法を学ぶ。
［目標］芸術文化に関するテーマを発見し、解決に導く発想力や、観察と解読・分析力、論理的に筋道を立てて考える力を錬成することを目標とする。

【課題の概要】

〇メディア授業課題1
一つの造形作品を取り上げ、その作品について書かれた紹介、解説文や批評などを2つ以上読み、相互の論点や論理の展開などを「比較検討」する。

〇メディア授業課題2
自分の推薦する造形活動や作品を効果的に紹介・推進するための問題点を見出し、授業で解説されている発想法や思考ツールを使って改善や解決のアイデアを探る。

【授業計画】

・講義動画の視聴と学習チェック。
1章　芸術研究コンセプションとは何か
2章　課題発見から解決までの道筋
3章　考える技術〜ロジカル・シンキング
4章　クリティカルに読み解く
5章　問題点を発見し、解決に導く発想の技術
6章　先行研究から学ぶ
7章　生活環境や場の観察を通した気付きの方法
8章　研究テーマの発見へ

【成績評価の方法】

メディア授業課題（Webレポート）の評価による。

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次：2年次〜

〇履修条件： 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

〇備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究特殊講義 Ⅱ						
授業コード	3330	授業科目名	芸術研究特殊講義 Ⅱ			担当者	田村裕教授、金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	2〜4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

［概要］造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
［目標］造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題
課題　郷土玩具の魅力と現代社会：郷土玩具を見たり入手したりできる場所を探し、造形観察による特徴の把握と作品記録を行うとともに、郷土玩具名・産地・材料・寸法・発祥・用途・販売（頒布）地・製造法等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。さらに、調査した郷土玩具を題材としたレポートを作成する。

【授業計画】

・テーマと調査･報告の方法に関する講義動画の視聴と学習チェック。
1章 郷土玩具とは
2章 郷土玩具の現在
3章 郷土玩具の調査・記録と報告
4章 郷土玩具の魅力と社会との関わりを考える
・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：2年次〜

○履修条件： 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。
・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	デザイン総合研究　Ⅰ						
授業コード	3420	授業科目名	デザイン総合研究　Ⅰ			担当者	上原幸子教授、河野奈保子講師、風間純一郎講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『自分を可視化する』
デザインを学ぶ者にとって、アイデアを生み出していく過程で、自分が持っている引き出しの確認作業が必要になることが少なくない。
自分の発想がどこからくるのか、自分は何に興味関心があるのか、今後何をしたいのか、その理由と展望について、自分の視点を確認できる情報ソースとして、周辺情報の整理と可視化を試みる。

【課題の概要】

課題名『マイデータグラフィックス』
自分を客観視することを目的に、自分年表を用いて自分のこれまでをビジュアライズした情報ツールを制作する。
それらは、自分を取り巻く社会環境を、時間軸と関係軸で表すデータグラフィックスである。

【授業計画】

①自分情報を表にまとめる
たくさんの情報を整理するには、テキスト化する作業は欠かせない。まずひたすら書き出して検証していくことから見えてくるもの、導き出したい方向性を確認していくステップとして資料を作成する。

②手描きによる自分年表の作成
自分を取り巻くさまざまな社会環境を俯瞰しながら、時間軸を用いて記憶の中にある自分情報を可視化する作業を行う。記憶として切り取られた情報だからこそ、手描きでしかビジュアライズすることはできない、自分の頭の中にある引き出しを整理し、確認できるツールを作成する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
渡邉俊博著『考えを整理する・伝える技術 グラフィックレコード』（フォレスト出版　2019年）

○学習指導書
『デザイン総合研究 Ⅰ　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考文献
石黒謙吾著『分類脳で地アタマが良くなる　頭の中にタンスの引き出しを作りましょう』（KADOKAWA／角川マガジンズ　2015年）

科目名	デザイン総合研究 Ⅱ						
授業コード	3430	授業科目名	デザイン総合研究 Ⅱ			担当者	清水恒平教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

「図化考察―思考の図化トレーニング」
デザインにおいては、あらゆる情報や関係性を分析・調査して、分かりやすい形にまとめる（編集する）力が求められる。この科目では、複雑な事象を図にすることによって整理する方法を学ぶ。すべての課題は紙と鉛筆を使用して行う。手を動かしながら頭を整理するための、思考の基本パターンのトレーニングを行います。

【課題の概要】

バブルマップ／ダブルバブルマップ／フローマップ／マルチフローマップなどの基本パターンを使用した20の小課題を行う。

【授業計画】

課題制作のための説明動画の視聴→課題制作→解説動画の視聴を基本のセットとして、合計20の課題を行う。
提出は最後にまとめてPDFファイルにして Web 提出する。
課題を行う際に使用するフォーマットのダウンロードやプリントアウト、提出の際のスキャニングやPDF化については講義動画の中で説明する。

【成績評価の方法】

メディア授業の中で制作した作品（PDFにて提出）の総合評価

【履修条件及び履修年次】

〇履修年次
1 年次～

〇履修条件
「デザイン総合研究Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
デザイン総合コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下の通り。
・PDFファイルが閲覧できること。
・スキャンができること。
・スキャンデータをまとめたPDFファイルへの変換ができること。
・Web提出ができること。

〇備　　考
デザイン情報学科デザイン総合コース必修科目。
推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン総合研究 Ⅲ						
授業コード	3440	授業科目名	デザイン総合研究 Ⅲ			担当者	教義奥講小 野良三中 牧授、竹師、 明講梨枝中澤師 村師、子講 智子
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

我々の暮らしを支える都市機能は、我々の求めに応じ様々な工夫がなされ、我々の暮らしを支えている。その重なりが街の個性となり、魅力となっている。

ここでは、人と空間と造形の関係を街の調査を通して明らかにし、その手法を学ぶことを目的としている。集い、憩い、楽しむ、といった都市空間に見られる様々な出来事を、観察を通して読み解き、それらを可能にする工夫がどのようになされているか、空間デザインの考え方をもう一歩進めて、提案に至るまでの基本的なプロセスを学ぶ。

【課題の概要】

○面接授業課題「デザインサーヴェイから学ぶ」
デザインサーヴェイを通して、都市空間の実態とその演出性を客観的に読み取り、その結果をデザイン的に表現する。

【授業計画】

第 1 日　課題説明　現地調査とワークショップ
第 2 日　現地調査とワークショップ　作品制作
第 3 日　作品制作
第 4 日　作品制作　発表

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ・Ⅱ」の単位習得または同時履修。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン総合研究 Ⅳ						
授業コード	3450	授業科目名	デザイン総合研究 Ⅳ			担当者	白尾隆太郎教授、上原幸子教授、棚橋早苗講師、藪内新太講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

○授業テーマ「メディアを考える／メディアで遊ぶ」
私たちのコミュニケーションを成り立たせている多様なメディアとメディア環境を広く捉え直し、新たなメディアの思考と実践へと繋げることを目標とする。たとえば、メディアを取り巻く環境としては、社会体制・経済・産業・科学・技術・歴史・文化・思想・教育等があり、これらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくっていると考えられる。フィールドワークを通して現在のメディア環境を広く考察し、自らの手で実践的に新たなメディアの制作と提案を試みる。

【課題の概要】

○面接授業課題「メディアの発明」
「メディアで遊ぶ」をキーワードに、ワーキンググループで身近な環境のフィールドワークを行いながら、メディアとメディア環境の多様性と可能性を多角的に観察、考察する。授業の共通テーマは「水」とし、「吉祥寺周辺・井の頭公園」を考察のフィールドとする。フィールドワークをもとに、個人制作で「新たなメディア」のプロトタイプを試作し、プレゼンテーションでは「メディアで遊ぶ」の実践と提案を試みる。

【授業計画】

○面接授業課題「メディアの発明」
具体的な授業進行については、授業初日にオリエンテーションを行う。
・1日目：オリエンテーション、ミニワークショップ、フィールドワーク、グループディスカッション
・2日目：フィールドワーク、個人制作
・中間期間：個人制作、オンラインプラスによる指導
・3日目：個人制作、仕上げ、プレゼンテーションの準備
・4日目：プレゼンテーション、講評、ふりかえり

※オンラインプラス［中間］– Facebookグループを使用し、オンライン上で制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

【成績評価の方法】

制作した作品と提案内容、プレゼンテーションを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境、Facebookのアカウントが必要となる。

【教材等】

なし

【その他】

○面接授業課題「メディアの発明」
授業前半にワーキンググループ（5名程度）で吉祥寺周辺・井の頭公園のフィールドワーク、およびディスカッションを行う。

科目名	情報形成デザイン　ＩＡ						
授業コード	3490	授業科目名	情報形成デザイン　ＩＡ			担当者	白尾隆太郎教授、石垣貴子講師、木多美紀子講師、深澤涼子講師、講上田和秀講師、山口弘福毅講師、井政弘講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『写真で意味を伝える』
写真は視覚言語と言われるように、言葉と同じように概念を伝えることができる。それゆえ、自分と他者の視覚的な意味の共有化は、ビジュアル・コミュニケーションの前提となる。また写真を言葉を使わないメッセージととして捉え、ビジュアルな表現だけを使って、他者にメッセージを伝えることを学ぶ。それらは、言語の領域を越えインターナショナルなコミュニケーションへのステップとしてあらゆる人々に共通の理解を求めるグラフィックデザインの基礎と言える。

【課題の概要】

○課題 1　「ビジュアル・カルタ」
1-1　50 音で始まるキーワードを 44 個考え、45×60㎜ の写真でそれぞれのキーワードを撮影する。44枚の写真を台紙に貼り提出する。
1-2　一つのキーワードを 5 枚の写真で表わし、構成する。

○課題 2　「ビジュアル・オピニオン」
日常生活や社会問題に対する意見を言葉を使わずに、視覚的な表現だけを使い的確に他者に伝える。

【授業計画】

○課題 1　「ビジュアル・カルタ」
・教科書を読み前提学習をする。
・学習指導書を読み課題を理解する。
・課題 1-1 を制作する。
・課題 1-2 を制作する。
・課題 1 を提出する。
・返送された添削文を読んで理解する。

○課題 2 「ビジュアル・オピニオン」
・教科書を読み前提学習をする。
・学習指導書を読み課題を理解する。
・ラフスケッチを制作し提出する。
・添削指導に基づいて本制作し提出する。
・返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
「デザイン基礎ＩA・B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書
白尾隆太郎監修『graphic elements グラフィックデザインの基礎課題』　(武蔵野美術大学出版局 2015年)

○学習指導書
『情報形成デザインＩA・ⅡA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン　ＩＢ						
授業コード	3500	授業科目名	情報形成デザイン　ＩＢ			担当者	郎垣、太石師、隆尾授、白教子講師、貴野呂麻子講師、師弘和講師、多美紀子講師、師子深澤講師、崎葉講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『タイポグラフィとダイアグラム』
文字を組むことは、意味に形を与えることでもある。文字組すなわちタイポグラフィにおける視覚的側面を考察しながら、言葉と視覚表現の関係を考える。グラフィックデザインにおける紙面のレイアウトは、デザインの構造を決める重要な要素と言える。その骨格をなし文字組の原理を理解し、デザインを構造的に構想できる力を養う。

【課題の概要】

○課題 1 「文字組」
あたえられた文章にタイトルを付け、コンピュータを使って組版、文字組として完成させる。

○課題 2 「ダイアグラム」
俳人小林一茶の歴史や生様を資料をもとにデザインする。

【授業計画】

○課題 1 「文字組」
オンラインプラス［準備］で前提講義を自宅で視聴する。
・「組版 1 ーいろはの文字」「組版 2 ー銀河鉄道の夜」「組版 3 ー天声人語」という3つの組版に取り組む。
・講評会

○課題 2 「ダイアグラム」
オンラインプラス［準備］で前提講義を自宅で視聴する。
・事前に考えてきた計画について教員と面談する。
・資料を調べる。
・コンピュータを使ってダイアグラムを制作する。
・講評会
※オンラインプラス［準備］ー事前説明動画配信
Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
「デジタル造形基礎Ⅰ・Ⅱ」「デザイン基礎ＩA・B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン ⅡA						
授業コード	3510	授業科目名	情報形成デザイン ⅡA			担当者	清水恒平教授、植木基博講師、小川修一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	デザイン総合コース選択必修科目						
授業形態	通信授業（Web提出）						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門 1 」
大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
プログラミング言語はProcessingの使用を推奨する。

【課題の概要】

［課題 1 ］オープンデータ、APIによるデータの取得方法の調査
［課題 2 ］外部データを利用した情報表現

課題 1 では私たち個人が使用できるデータにはどんなものがあるのかリサーチを行う。
課題 2 ではそれらのデータを使い新しい価値を見いだせるような作品を制作する。

【授業計画】

学習指導書『情報形成デザインⅠA・ⅡA　2021年度』に沿って通信課題を制作し提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次〜

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
教科書は「デザイン基礎 ⅡA」と同じものを使用する。この教科書の第8章までの内容は習得済みであることを前提のため、その内容を理解していないものは第1章から第8章を熟読し、十分に理解した上で受講すること。

【教材等】

○教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン　2011年）

○学習指導書
『情報形成デザインⅠA・ⅡA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン ⅡB						
授業コード	3520	授業科目名	情報形成デザイン ⅡB			担当者	清水恒平教授、植木基博講師、小川修一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	デザイン総合コース選択必修科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門 2 」
大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
プログラミング言語はProcessingを使用する。また、データベースはSQLiteを使用する。

【課題の概要】

［課題］データベース（SQLite）を利用したビジュアライゼーション

【授業計画】

（前半2日間）
・UNIXコマンドの基礎
・SQLコマンドの基礎
・課題の説明

（オンラインプラス中間）
・課題の計画書を提出

（後半2日間）
・課題の制作

※オンラインプラス［中間］ーBBS上での中間アドバイス
Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次〜

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
「デザイン基礎 ⅡA」で学習する程度の（Processingの）プログラミング技法を身に付けていること。
具体的にはsetup関数とdraw関数の役割の違い、変数、if条件文、forループ文などをある程度理解していることを前提としている。
知識を満たしていないと思う者は「デザイン基礎 ⅡA」「デザイン基礎 ⅡB」から受講すること。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』 （オライリージャパン 2011年）

科目名	環境形成デザイン　ＩＡ						
授業コード	3580	授業科目名	環境形成デザイン　ＩＡ			担当者	牧野良三教授、桜井隆樹講師、富谷智講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ー機能と造形ー
我々が暮らす生活環境を、環境形成デザインという新しい領域概念で捉えると、「身体性に基づいた機能を作り出す技術（テクノロジー）」と「体験から生まれる情報を共有する方法（コミュニケーション）」という言葉が導き出される。これは、ヒト、モノ、コトという従来の立体・空間デザイン領域のキーワードを、我々の暮らしに即して具体的な言葉として導き出された言葉である。
環境形成デザインＩＡでは、身体性に基づいた機能について身近な道具を例に、その使い勝手や形態について考察する。また、身近な空間デザイン（店舗、ブース）を例に、発信者と受信者の関係をインターフェイスをキーワードに考察する。
領域を構成する「モノ」と「空間」の両面から考察することで、ものづくりに必要な基礎的な考え方を包括的に学び領域の理解を深めることを目標にしている。

【課題の概要】

ものづくりの前提となる「身体性と機能」、「体験から生まれる情報」（UI/UX）それぞれに考察し、その結果を報告する。

○通信授業課題1
道具と機能の関係を考察し、その結果をスケッチとレポートでまとめ、提出する。

○通信授業課題2
身近な空間のインターフェイスの事例を選び、その実態を調査しレポートにまとめる。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書『環境形成デザインＩＡ・ⅡA』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）

○学習指導書
『環境形成デザインＩＡ・ⅡA』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

【その他】

科目名	環境形成デザイン　ＩＢ						
授業コード	3590	授業科目名	環境形成デザイン　ＩＢ			担当者	牧野良三教授、桜井隆樹講師、宗像重幸講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ー機能と造形ー
我々が暮らす生活環境を、環境形成デザインという新しい領域概念で捉えると、「身体性に基づいた機能を作り出す技術（テクノロジー）」と「体験から生まれる情報を共有する方法（コミュニケーション）」という言葉が導き出される。これは、ヒト、モノ、コトという従来の立体・空間デザイン領域のキーワードを、我々の暮らしに即して具体的な言葉として導き出された言葉である。
環境形成デザインＩＢでは、「機能と造形」の関係を、具体的な機器の制作を通して学習する。道具の用途や構造、人の動作と形態といった機器デザインに課せられる要件を包括的に体験することで、領域の理解を深め表現方法の習熟を目指す。

【課題の概要】

○面接授業課題［ドアノブのデザインとモデル制作］
・ 面接授業ではドアノブの操作性、認知性、快適性を探索し、スケッチによるイメージの表現からモデル制作までの具体的な形態にまとめ上げるプロセスとスキルを学ぶ。

【授業計画】

○面接授業
・発泡ウレタンでラフイメージモデルを制作してから、決定モデルの制作を行う。
第 1 日　前提講義・課題説明、イメージラフモデル制作
第 2 日　イメージラフモデル制作、決定モデルの概略三面図の作図
第 3 日　モデル制作
第 4 日　モデル制作、プレゼンテーション、講評

・複数のアイデアモデルでデザインを検討し、最終案を制作します。
・当日はアイデアスケッチから展開しますが、事前に身の回りにあるドアノブに触れて、ある程度イメージを固めておくとスムースに進めることができます。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	環境形成デザイン ⅡA						
授業コード	3600	授業科目名	環境形成デザイン ⅡA			担当者	牧野良三教授、山本博一講師、森史子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ーコミニュケーションを促す形ー
我々の生活を支える生活環境は、住環境を起点に、我々の社会的な成長とともにその幅を広げていく。これは、我々が社会生活を営む上で、段階的に獲得していく環境の厚みに他ならない。視点を変えて、環境を、我々が暮らす上で意識や行動に直接的、間接的に影響を与える存在として捉える時、その利用の仕方は多様であり、また様々な形態をとることになる。
環境デザインⅡAでは、身近な環境をコミニュケーション機能を有した機能空間として捉え、そこで起こる様々な出来事を調査、分析を通して考察する。「ヒト」との関係を中心に「モノ」と「コト」を捉え直し、環境を形成する要素（立体・空間デザイン）について理解を深め、デザイン行為の手法を学び、その可能性を探る。

【課題の概要】

指定された課題図書を選び、内容を要約して、身近な環境（商店街）を調査した結果をレポートとして提出する。（課題図書を選ぶ際には、自らが進む領域を考慮することが望ましい）

○通信授業課題１
指定された課題図書を読み解き、その概要をコメントとしてまとめ、その後、課題図書の手法に倣い身近な商店街を調査し、対象とする機器や空間に対する課題やテーマをまとめ、その成果をレポートとして提出する。

○通信授業課題２
通信授業課題１でまとめた課題やテーマに対する構想案を示し、その成果をまとめ、提出する。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局　2021年　）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局　2002年　）

○学習指導書
『環境形成デザインIA・IIA』（武蔵野美術大学出版局　2021年）

【その他】

科目名	環境形成デザイン ⅡB						
授業コード	3610	授業科目名	環境形成デザイン ⅡB			担当者	牧野良三教授、山本博一講師、森史子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ーコミニュケーションを促す形ー
我々の生活を支える生活環境は、住空間を起点に、我々の成長とともにその幅を広げていく。これは、我々が社会生活を営む上で、段階的に獲得していく環境の厚みに他ならない。視点を変えて、環境を我々が暮らす上で意識や行動に直接的、間接的に影響を与える存在として捉える時、その利用の仕方は多様であり、また様々な形態をとることになる。
環境デザインⅡBでは、指定されたミニパークをコミニュケーション機能を有した機能空間として捉え、我々の行為と環境の関係について考察する。また、新たな提案に向けて（プレゼンテーション）、問題抽出の力（テーマ）、提案に至る思考の力（コンセプト）、実装する力（デザイン）というデザイン行為の基本となる知識と技術の重要性を認識し、その習得を目標としている。

【課題の概要】

指定された公園の周辺環境、土地の記憶、成立の背景などを考慮して新たなテーマ、コンセプトを設定し、提案する。
課題制作にあたっては、自らが進む領域からの問題提起であることが望ましい。

【授業計画】

［面接授業4日間］
前半　第1日目　指定された公園（ミニパーク）を各自が調査。
　　結果を持ち寄りグループ討論
　　第2日目　独自のテーマ、コンセプトの作成
　　中間発表

後半　第3日目　機器のデザインまたは空間のプランニングの制作、提案
　　（テーマ、コンセプトを起点に）
　　第4日目　機器のデザインまたは空間のプランニングの制作、提案
　　発表　講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

学外実習、グループワークがある場合がある。

科目名	社会形成デザイン　ＩＡ						
授業コード	3670	授業科目名	社会形成デザイン　ＩＡ			担当者	上原幸子教授、山田翔太講師、江澤勇介講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

目の前にあるのに見えていないこと、見えているのに気づかないことなど、身近にある宝を再発見し、気づくことの大切さを学ぶ。自分では気づきにくいことに光を当てるためには、まず気づいていないと認識することがスタートとなる。自分周辺の第一次情報の貴重さを、可視化をとおして実感し、ソーシャルデザインが目指すべき方向性と自らの足掛かりを見つけることが、この科目の大きな目標である。

【課題の概要】

第１課題では、自分を１個の生態と捉え、その周辺環境を見つめ直す装置として、他者との対話を元に絵地図づくりを行う。
第２課題では、「選択」のメディアである写真の特性を生かし、体験的に集められ切り取られる視覚情報を編集することをとおして、日常の中にあるまちの再発見を目指す。

【授業計画】

［課題 １ ］わたしの生態環境マップ
自分を取り巻く環境を俯瞰できる絵地図を作成する。
日常何気なく過ごしているフィールドを可視化する装置づくりをとおして、見えていなかったことの掘り起こしと気づきの重要性を体験する。
制作のプロセスで、他者とのディスカッションを行い、ビジュアルレポートとしてレイアウトしてまとめる。

［課題 ２ ］ソーシャルレンズ
「見る・観る・視る」の違いを、組み写真として編集し可視化する。
［課題 １ ］の絵地図に盛り込まれた地域情報から、まちの特色、地形、歴史、人々の生活、文化、時間の経過によって変化したもの・しないもの、地域の大事にしていること、発見したことなど、関心事を抽出しテーマを導き出す。
まち探検をして取材を試みるのもひとつの手段。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
２ 年次～

○履修条件
デザイン情報学科デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
MacintoshまたはWindowsで、編集作業が可能なソフトウェア（PowerPoint、Word、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorなどいずれか）を使用する。

【教材等】

○教科書
『地元を再発見する！手書き地図のつくり方』（手書き地図推進委員会編著　株式会社学芸出版社　2019年）
○学習指導書
『社会形成デザインIA　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考文献
乾久美子＋東京藝術大学 乾久美子研究室 編著『小さな風景からの学び～さまざまなサービスの表情』（TOTO出版　2014年）

科目名	社会形成デザイン　ＩＢ						
授業コード	3680	授業科目名	社会形成デザイン　ＩＢ			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、田陽子講師、堀講師
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ソーシャルデザインのリテラシーとして、人ごとではなく自分ごととしての意識の獲得を前提としたい。プリミティブな発想や思いを出発点に仮説を立て、新たなプロジェクトの提案を試みる。デザイン思考＋思いをカタチにするビジョンを組み立て、必要な要素を抽出するプロセスと、人に届く言葉や共感を生むためのスキルの獲得を目指す。

【課題の概要】

「ビジョン物語」
出会いや交流を生む地域の居場所プロジェクトを企画する。身近な社会課題への具体的な提案をとおして、他者へのまなざしと他者からのまなざしをあらためて認識する。
背景、動機、必要性などを説明するのではなく、説得力あるストーリーと演出を考え、ビジュアルコミュニケーションメディアを制作する。

【授業計画】

※［準備］―
Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて事前リサーチの解説

（前半）
グループワーク
・居場所とは何か、自分発という感覚の確認
・居場所発想ゲーム：他者へのまなざし、他者からのまなざしに気づく
個人ワーク
・スキルサポートレクチャー：物語化、編集軸をたてる、組み立てる
・ビジョン物語「あったらいいな！こんな居場所プロジェクト」のサムネール制作
・中間発表

※［中間］―
Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作素材の解説

（後半）
個人ワーク
・スキルサポートレクチャー：PC操作、演出効果、フォーマット
・ビジュアルコミュニケーションメディア、シナリオブックの制作
・編集と伝わる演出の工夫
・プレゼンと講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン情報学科デザイン総合コースに在籍していること。

○備　　考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
スクーリングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

面接授業について：グループディスカッション・発表を行う。

○参考文献
『居場所づくりがきっとうまくいくハンドブック』（東京ボランティア、市民活動センター　2016年）

教職に関する科目

科目名	美術教育法 Ⅰ						
授業コード	1640	授業科目名	美術教育法 Ⅰ			担当者	三澤一実教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2〜4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

造形美術教育の実践者として身に付けるべき知識や経験、資質は、広範囲であり多種多様である。また、それらの基礎として子ども達の造形活動をさまざまな視点から観察する姿勢と、子ども達の作品の中にある優れた造形性や教育的意義を発見できる視点を持つことがまず重要である。子どものどこにどのような光を当てればよいのか、そこからどのような教育的な展望を持つことができるのかという問題は、造形美術教育の入門でもあり、永遠のテーマでもある。ここでは、現在の具体的な実践事例を含む造形美術教育の諸相を概括し、その基本理念の考察へと学習を進め、造形美術教育者としての視点育成を目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
身近な幼児・児童（3 歳〜 10 歳）の年齢の違う描画作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること。実際にその子どもが描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、作品の出典などを明示すること。

○通信授業課題 2
昨今の初等教育における教育問題をひとつ取り上げ、ハーバード・リードの教育理念や造形表現における発達段階、小学校学習指導要領などと対比し、造形美術教育の視点から論評すること。
新聞、雑誌、WEB サイトなどを閲覧し、注目すべき教育問題を取り上げること。その情報の出典を明示すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『美術教育資料研究』第 I 章と第 II 章、同じく教科書『美術の授業のつくりかた』第 I 章を中心として学習するとともに、教育問題についての情報を集め考察し、造形美術教育者としての視点を育成する。
・『美術教育資料研究』第 I 章　美術教育法の目的と意義
・『美術教育資料研究』第 II 章　子どもの造形表現
・『美術の授業のつくりかた』第 I 章　美術科の特徴と今日的課題
・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』／図画工作科の考え方についての理解
・『中学校学習指導要領解説 美術編』／美術科の考え方についての理解
・情報収集／新聞、雑誌、WEB サイトなどを閲覧し、昨今の教育問題についての見識を広める

【成績評価の方法】

◎科目試験
上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次〜

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実編者『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2017 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

○参考図書
ハーバード・リード『芸術による教育』（フィルムアート社　2001 年）
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	美術教育法 Ⅱ						
授業コード	1650	授業科目名	美術教育法 Ⅱ			担当者	大坪圭輔教授、山口正己講師、松本敏裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

造形美術教育は子どもの成長の様相を基に行われる。特に「美術教育法 I」で学んだ造形表現における子どもの発達については、造形美術教育実践者の基礎的な知識として重要である。ここではそのような発達に対応した指導の実践事例として、チゼックスクールと自由画教育運動を取り上げる。また、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の内容について学習し、それらの考え方と比較検討する。これらの学習を通して、中等教育段階での造形美術教育の構造を明らかにし、中でも学習指導要領が重視する鑑賞領域の指導を模擬授業の形で実施し、実践的に学習することを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題　※ 面接授業で提出
「『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を読み，現在の造形美術教科と比較考察し論述すること。」
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
大学指定のレポート用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

○ 面接授業課題
「中学校および高等学校における鑑賞題材を設定し、研究発表を行うこと。」
講義の中で鑑賞題材の研究発表を行い、相互に検討をする。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業

○通信授業　※ 面接授業で提出
教科書『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を精読し、現在の美術教育と比較することになるが、各質問に対するチゼックの答えについて、賛同できるもの、疑問に思うものなどに分類し、その中でもとくに重要と考えるものについて、自身の考察を加えるようにする。
・『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節　チゼックスクール

○面接授業
チゼックスクールの実践と自由画教育運動を比較するとともに，近現代の造形美術教育史を概観する。
また中学校、高等学校の学習指導要領についての理解を深め，中等教育段階における授業題材開発の視点を育成する。
第 1 日 チゼックスクールの実践についての考察と日本美術教育史概説
第 2 日 自由画教育運動と中学校，高等学校学習指導要領
第 3 日 鑑賞題材の開発と研究発表

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。
「美術教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

＊スクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校美術 1』『高校美術 2』『高校美術 3』『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（（日本文教出版）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	美術教育法 Ⅲ						
授業コード	1660	授業科目名	美術教育法 Ⅲ			担当者	大坪圭輔教授、山口正己講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育活動の理念やシステムは時代の思潮によって変革され、変容していく。教育実践者はその改革が在るべき姿として正しいものといえるのか、その目指すところは未来の理想となり得るものかを絶えず検証する姿勢を持たねばならない。また造形美術教育はその性格や内容から、社会思潮を積極的に受け止め、時代に対応した教育の意義や価値を検証する必要がある。そのような研究は教育史論をはじめとして、実践論、教育哲学論、造形芸術論などを踏まえた学際的な性格を持つものである。ここでは障害者の造形美術教育にまで視野を広げ、今日的な課題を中心として、研究的姿勢を身に付けることを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 1
「身近な中学生の作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること」
実際にその中学生が描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。また、作品は平面でも立体でもよい。
作品のコピーを添付し、作者の学年や性別、素材や技法、出典などを明示すること。

○ 通信授業課題 2
教科書『美術教育資料研究』第Ⅳ章及び『美術の授業のつくりかた』の中から、今日的課題として重要な内容をひとつ選び、その内容について自分の意見や考えを述べること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『美術教育資料研究』第Ⅳ章及び『美術の授業のつくりかた』を精読し、自身の教育観を広げられるようにする。また、現在の教育改革についても情報を集め、考察を深めて行くようにする。
・『美術教育資料研究』第Ⅳ章　現代美術教育の諸相
・『美術の授業のつくりかた』

【成績評価の方法】

◎ 科目試験
上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。
「美術教育法 Ⅰ・II」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程　2021年）

＊「美術教育法Ⅱ」のスクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3.4 上』『図画工作 3・4 下』『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校美術 1』『高校美術 2』『高校美術 3x』『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	美術教育法 Ⅳ						
授業コード	1670	授業科目名	美術教育法 Ⅳ			担当者	大坪圭輔教授、山口正己講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「開かれた学校」のことばが意味するものは、情報公開や地域、保護者、生徒などの学校経営参加だけではなく、教育活動そのものを学外にまで広げ、社会や地域の教育力を活用することにある。芸術関係教科は、いち早く学外の教育活動との連携を模索してきている。ここではまず、造形美術教育に関する学外の教育活動についての理解を深め、教科学習との理想的な関係性を考察する。また、造形美術教育の歴史を概観し、今日の造形美術教育の様相や将来のあるべき姿について研究を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題　※ 面接授業で提出
「学校外での造形美術教育の事例をひとつ取り上げ、美術教科と学校外の造形美術教育の関わりや、将来像について論述すること」
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
大学指定のレポート用紙を用いて返信可能な状態で持参，提出すること。

○面接授業課題
「中等教育段階の学校教育における造形美術教育の意義や将来像を、日本の美術教育史を踏まえて論述すること」

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業

○通信授業
教科書『美術教育資料研究』及び『美術の授業のつくりかた』を総覧するとともに、美術館の Webサイトなどを閲覧し、美術館教育など学校外での美術教育の事例について情報を集めるなどして、学校教育外の造形美術教育の現状について考察する。

○面接授業
現在の造形美術教育の状況を歴史的視点などから包括的に考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階での造形美術教育の意義や実際についての研究を進めることができるようにする。
第 1 日 学外での造形美術教育（通信課題発表を中心として）／日本の美術の重視
第 2 日 日本美術教育史／中学校学習指導要領についての考察（小学校，高等学校との関連など）
第 3 日 題材研究 ・ 題材設定、発表講評／面接授業課題

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件
教職課程（中学、高校 1 種［美術］）に登録していること。
旧課程登録者は、別表第４（中学、高校１種［美術］）に登録していること。
「美術教育法 Ⅰ・II・Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』（日本文教出版　2017 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程　2021 年）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）

科目名	工芸教育法 Ⅰ						
授業コード	1680	授業科目名	工芸教育法 Ⅰ			担当者	大坪圭輔教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

人としての身体機能の低下は、多方面から指摘されている。その中で「手仕事」や「もの作り」の教育についての再評価の動きが強まっている。手工教育として明治期に導入された日本の工芸教育は、スロイドシステムに大きな影響を受けている。またその教科性から、手工教育は国策とのつながりも強い。ここでは手工教育の具体的な目的や内容を明らかにすることによって、現在の工芸教育の位置付けを考察する。また、構成教育や国民学校での実践などへも視野を広げ、「手仕事」の持つ教育的な意義を考え、工芸教育の理念を構築できるようにする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 1
身近な幼稚園児、もしくは小学校児童の工作作品 2 点を取り上げ、工芸教育の視点から解説する。
実際にその子どもが制作しているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書、WEB サイトなどに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、出典などを明示すること。

○通信授業課題 2
教科書『工芸の教育』第 3 章手工教育の変遷・第 2 節手工教育のはじまりとしての「思物」に示されている「フレーベル恩物」について調べ、その意義と現代の知育玩具等とを比較考察する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」の中から、下に示すような手工教育、工芸教育に関する事例を取り上げて学修する。また、小学校図画工作科における子どもの発達の様相及び、工作指導について理解を深め、上級学校での工芸教育の理念や目的について考察する。
・『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」／恩物、ネース講習、構成教育、国民学校令
・『小学校学習指導要領解説　図画工作編』　工作領域の学習の目的と内容
・『中学校学習指導要領解説　美術編』　工芸領域の学習の目的と内容
・『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』　工芸科の学習の目的と内容

【成績評価の方法】

◎科目試験
上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（高校 1 種［工芸］）に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）
文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

＊スクーリング時にセット販売
文部科学省検定済 小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』
『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）

【その他】

○参考書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）

科目名	工芸教育法 Ⅱ						
授業コード	1690	授業科目名	工芸教育法 Ⅱ			担当者	大坪圭輔教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

「手仕事」や「もの作り」の視点から工芸教育法の理念を考察した工芸教育法Ⅰを基に、ここでは工芸教育の歴史及びデザイン・工芸史を概観し、現代の学校教育の中での工芸教育の位置付けを明らかにしていく。また現在の学習指導要領は地域の特色ある材料を生かすことや、伝統的な工芸についての理解や鑑賞、そこからの発想などを重視している。これらを踏まえて、身近な自然や環境との出会いを基にして始まる初等教育段階の造形美術教育と、中等教育段階の工芸領域における材料体験を重視した学習とのつながりを考察し、中学校美術科工芸領域及び高等学校芸術科工芸の具体的な題材について学習する。

【課題の概要】

○通信授業課題　面接授業で提出
身近な伝統工芸をひとつ取り上げ解説をし、それを基にした中学校美術科工芸領域あるいは、高等学校芸術科工芸の授業題材としての展開の可能性を論述する。
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
所定の用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。
取り上げた伝統工芸作品の写真などを添付すること。
授業題材としての展開ではその目的や方法などを具体的に想定する。

○面接授業課題
高等学校芸術科工芸Ⅰにおける表現と鑑賞の授業計画案を作成し、その評価の観点を論述する。
学習指導要領の主旨を生かし、発展的な授業計画案を考える。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業　→　面接授業

○通信授業
地域の伝統工芸について調査するとともに、『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』を中心として、現代の学校教育における工芸授業実践の目的や内容、方法などを考察し、題材展開の実際を学習する。
・『中学校学習指導要領解説　美術編』　工芸領域の学習の目的と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い
・『高等学校学習指導要領解説　芸術編　音楽編　美術編』　工芸科の学習の目的と内容、内容の取り扱い

○面接授業
工芸教育の意義を歴史的視点から考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、現代の中等教育における工芸の指導の実際を学習する。
第 1 日　伝統工芸の題材化（通信課題を中心として）／工芸学習の実際
第 2 日　デザイン史、工芸史、工芸教育史概説／中学美術工芸領域、高等学校学習指導要領芸術科工芸についての考察、／工芸技法の基礎理解
第 3 日　題材設定の作成、発表、講評

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件
教職課程（高校 1 種［工芸］）に登録していること。
「工芸教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2017 年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目/文化総合科目・教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

※ スクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書
大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局　2014 年）
三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	教育原理 Ⅰ						
授業コード	1600	授業科目名	教育原理 Ⅰ			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育の理念、教育の歴史、教育の思想など広くについて、学ぶものである。ここで学んだ教育の理念・歴史・思想が、これからの教育実践や教育の社会的意義を深く考えていくための前提となる。教育をめぐって、子どもと大人、学校と家庭と社会、教育学の諸概念を理解して、さらに、古代から近代にいたる教育の歴史と思想を実践の前提となる教養として獲得することが目標である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「子どもにとっての教育」と題して、教科書を理解して、関心のある子どもに関するテーマを論じる課題。

○通信授業課題 2
「歴史からみえる教育の機能と理念」と題して、教科書を理解して、教育の歴史を考える課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 1 部（第 1 章～第 15 章）を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。必要に応じて第 2 部も参照すること。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書第 1 部（第 1 章～第 15 章）の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一『新しい教育通義』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』　（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

科目名	教師論						
授業コード	1590	授業科目名	教師論			担当者	高橋陽一教授、桑田直子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義に関する科目」であり、「教職の意義及び教員の役割」、「教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）」及び「進路選択に資する各種機会の提供等」を内容としている。具体的には教員の役割や歴史、そして特に美術、工芸、情報の教員の職務とその意義について理解を深めることが期待される。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「教員生活や教員社会の特徴について、経験豊かな教員あるいは恩師の教員からヒアリングを行い、それをもとに自分なりの理想的教員像を論じなさい。」
教科書を参考に論述すること。

○通信授業課題 2
「子どもの個性を引き出し、伸ばすということについて、美術・工芸・情報科の教員の役割を論じなさい。」
教科書を参考に論述すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
『新しい教師論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。
教科書を熟読して受験すること。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一編『チーム学校の教師論』（武蔵野美術大学出版局　2021年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	教育原理 Ⅱ						
授業コード	1610	授業科目名	教育原理 Ⅱ			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育をめぐる社会の在り方や学校教育制度などについて、学ぶものである。「教育原理Ⅰ」で学んだ教育の理念や歴史などを踏まえて、教育が現在社会でいかに機能し、どのような問題をもち、どのように改革されるべきかを考える。教育職員免許法施行規則の定めるとおり教育に関する社会的、制度的、経営的事項を学び、さらに学校と地域の連携や学校安全という課題も併せて理解するための授業である。とりわけ、現代の日本の学校教育制度と教育行政の在り方など、私たちの教育の在り方を展望するための視野を確立することを目的としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教育基本法における教育の理念について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、現行の教育基本法の全体的な方針、法令上の位置づけについて概要をまとめ、関心のある条文を一つ選んで要約すること。

○通信授業課題 2
義務教育の制度について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、義務教育の根拠となる教育制度について概要をまとめ、小学校や中学校などの機能や役割について要約すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 2 部を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書第 2 部各章の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。
「教育原理 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一『新しい教育通義』（武蔵野美術大学出版局　2018 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	教育心理学						
授業コード	1620	授業科目名	教育心理学			担当者	桂瑠以講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育心理学の知見に基づく教授法ならびに学習指導の原理や仕組みに関する基礎的事項の理解、把握を目標とする。なかでも特に、近年の学校教育で重視されている学習者主体の指導・教授について、自主性や主体性を育てる指導・教授に必要な条件、それらが損なわれる際に引き起こされる問題などの観点から考察する。教科書では、1. 様々な学習の仕組みや原理、2.「やる気」と呼ばれる心理状態、3. 教授方法・学習指導の形態、4. 教育評価を中心に、教師による教授と生徒の学習に関する概観を把握する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
自己や他者の経験をふまえ、実際の学習活動において「やる気」が高められた事例、逆に「やる気」が低下させられた事例を分析研究する課題。

○通信授業課題 2
教科書をふまえて、教育心理学的知見から、学習動機を高め、持続させる教授・学習指導法を考察する課題。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書の第 3 章、第 4 章、第 6 章、第 7 章を使用する。課題に取り組む前に、各章を熟読すること。
第 3 章 ほめることの大切さ
古典的条件づけによる学習／道具的条件づけによる学習／観察による学習／自己強化による学習
第 4 章 「やる気」を考える
期待ー価値モデル／統制感／原因の考え方／内発的動機づけ
第 6 章　どのように教えるか
学習指導の形態／発見学習／受容学習／グループ学習と個別学習の具体例／適性処遇交互作用
第 7 章 児童・生徒をどう評価するか
教育の成果を評価する／評価のための情報を得る方法

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書の該当部分より論述形式の問題を出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2 年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣　1999 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	特別支援教育						
授業コード	1900	授業科目名	特別支援教育			担当者	高橋陽一教授、杉山貴洋講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

特別支援教育全般の理念と理論について教科書を活用して理解する。さらに実践力を養うために、美術教員として特別な教育的ニーズをもつ小学校児童や中学校・高等学校生徒を念頭において、特別支援学校、特別支援学級及び通常学級における全般的な実践課題を理解し、子どもの理解、教育課程の構想と指導・支援の基本を学ぶ。

目標としては、(1) 発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもの障害の特性と心理の発達とインクルーシブ教育を含む特別支援教育の理解、(2) 発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法、(3) 障害以外の特別の教育的ニーズのある子どもの学習上及び生活上の困難への対応を理解して、特別支援教育の理解と実践力を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「インクルーシブ教育とは何か」
まず教科書第 1 章を熟読し、さらに第 2 章と第 3 章を踏まえたうえで、今日の学校と社会の課題からインクルーシブ教育とは何かを整理すること。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

○通信授業課題 2
「障害や多様なニーズに対応する教育とは何か」
まず教科書第 4 章以後を熟読して、様々な障害や障害以外の特別な教育的ニーズについて考え、学校でどのような配慮をするべきか教師としての立場で実践的に記すこと。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『特別支援教育とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子『特別支援教育とアート』

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

【その他】

科目名	道徳教育の理論と方法						
授業コード	1720	授業科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	高橋陽一教授、亀澤朋恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、道徳に関する人間と社会の在り方を考え、学校における道徳教育の意味を探求するものである。道徳が社会の中で果たす意味を歴史と現代社会において検討し、それをもとに、学校教育において道徳教育とはいかにあるべきかを考える。「道徳」なるものが自明の前提ではなく、研究され、そして課題となるものとして深く考察する姿勢が望まれる。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「道徳とは何であったか」
歴史上の事象でも、個人の体験でも、あるいは作品の中の世界でも、「道徳」が如何に語られ、それについてどう考えるかを教科書と学習指導書を踏まえて論じること。学校教育以外のテーマでよい。

○通信授業課題 2
「学校で道徳をどう教えるか」
中学校又は高等学校において、道徳をどう教えるかを考えるレポート。かならず授業の目的と時間配分、教材について明示すること。その他学習指導書で示された条件をふまえること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『道徳科教育講義』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。具体的な通信授業課題は学習指導書に説明しているので、十分に読んでほしい。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
3年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一・伊東毅『道徳科教育講義』（武蔵野美術大学出版局　2017 年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（教育出版　2017 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

旧科目名：道徳教育の研究

科目名	総合的な学習の時間の指導法						
授業コード	1910	授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			担当者	高橋陽一教授、川本雅子講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことで、子どもたちの課題探求能力やよりよく生きていくための資質・能力を育てるためのものである。美術教員を目指す学生がこの指導法を獲得して、さらにチーム学校で総合学習を牽引するためのアクティブ・ラーニングの効果的な手法であるワークショップの技法を修得することをテーマとする。

到達目標としては、（1）総合的な学習の時間の意義や学校教育における位置づけを理解して美術教員がチーム学校の一員として率先して担うべき志向を体得し、（2）総合的な学習の時間に関する学校としての全体計画、年間指導計画、単元指導案などを作成する能力を獲得して美術教員として言語活動や記録と表現を促進するワークショップ技法に熟練し、（3）生きる力としての思考力・判断力・表現力、課題探求能力や問題発見能力などを子どもたちが獲得するための指導と評価の考え方を理解して、子どもたち自身の記録と表現としての自己評価・ポートフォリオ評価や教師による学習状況の評価方法などの知識と技術を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「総合的な学習の時間の概要と可能性」
教科書をもとに、今日における総合的な学習の時間はどのようなものかを概説すること。その上で、自分自身の観点を含めて、総合的な学習の時間が子どもたちにどのような可能性を提供するかを論じること。

○通信授業課題 2
「総合的な学習の時間で取り組むテーマと計画」
自分自身の知識や関心をもとに、校種・学年などを仮想して、総合的な学習の時間に取り上げるべきテーマを設定すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『総合学習とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
なし

【教材等】

○教科書
高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子・有福一昭『総合学習とアート』（武蔵野美術大学出版局 2019年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	特別活動の理論と方法						
授業コード	1730	授業科目名	特別活動の理論と方法			担当者	橋本萌講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「特別活動の指導法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。特別活動についての全般的な理解を深めると同時に、特別活動が抱える今日的課題を受講者の問題意識に沿いながら考察する。教科書では、「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」のもつ問題点を個々に取りあげながら、特別活動という領域のもつ内容的広がりを多様に構想できるようになることを目標とする。その上で、教育の現状に対する自分なりの視点・視角をもつことができるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
教科書を踏まえて、「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」について個々の現状を把握する。その上で、「批判」「分析」「提言」の三段階をもって考察し、「私のつくる特別活動」の構想を課題とする。

○通信授業課題 2
教科書を踏まえて、学校教育の抱える今日的課題（特別活動に関する）を自分なりにまとめる。その際に、自分固有の問題意識をもつことを条件とするが、「自主性と共同性」という視点からの考察が望ましい。
＊「問題意識」：自分がこだわっている考え方、価値観など。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。
＊必ず「タイトル」を記載すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『未来の教師におくる特別活動論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。
第 1 章　「特別活動」とは何か
第 2 章　学級活動・ホームルーム活動（その 1）
第 3 章　学級活動・ホームルーム活動（その 2）
第 4 章　学級活動・ホームルーム活動（その 3）
第 5 章　生徒会活動
第 6 章　学校行事
第 7 章　クラブ活動と部活動
第 8 章　諸外国の教科外活動

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
伊東毅『未来の教師におくる特別活動論』（武蔵野美術大学出版局　2011 年）
文部科学省編『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（東山書房　2017 年）
文部科学省編『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（東京書籍　2019 年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

旧科目名：特別活動の研究

科目名	教育方法						
授業コード	1630	授業科目名	教育方法			担当者	三澤一実教授、北沢昌代講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

教育計画は教育の理念や目標を具現化し、実践可能な授業としての形を作ることである。その場合、指導方法についての研究や、題材論、素材や用具についての知識、教育環境の整備など多岐に渡る視点が必要となってくる。ここでは、授業を成立させる要素についての理解を深め、美術教育法や工芸教育法、情報教育法などを通して構築した教育の理念を効果的に実践するための方法を研究する。具体的には学習指導案や年間指導計画表、週案の考え方などを学習し、模擬授業へと発展させる。

【課題の概要】

○面接授業課題
「それぞれの履修科目に応じた学習指導案を作成し、模擬授業を行うこと。」
学習意欲こそが基本的な学力であるとする視点に立ち、各題材の導入部分を中心とした模擬授業を実施する。

○通信授業課題　返却用の封筒を同封すること
「生徒の主体性を生かした年間指導計画と、その中の一題材についての学習指導案及び、その題材で用いるワークシートを作成すること。」
現代の開かれた学校教育の理念を生かし、学習指導要領に基づいた発展性のある授業計画を考える。
面接授業内で，本課題の解説を行うとともに課題説明プリント、および課題用紙を配布する。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。
＊年間指導計画、学習指導案、ワークシートを一括して提出すること。

【授業計画】

面接授業　→　通信授業

○面接授業
教育計画の意味や目的を理解し、その具体的な作成方法を学習する。またそれぞれの状況に応じた指導方法を研究し、指導力の育成を図る。
第 1 日　教育計画の考え方、各種指導案の研究、教育環境の設計
第 2 日　学習指導案の制作
第 3 日　模擬授業による討議、講評

○通信授業
面接授業での学習をもとに，武蔵野美術大学出版局刊『美術の授業のつくりかた』、各学習指導要領解説を中心として、学習意欲を引き出す主体的な学習活動を基本とした教育方法を研究する。
・『美術の授業のつくりかた』第 2 章・3 章・4章　授業の組み立てと学習指導・教科経営・題材開発研究
・各学習指導要領解説

【成績評価の方法】

面接授業課題及び通信授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「工芸教育法Ⅰ・Ⅱ」などの教育内容の理解が前提となるために、登録している免許に応じてこれらの科目を修得または同時に履修登録をすることが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書
三澤一実編『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
（美術・工芸免許状登録者）　文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版　2017 年）※
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書　2019年）
（情報免許状登録者）　文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版　2019年）
※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021年）

※ スクーリング時にセット販売
（美術・工芸免許状登録者）　文部科学省検定済中学校教科書『美術 1』，『美術 2・3』（開隆堂出版）
文部科学省検定済高等学校教科書『高校生の美術 1』，『高校生の美術 2』，『高校生の美術 3』（日本文教出版）
文部科学省検定済高等学校教科書『工芸Ⅰ』，『工芸Ⅱ』（日本文教出版）
（情報免許状登録者）　文部科学省検定済高等学校教科書『新・社会と情報』，『新・情報の科学』（日本文教出版）

【その他】

参考図書：大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

科目名	生活指導の理論と方法						
授業コード	1740	授業科目名	生活指導の理論と方法			担当者	渡辺典子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可　科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「生徒指導の理論及び方法」と「進路指導の理論及び方法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。指導の背後にある基本的な理論をふまえた上で、生活指導の歴史的・社会的意味について考察する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「教員として子どもに関わる立場から、学級崩壊現象について論じなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2
「児童・生徒の主体性をどのようにのばすかについて述べなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『これからの生活指導と進路指導』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。
第 1 章　学校教育における生活指導
第 2 章　学校教育における進路指導
第 3 章　生活指導とは何か
第 4 章　生活指導の方法
第 5 章　進路指導の歴史
第 6 章　進路指導の理論
第 7 章　キャリア教育の理念・実態・課題
第 8 章　不登校とサポート体制づくり
第 9 章　文部科学省のいじめ対策
第 10 章　いじめへの対応と学級活動・生徒会活動
第 11 章　ジェンダーと学校
第 12 章　多文化教育と学校
第 13 章　問題行動と生活指導
第 14 章　十八歳成人と主権者教育
第 15 章　懲戒と指導

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

旧科目名：生活指導の研究

科目名	教育相談論						
授業コード	1750	授業科目名	教育相談論			担当者	伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可　科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則上の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に相当するものである。教育相談やカウンセリングの理論・実践を、その歴史的経緯をおさえながら学ぶことを目的とする。教育相談やカウンセリングの成り立ち、及びこれらが立脚する基礎理論を学ぶことからはじめ、いじめ・不登校・非行などの諸問題にかかわる具体的な実践をも考察していく。

具体的な到達目標は、(1) 学校における教育相談の意義と理論やこれに関わる心理学の基礎を理解し、(2) 生徒の不適応や問題行動の意味を知るとともにそのシグナルを受けとめる方法を理解するとともにカウンセリングマインドの必要性と基礎的技法を理解し、(3) 生徒や保護者に対する教育相談の目標の立て方や進め方を例示することができたり、諸問題に対する発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方や各機関との連携の意義や必要性を理解すること、である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1
「フロイトに基礎を置く精神分析療法とロジャーズに基礎を置くカウンセリングのそれぞれの特徴を指摘した上で、それらのメリットおよびデメリットについて論じなさい。」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2
「いじめ・不登校・非行などの教育問題に対して、どのような教育相談の方法やシステムが有効か、これまでの文部科学省（含かつての文部省）の対策にも触れながら論じなさい。その際、議論を具体化するために、一つの教育問題に焦点を絞ってもよい。」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
教科書『新しい教育相談論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。
第 1 章　教育相談とは何か
第 2 章　教育相談をめぐる学校教育政策の動向
第 3 章　教育心理学の基本
第 4 章　発達理論の基本
第 5 章　友人関係・社会性の発達
第 6 章　発達障害の理解と支援
第 7 章　カウンセリングの基本
第 8 章　心理療法の理解
第 9 章　いじめの実態と対策の動向
第 10 章　不登校の実態と対策の動向
第 11 章　非行少年の実態とその処遇
第 12 章　問題行動とカウンセリング
第 13 章　道徳教育と教育相談
第 14 章　多文化をめぐる対応
第 15 章　宗教と多文化をめぐる学校教育政策の動向

【成績評価の方法】

◎科目試験
教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
2 年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書
高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局　2016 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

科目名	教育実習 Ⅰ						
授業コード	1770	授業科目名	教育実習 Ⅰ			担当者	教授 輔一、教授 澤圭一、教授 高坪三、教授 伊東毅、教授 大橋陽一
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は、実習校においてその学校の指導教諭の指示のもとで、観察実習、授業実習、研究授業等の形態で行われるものである。しかし、実習生は、その学校の生徒にとっては教師を目指している人、つまり「先生」としてみられるのであり、実習生の高い自覚と十分な研鑽が求められる。

なお教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は本授業のみの 2 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題
実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業
「教育実習 I」のみの場合は 2 週間又は 3 週間、「教育実習 II」と併せて行う場合は 3 週間又は 4 週間にわたる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに、『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
教職課程に登録していること。
「教育実践の理論と方法」の第 1回から第 3回の事前指導をすべて受けた 4年次の者に限る。
その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備　　考
なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第 3 回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたす場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実習 Ⅱ						
授業コード	1780	授業科目名	教育実習 Ⅱ			担当者	教授 輔一、大坪 圭三、教授 澤 高毅、実教授 橋 陽一、教授 伊東 毅
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「教育実習 I」に引き続き、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は「教育実習 I」のみの 2 週間又は 3 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題
実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業
「教育実習 I」と「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間となる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
教職課程（別表第 1 の中学 1 種［美術］）に登録していること。
「教育実践の理論と方法」第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。
その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備　　考
なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第 3 回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたす場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実践の理論と方法　教育実践の理論と方法(1) 教育実践の理論と方法(2)						
授業コード	下表参照	授業科目名	教育実践の理論と方法　教育実践の理論と方法(1) 教育実践の理論と方法(2)			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習の事前事後指導である。教育実習を行うにあたっての基礎的な知識と心構え、実習校との各種手続を含む事務的な連絡などをオリエンテーション形式で行う。

【課題の概要】

○面接授業課題
第 1 回・第 2 回の面接授業を受けるに際して、月刊誌『武蔵美通信』別冊『スクーリング持参物』により告知して予めレポート課題を指定し、当日これを回収する。課題は、教育実習にあたっての準備や心構えなどに関することで、テーマは適宜指示する。

【授業計画】

○面接授業
教職課程登録年次から 4 年次(教育実習受講年度)にかけて合計 3 回の授業すべてに順番に出席すること。

第 1 回　教職課程登録年次
教育実習の理念と実際、教育実習までの日程概要、美術・情報に関する視聴覚教材の上映、第 1 回小論文提出

第 2 回　3 年次(教育実習前年度)
教育実習の事前学習の指導、教育実習についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、教育実習までの各種手続の説明、第 2 回小論文提出

第 3 回　3 年次(教育実習前年度)又は4 年次(当該年度後期教育実習予定者)
教育実習の直前指導、美術・情報についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、各種手続の説明
事後指導　(4 年次　通信の方法による)
教育実習終了報告書の提出

【成績評価の方法】

提出された小論文及び出席状況、教育実習終了報告書によって採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
*下表参照

○履修条件
教職課程に登録していること。

○備　　考
下表のとおり履修登録し、面接授業第 1 回～第 3 回に順番に 1 回ずつ出席すること。
後期に実習を行う場合は、面接授業第 3 回を実習年度で受講することができる。
教育実習後に本学指定様式の「教育実習終了報告書」を提出し、合格する事によって、単位修得となる。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

『教育実習日誌』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程)※ 第 3 回面接授業時に配付

【その他】

実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において予め行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

旧科目名:教育実践の研究

＜各年次の履修登録と面接授業の受講回＞

年次	授業コード	履修登録科目	受講する面接授業
教職課程登録年次	2100	教育実践の理論と方法(1)	面接授業第1回(春期または夏期)
3年次(教育実習前年度)	2110	教育実践の理論と方法(2)	面接授業第2回(春期または夏期)
	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(春期)
4年次(教育実習受講年度)	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(夏期)
			※当該年度後期実習者のみ

科目名	教職実践演習（中・高）						
授業コード	2270	授業科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位（T1、S1）	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）　面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習を行った者が免許状を受ける前に学校教育全般と免許科目（中学校美術、高等学校美術・工芸・情報）にわたって、自分自身の教育実習を踏まえて教員としての能力の向上の課題を把握して、教育現場で指導力を発揮するための演習科目である。具体的には、オリエンテーションを受講し、通信課題のレポートを作成して合格し、面接授業では演習に参加して発表や討議を行って、教職課程の「総まとめ」「総仕上げ」を行う。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題
指定された様式に基づいて「教育実習の概要」（Ａ４判１枚）を当日に提出すること。

○通信授業課題
「教科教育以外の教育実習の反省」
上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。

○面接授業課題
「研究授業学習指導案」（実際に実施したもの）と「教科教育の教育実習の反省」
上記の課題については、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述し、当日提出すること。

＊課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教育実習　→　オリエンテーション　→　通信授業　→　面接授業
　*教育実習、オリエンテーションは順不同

○オリエンテーション
この授業科目の目的や具体的な学習内容などを説明する。各自から提出されたオリエンテーション課題により、討議や質疑応答なども行う

○通信授業
教育実習を終えて、学校教育全般についての学習の総まとめとして、通信課題に取り組み、教員として能力の向上ための自分自身の課題を明確にする。

○面接授業
教育実習を終えて、教科教育などの学習の総まとめとして、演習に参加して、教員として能力の向上ための自分自身の課題を明確にする。
・前提講義
・設定したテーマと各自の面接授業課題レポートに基づく発表と討議
・講評

【成績評価の方法】

面接授業の講評などを基に評価する。この授業科目は教育職員免許法施行規則の改正による新課程で追加となった授業科目として、厳正な成績評価が求められるもので、オリエンテーション提出物から面接授業講評にいたる情報のほか、毎年度の履修カルテ等の提出物、教育実習の状況等をふくめて担当教員全員の合議による評価を行う。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
教職課程に登録していること。当該年度内に教育実習を行う予定であるか、前年度までに教育実習を終了していること。
「教育実習Ⅰ」（中学 1 種・高校 1 種）または「教育実習Ⅱ」（中学 1 種のみ）、「教育実践の理論と方法」の単位を修得しているか、同時に履修登録していること。

○備　　考
オリエンテーションを受け、さらに通信授業に合格したうえで、面接授業を受講する。必ず教育実習を終えてから通信授業課題に取り組むこと（日程等の都合上、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の単位が未修得である場合も通信授業課題の提出可能）。教育実習が中止となった場合は、オリエンテーションの受講はできない。

【教材等】

○教科書
『求められる美術教育』大坪圭輔編（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『美術の授業のつくりかた』三澤一実監修（武蔵野美術大学出版局　2020 年）

○学習指導書
『造形文化科目　文化総合科目　教職に関する科目　2021 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2021 年）

【その他】

平成 24 年度までに「教職総合演習」の単位修得をした者（旧課程適用者）はこの授業科目を履修する必要はないが、旧課程適用者でも平成 24 年度までに「教職総合演習」の単位修得ができなかった場合は、この授業科目の履修が必要となる。

科目名	介護等体験						
授業コード	1800	授業科目名	介護等体験			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、介護等体験特例法によって小中学校の免許状授与にあたって義務づけられた介護などの体験とその事前事後指導である。介護等体験では、社会福祉施設や特別支援学校において合計 7 日間の介護、介助、交流などを行う。この授業では、介護等体験をするにあたっての準備を整え、7 日間を自分にとっても高齢者・障害者にとっても有意義に過ごしていくものである。また、介護等体験の終了後にその記録を作成して、これからの教育実践に生かしていくことをも目標とする。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題
オリエンテーション前に『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験を行うにあたっての考えをレポートすること。

○面接授業課題
介護等体験を踏まえて『介護等体験ガイドブック』のなかの日誌部分に記録し、介護等体験終了レポートと共に提出すること。

【授業計画】

○オリエンテーション
『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験の理念や在り方、社会福祉の意義などを考え、これらをレポートにまとめてオリエンテーション時に提出すること。

○面接授業
各社会福祉協議会及び教育委員会の定める手続きに従い、原則的には特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間の合計 7 日間の介護等体験を行う。実際の日程や内容などは、学校や施設により異なる。
この介護等体験にあたっては毎日の日誌をつけ、記録を作成すること。

【成績評価の方法】

提出されたレポート、オリエンテーションの出席状況、介護等体験の内容と記録を合わせて採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
教職課程（別表第 1 適用の中学 1 種［美術］）に登録していること。

○備　　考
2 年次以降にオリエンテーションを受け、翌年度に介護等体験を行う。オリエンテーション受講年度と介護等体験受講年度に履修登録が必要。

【教材等】

○教科書
なし

○学習指導書
なし

※『介護等体験ガイドブック』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）

【その他】

地域ごとに定められた手続きに従い、各種の調整など学生の責任において行うことが多い。また実施日程は受入施設等の予定にあわせることになる。その他、定められたルールや条件を満たした場合のみ実施が可能となるので、十分な自覚をもって臨む必要がある。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程
2021 年度　シラバス　学2課程

2021 年 4 月 1 日発行

発行：武蔵野美術大学造形学部通信教育課程
〒180-8566　東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7
電話　0422-22-8171～5

印刷：山浦印刷株式会社

©2021 Musashino Art University